

病院専用セット

誰でも補正ができます

NAORUN

ナオルン人工爪：巻き爪・陥入爪の補正セット

巻き爪・陥入爪・剥離爪・はがれ爪・肥厚爪 etc.

趾爪・手の爪に関する一切のトラブルを
ガラスフィラーとゴムフィラーを使い、
ナオルン専用ライトを当て
3秒～20秒の照射で瞬時に補正が可能！
痛くない切除法です。



原 理

- A 巻いて刺さっている爪を切除して、健康な後爪郭部の両サイドを土台とし
ガラスフィラー (A) で切除した部分の人工爪を作る。
- B 爪甲にガラスフィラー (B) を全体に広げ爪甲と完全に合体、一体化させ
誘導し、強制的に平滑な爪を伸ばす補正をします。
- C ゴムフィラー で趾爪に近い弾力を持たせ衝撃を分散・吸収させ自爪に近い
構造を再現させます。

※ナオルン人工爪はアクリル人工爪とは全く違う商品です。

※人工爪は[ナオルン人工爪]と名称して下さい。



PCT国際特許出願（特許申請/ナオルン専用ライト及び主要商品）
NAORUN人工爪——商標登録済——

©著作権表示 — NAORUN 詳細 Book 説明書 (DVD) バンフレット類・HP・複製権・JP
(C) 2016 All rights reserved Mizuki-TAISEI.

目 次

- 人工爪は、[ナオルン人工爪]と名称して下さい。(アクリルの人工爪ではありません)
- ナオルン人工爪は巻き爪、陷入爪を補正するセットです。
- 第4章では他の爪のトラブルにもナオルン人工爪で補正する施術法が載っています。
- ナオルンはペンカルン(カルン)の施術が完璧な場合絶対に取れない商品です。
- 重度の方以外痛みがほとんどなく不用部分の爪が切除できます。

ナオルン人工爪の特徴 27のポイント 1

●第1章 概要

- ナオルン人工爪セットの各商品名称 2
- [施術前の準備]と[ナオルン人工爪]を作る手順(作業の流れ)について 9

●第2章 施術前の準備

- 用意する物・個人防護具について 5
- 患者の施術時の姿勢について 6
- 爪上皮(甘皮)の処理の重要性 6
- ナオルンエタノール96%について 4
- ナオルンエタノール96%の8つの使用目的 4
- 取れないナオルン人工爪にするには? 3
- 施術前の器械(器具)のセッティング方法・器具の消毒について 7
- 問診と視診について 8
- 施術前の準備[ナオルン人工爪を作る作業の流れ] 9
- P.9の施術前の準備の解説 10~12
 作業1~作業14
- 重度の爪・要注意の爪の施術前の準備 P.9の追加項目 38
- シールンの使用方法 趾爪用 27~31
 手爪用 32
- シールンを使用しない爪 30

●第3章 施術方法(補正) [巻き爪・陷入爪]

- 不要部分の爪の切り方 23~26
 [基本形] 23
 [軽度~中度] 24
 [中度の硬い爪 or 肥厚爪] [厚硬爪] 25
 [重度] 26
- 基本的なナオルン人工爪の作り方 [基本形] 13~15
 作業15~作業19
- 後爪郭部の両サイドに作る米粒1/2のフルトロンについて 16
- ナオルン人工爪の作り方(補正方法) 13~49
- [趾爪] [基本的]な人工爪の作り方 13~15
 [軽度~中度]の人工爪の作り方 33~35
 [重度A]の人工爪の作り方 36~38
 [重度B]の人工爪の作り方 39~40

目 次

〔重度 C〕 の人工爪の作り方 (ストローネイルについて)	41 ~ 44
〔重度の肉芽を伴う〕 巻き爪、陷入爪の人工爪の作り方	46 ~ 49
○軽度の肉芽処置方法・軽度の肉芽を伴うナオルン人工爪の作り方の手順	45
○重度の肉芽処置の後のフルトロンを使っての硬い包帯として使用する方法	47-F
○重度の肉芽処置の後靴をはいて帰れるフルトロンの使用	48-G
○手爪トラブルの補正の仕方	50-51
●初回再診 (植え足しが必要な方) (植え足しの必要無い方)	17
●2回目からの再診・植え足しの手順・再診の植え足しの頻度	18 ~ 20
●ナオルン人工爪を外す時期	21
●ナオルン人工爪の取り方 (外し方)	22

●第4章 各種爪の症状の原因と補正方法

○ナオルン人工爪が使用できない爪	52
○ナオルン人工爪が使用できる爪	52
〔肥厚爪・厚硬爪・爪甲下角増殖・爪甲鈎湾症〕	53 ~ 54
爪甲剥離爪	54
〔趾爪〕 剥離爪+巻き爪+陷入爪	55
爪上皮に近い爪甲の脱落	55
剥がれ爪 (靴をはいて帰れます)	55
外傷爪	55
副爪	57
変形爪	57
埋没爪の巻き爪・陷入爪	56
無爪	58
爪甲剥離	58
緑色爪	59
外反母趾・内反小趾による巻き爪・陷入爪	59
線状爪甲白斑爪 (点状爪甲白斑)	59
爪甲軟化症爪	59
爪甲縦裂症爪	59
○商品別で判断する爪の補正の症例	60
○重症な爪の補正出来る爪 (翼状爪膜 etc.)	67
○見た目だけ綺麗にする爪 (完治、治療出来ない爪)	67
○ナオルン人工爪における巻き爪・陷入爪の施術前と施術後の症例写真	61
○その他の重症な爪の症例	61

目 次

●第5章 単品商品説明

○フルトロン・ナオルンライト・PPペストロ・ラバシン 他	
合計 20 点について	62 ~ 67
●再発防止について	
ナオルン人工爪での再発防止の為の補助補正方法	68

●巻き爪・陷入爪になる原因 36 ポイントと原理について 72

○抜爪とフェノールについて	
○アクリル人工爪と【ナオルン人工爪】の違いについて	78
○神経ブロックにアレルギーを持っている方について	78
○巻き爪・陷入爪を自分で【爪切り】で切っている患者の爪の特徴	78
○自費診療の目安について	78

●第6章 看護師用追加資料

多くの場合ナオルン人工爪は看護師様が施術して頂いております。痛い部分の爪を切り人工爪を作る施術です。基本の爪についての資料を添付致しました。

○間違った爪の切り方	70
○趾指型 3 種による巻き爪・陷入爪になり易い趾爪	70
○爪の名称	70
○爪の巻き方・くい込み方の種類	70
○爪の成分・厚み・伸び率 etc.	70
○爪とは？	70
○爪上皮について（甘皮）	70
○爪母について	70
○末節骨の構造と働きについて	70
○巻き爪と陷入爪との違いと特徴について	71
○陷入爪に間違い易い症例の爪	71
○3本の足裏アーチについて	73
○趾指のストレッチ方法	74
○アーチが崩れる原因	74
○靴が原因の巻き爪・陷入爪について	74 ~ 75
○巻き爪・陷入爪の種類について	76
○巻き度数による爪の特徴	76 ~ 77
○度数表	77
○ヤスリの持ち方とヤスリのかけ方	79 ~ 80
○テーピングの仕方 4 種類	
A（軽度）・B（重度）・シールン使用方法・フィンガーサック使用方法	81 ~ 82
○コストと自費診療の目安	83
○単品注文の仕方	
○施術についてのお問い合わせ AM7:00 ~ PM21:00	83
○単品注文書（FAX 用）	84

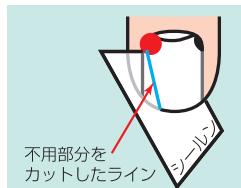
巻き爪、陷入爪の基本的な補正方法

■ A から I の順番を把握して施術を開始して下さい。基本的な補正の仕方参考 P.13 ~ P.15

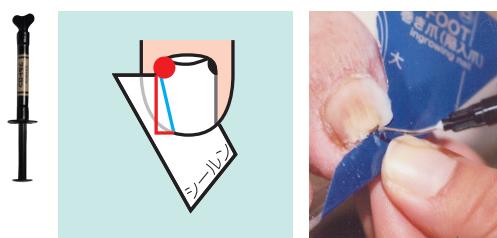
施術前の準備が終わってから行う (P.9 参照)

巻いて、陷入している不用部分の爪をナオルンニッパーで切ります。誰でも施術できます。

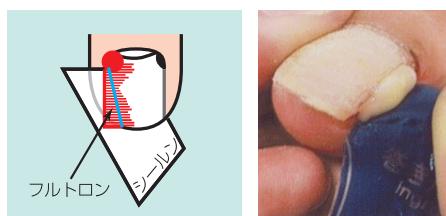
A フルトロン(ガラスフィラー)で後爪郭部(甘皮のサイド・●の部分)に米粒1/2のフルトロンの丸いボールを作る。



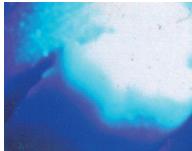
B フルトロン(ガラスフィラー)でラインを作る。



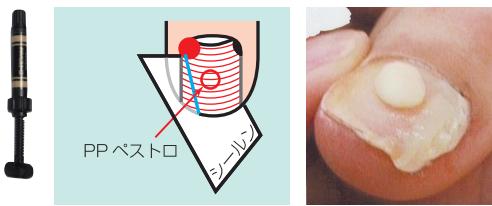
C フルトロン(ガラスフィラー)を左右に動かし薄く自爪と結合させる。



D ライト
フルトロン硬化終了。



E PPペストロ(ガラスフィラー)を必要な量を取り指で丸める。



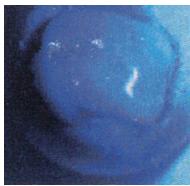
F ライト
硬化



G ラバシン(ゴムフィラー)で人工爪の厚みを調整する。



H ライト
硬化



I 形を整えて終了



- 巻き爪、陷入爪の補正是（他社商品も含め）根治治療です。ナオルン人工爪は世界で唯一完治治療に向けての巻き爪、陷入爪補正セットです。
- 根治した後の再発予防の施術を行う事が可能です。参照 P.68
- 軽度の爪は順番を覚えて慣れると3分～10分で補正終了です。
- 指先で補正出来る簡単な補正セットです。

ナオルンの特徴 27 のポイント

★ ペンカルン（カルン）が完璧な状態で
爪甲にあれば絶対に取れない商品です。

- 1 ● 巻き爪、陷入爪、他の殆どの趾爪・手爪の爪トラブルに使用できます。
- 2 ● ニッパーを使い不用部分の爪を切るだけなので、基本痛みもなく誰でも使用でき簡単。
- 3 ● 不要部分を切り取った後、ガラスフィラー（フルトロン）で正常な形の人工爪を作ります。
- 4 ● 爪甲全体にガラスフィラー（PP ペストロ）を広げ伸ばし、爪甲と一体化（合体）させ、爪を平滑に伸ばします。爪甲側縁が湾曲、陷入せずに伸びます。
- 5 ● ナオルン専用ライトを当てない限り固まらないので施術し易い。（UV ライトではありません）波数、波長申請済
- 6 ● ガラスフィラーの上にゴムフィラーをのせて作ることにより、趾爪の衝撃を分散・吸収させ自爪に近い構造になります。
- 7 ● PP ペストロやラバシンは指先で作るのでとても簡単です。
- 8 ● 爪甲だけに完全結合。皮膚等には固まっても結合しません。又、再発予防としても使用します。
- 9 ● 白癬菌・乾癬等でも内服薬の方は使用できます。
- 10 ● 幼児にも使用できます。
- 11 ● 施術中の痛みがほとんどありません。（神経ブロックが必要な場合は別）
- 12 ● 再発性がどの様な処置より低い。
- 13 ● 軽度の施術時間は、慣れると 10 分程で終了。
- 14 ● 重度の爪の再診補正は3分程で終了。伸びた自爪にフルトロン・ソフトラバーを植え足すのみ。
- 15 ● 軽度の巻き爪・陷入爪は、1回の補正で終了。
- 16 ● 重度の巻き爪・陷入爪でも平均 3～4 カ月で終了。
(20代は 2～3 週間に 1 回補正し 3 回ほどで修了) (年配者は 1 カ月に 1 回補正にて、3～4 回)
- 17 ● 本物の爪の様な仕上がりが可能。
- 18 ● 手爪用は透明色に仕上げられます。（別売）
- 19 ● マニキュアやネイルサロンでアートもでき、自分の爪の様な生活ができます。
- 20 ● 除光液、アセトン等、どの様な溶剤にも溶けません。
- 21 ● 新しい包帯としてフルトロンを使用し硬い包帯として、サンダルを履かないでその日から靴が履け、シャワーも使用できます。（ナオルンは皮膚には完全合体しません）
- 22 ● 肉芽形成の処置として固いカバーとしてフルトロンを使用。（止血と包帯代わりとして使用）
- 23 ● 止血の為にフルトロンを使用できます。（すぐに止血できます）
- 24 ● 接着剤として使用。（爪甲の外傷、亀裂）爪甲を縫うなど、他の方法よりも簡単。どの接着剤よりも強力に接着、一体化する。
- 25 ● 脱落して無くなった爪甲を簡単に本物の爪の様に再現。
- 26 ● 糖尿病爪・膠原病リウマチ爪・小さい爪・短い爪を理想の長さと形に作れ、また壊死を防ぎます。
- 27 ● 外傷後の爪変形補正。

★ 基本的な巻き爪、陷入爪以外の爪の疾患の爪は、検査をし内服薬を使用できる方はナオルンをご使用できます。

第1章 概要

■商品(キット各部名称) JP 人工爪は【ナオルン人工爪】と名称して下さい。

アクリルの人工爪とは全く違う商品です。



※デザイン・容器の色は変更になる場合があります。
※施術後必ず消毒をしNaorun BOXに戻して保管して下さい。

- ペンカルンはボトル式になる事があります。
- Naorun詳細 Book はご購入前にも単品販売しております。

・NaorunセットにはNaorun詳細Book・NaorunDVDが付属されています。
・単品商品詳細Bookを事前にお買い上げの場合、割引価格は致しかねます。

■保管方法

- 0℃～27℃の冷暗所で保管。納品後1年程しばらく使用しない場合は冷蔵庫で蓋を下にして保管。
- ユージノールを含有する製品と同一場所に保管しない事。
- Naorun専用ライトは充電して発送しています。しばらく使わない時は中に入っているバッテリーを外して保管する事。(バッテリーが消耗する為)
- Naorunライトを使用した日は夜間に必ず朝まで充電をして下さい。(必須)

■注意

高温・直射日光に晒さない事。溶剤が手に付いた後は手を洗う事。目に接触した場合は多量の水で洗浄後、医師の診断を受ける事。

■禁止

防護メガネを使用する事。Naorun専用ライトの防護板を使用する事。Naorun専用ライト以外のライトの使用は危険です。キャップはしっかりと締め、アルコール等で消毒する事。アクリレート、メタクリル系、フタル酸にアレルギーがある場合は使用禁止。ペンカルンのペン先を直接爪甲に触れない事。先端チューブは基本一人1本、錆びたら破棄する事。手袋は使用したら破棄する事。Naorun人工爪以外の目的での使用禁止。有効期間を過ぎた製品を使用しない事。(未使用、冷蔵庫保管2年)

■ 補足説明

（重要） 取れないナオルン人工爪にするには？

☆答え P9 の施術前の準備をしっかり行って下さい。特に以下 8 点は重要な点です

- ★ 1 爪甲の表面と凹爪甲溝をしっかりとナオルンマシーンの針状で削る。
削りが足りないと爪甲にナオルンエタノールが入り込みません。特に後爪郭部は念入りに行う。
爪の中の油分・水分が取れない為。
- ★ 2 削り粉をしっかり払う。粉が残っていると取れ易くなる為。
- ★ 3 エタノールは 96%以上無水エタノールを使用。又、密封容器のスプレー式を使用する事。
濃度が低いと爪甲の油分・水分が十分に取れません。脱脂綿での拭き取り厳禁。効果が出ません。
また瓶タイプだと成分が蒸発して水分と臭いだけで効果が無くなります。
- ★ 4 最後のエタノール（P.9 作業 6）の後、冷風ドライヤー（強風）で爪甲の表面、窪んだ爪溝の隅々。
爪甲側縁まで真っ白になるまでしっかりと乾燥させて油分、水分を取ります。爪甲が白くならない場合、爪甲全体の表面削り（P.9 作業 4）が足りないので、やり直しをする。（爪甲内に油分、水分が残っている状態です）10代の子供は白くなりやすい事あり。（水分が多い為）→ペンカルンを多目に厚く作り対応する事。
- ★ 5 ペンカルンを爪甲全面（特に後爪郭部・爪甲側縁）と爪の厚みにも充分に塗る。重度になるほど多目にペンカルンの厚みをつくる。
- ★ 6 ペンカルンを塗った後は 10 秒動かさず爪甲を平行に持ち爪甲の上の厚みを均一に安定、定着させる。（強固な被膜を作る為）重度の爪は 1 分位安定させる事。爪甲に浸透しません。固まりませんので触らないで下さい。
- ★ 7 ペンカルンを塗った後はドライヤー（冷風）で必ず不純物を蒸発させる。（弱風ドライヤー 10～20 秒）
(重度の爪は 30 秒～40 秒) ペンカルンを塗った爪甲からドライヤーを遠ざけて行う事。（（ペンカルンが動く為）（爪甲の上に被膜を作る為）【重要】必ずドライヤー弱冷風を使用して下さい。）
- ★ 8 爪甲に塗ったペンカルンにナオルン専用ライトを当てて下さい。（重度の爪はライトを長く当てます。20 秒ほど）
化学反応を起こして取れない爪甲の土台を作る原理です。（忘れずに必ず行って下さい）

※軽度の爪より中度の爪の方は①～⑧を全て多く行って下さい。

●重度の爪、要注意の爪の方は施術前の準備 P.9 に追加項目して下さい。P.38 参照。

■ 補足説明

(重要)ナオルンエタノール96%について (P.9 作業1と6 エタノール)

☆ナオルン人工爪には、スプレー式の密封容器で成分96%の濃度の（ナオルン）エタノールを使用しています。

<なぜこのエタノールでなくてはいけないの？>

- ◆ナオルンエタノールの一番の目的は、取れない人工爪にする為に爪甲の油分・水分を取る事です。濃度の低い消毒用アルコールでは十分な効果が絶対に得られません。
- ◆趾爪には様々な菌が存在しているので、できるだけ消毒を多目に行います。
- ◆成分蒸発を防ぐ為、スプレー式密封容器を使用します。高濃度な96%以上無水エタノールは蓋を開けるとすぐに成分が蒸発してしまい、残りは必要の無い成分・水分・臭いのみになってしまいます。拭き取り厳禁。ドライヤー冷風を使用して下さい。(必須)

エタノールやアルコールにアレルギーがある方は、P.9 作業4を入念に行います。又、イソプロパノール、クロルヘキシジングルコン酸塩水溶液、オスバン液などをご使用下さい。(多少人工爪は取れやすくなります) ペンカルンを多目に厚く被膜を作り対応して下さい。



ナオルン専用エタノール
(スプレー式・密封容器)

- 消毒済の物はナオルンBOXに戻して、次の患者様に対応できる様セットします。
- ナオルンライトを使用した日は夜間～朝まで充電して下さい。
- フルトロン・PPペストロ・ラバシン・ソフトラバーの持ち手を見て半分の長さになったら補充して下さい。

<ナオルンエタノール 96%の8つの使用目的>

- ①器具の消毒→乾燥
- ②施術者の手の消毒
- ③患者の爪甲、側爪郭の消毒
- ④爪甲の中の水分、油分の除去。
- ⑤不用部分の爪を切除した後の爪溝への使用。96%なのですぐに角質が柔らかくなる為使用→角質除去、汚れ除去に有効です。
- ⑥緑色爪（グリーンネイル）の処置法として使用→乾燥
- ⑦ PPペストロを爪甲に広げた後に表面の段差をなだらかにする為に使用。（表面ヤスリ不用になります）
- ⑧施術後の器具の消毒

第2章 施術前の準備

用意する物

●冷風付きドライヤー

冷風付きで風量が多いパワーの強い物を使用。冷風のみ使用。



●ナオルンマシーン用単三乾電池 2本

パワーが弱くなったら、マシーンのフタの内側のツメを少し軽く立て直す事。又は乾電池の交換。



＜施術の時に使用＞

①足乗せ用タオル（長方形タイプ）

②タオルの上に敷くキッチンペーパー（ロールタイプ）
切り離さないで3枚程敷く。

施術中に出た粉をそのまま丸めて捨てる。汚れたら、粉が出たらすぐに取り替える事。



③重症度の爪甲を切る為には、医師の使用する先端が鋭く薄い強度のある医療用ハサミ（別売）を準備する。（ドクターのみ使用）

○爪甲剥離子 ○爪甲鉗子 ○細部剪刃 ○細部鋸子
○スキンフック ○爪用ゾンデ
○先端が薄く厚い爪も切れるハサミ……などがあると便利です



医療用ハサミ

・重度になるとナオルンニッパー等では刃先が太く、爪の不用部分が切れません。
・重度肉芽形成の処理の時の浸潤している深い部分をしっかり取る時にも使用。

重度切除用医療ハサミ（別売）。
重度の爪を補正する時に便利です。
ぜひお求め下さい。

個人防護具を着用

●医療用手袋（グローブ）…使い捨て用

稀にPPペストロがグローブに付いてしまう材質のグローブがあります。
その場合は他の材質（ポリ塩化ビニール etc.）などのグローブをお選び下さい。



趾指を握りますので
両手にグローブを使用。

★ナオルン詳細Bookでは、写真の映りが悪くなる為グローブはしないで施術、補正の写真を行っております。グローブは必ずご使用下さい。



医療用マスク（サーボカルマスク etc.）

爪甲を削ったりしますので必ずご使用下さい。

防護メガネ 絶対に光を直接見ないで下さい。

その他 症例に合わせて防護具の変更・着用

PPペストロを使用する時
人さし指の指先でPPペス
トロを爪甲全体に広げます。

(重要) <施術の際の患者の姿勢>**A. ベッドで寝て行う場合**

- 膝を立ててもらう事

B. イスに座る場合

- もう1つ同じ高さのイスに足を置いて膝を立ててもらう事
(その際施術者は低い台を用意するか、床に厚目のタオルを置き、床に膝をつく姿勢で施術を行う事となります)
- ※キャスター付きのイスは使用しないで下さい。

爪上皮の処理について……参照 P.70 参照（重要）

- 爪上皮（甘皮）の上にフルトロン、PPペストロ、ラバシン、ソストラバーをのせない事（爪甲自体が伸びなくなります）（ナオルン人工爪は早くトラブルのある爪甲を伸ばし補正する事を重視しています）
爪上皮が爪甲に硬く、結合していると爪甲が伸びなく、根治→完治まで時間がかかりすぎます。
- 爪上皮（甘皮）を爪甲から剥がす事。
広く厚くなっている爪上皮は切除する事。
- P.9の施術前の準備作業4の時、針状マシーンで厚くなっている爪上皮をけずり取る事、又は柔らかい爪上皮はオレンジスティックで押し上げる事。爪が伸びやすくなり補正が早く終了します。

<その他の注意点>

★ナオルンライトは充電してお届けしていますが、バッテリーから放電していますので、お使いの前は再度8時間充電して下さい。又光が出ても固まりが遅い時も充電して下さい。しばらく使用しない時はバッテリーを取り保管する事。

★看護師用ナオルン防護メガネ（別売）（必須）

★ダストエアプロアー（別売）があると、削り粉を払う際に便利です。その際は、患部の指をビニール袋に入れ粉が飛び散らない様にすること。

★フット用ダスト集塵機（コンパクトファンタイプ、たて27cm、横24cm、奥行27cm、高さ11cm、重量1.1kg、ファン口径11cm）（別売52,000円）

別売は HP掲載

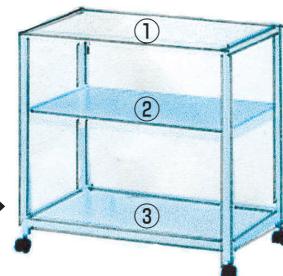
フットダスト集塵機

※色が黒になる場合があります。

施術前の器械のセッティング方法

ナオルンセット施術材料置き台の用意

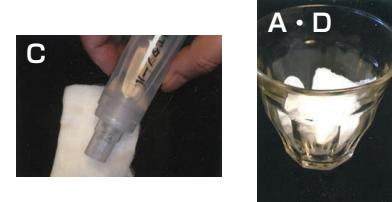
- 抗菌ステンレス器械台（キャスター付）（例1）
 - 折りたたみワゴン（例2）
 - 施術するベッド及びイスの高さに合ったワゴン台（例3）
- ※施術者が施術する際の肩の位置と同じ位の高さの台を用意
- ①にナオルンセットを開けて置く。ナオルン詳細Bookを置く。
 ②にキッチンペーパーを②の台に敷く。
 ③にゴミ箱・ドライヤー・キッチンペーパーワンロール・ナオルン詳細BookP.9の「作業の流れ」をコピーして置いておく。



(例) キャスター付き器械台

施術前に行う器具の用意の手順 1～8

- 厚みのある低い保存瓶又はコップの用意
- 医療用ガーゼを厚目に切る
- ガーゼを少しエタノール（普通）かアルコールで濡らす
- Aの底にCを敷く
- 金属類（ナオルンニッパー・医療用ハサミ・オレンジスティック・その他ご用意された器具（器械）をDの中に立てて入れて②の台に置く。トウガードも用意し置く。ナオルンエタノールは一番使用頻度が多いので手前に置く。
- キッチンペーパーを1枚1/4に折り、ヤスリ類とナオルンマシーンの本体とビットを置く。（ヤスリ類の器具が多くなったらもう1つAを用意し立てて置く）
- 十分に充電したナオルンライトと防護メガネを②の台に置く。ライトは使用後は毎回立てて置く。横に置くと転がる事があります。
- 施術後ナオルンエタノールで全て消毒をし診察時間終了時間後の際本格的な器具の消毒をして乾燥させてからナオルンBOXに戻す。ナオルンライトは朝まで充電しておく。



※キャスター付き器械台はきき手側に置く事。

※施術中の施術者の肩の高さの器械台又はワゴンを用意する。

※置き台のキャスターはしっかりとロックをかけて施術する。

＜器具の消毒＞ ナオルンエタノール 96%を使用して下さい。[1名ごとに行う消毒]

- ◆清潔なタオルの上にキッチンペーパーを広げ、その上に使う器具を全て置いてナオルンエタノール96%を多目に吹き掛けます。
- ◆自然乾燥して乾燥したら、器具を裏返して再びナオルンエタノールを掛け乾燥させます。
- 各ニッパーは先端に爪の角質等が付きますので、柔らかいブラシで取り消毒します。ブラシの毛の部分も消毒して下さい。
- ナオルンマシーンのビットやヤスリ類に、粉や汚れは、歯ブラシ等で汚れを取って消毒して下さい。歯ブラシも消毒。



※オートクレーブに入れるステンレス製の粗いヤスリ（別売）

※ビット、ニッパー、紙ヤスリ、オレンジスティックはオートクレーブを使用した場合しっかりと乾かして下さい。乾燥機がある場合使用する滅菌バック・滅菌缶に入れて使用

※ブラシの代わりはエアーダストスプレーが便利です

オートクレーブに入れられない商品…ナオルンニッパー、ブラシ、先端チップ、ナオルンライト

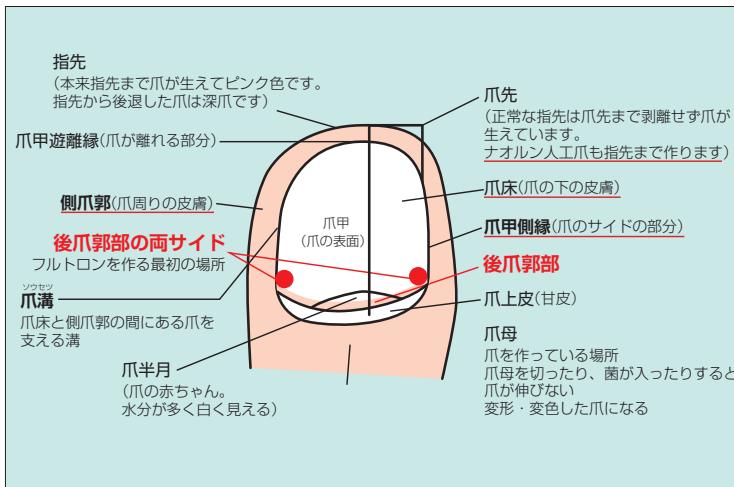
他の消毒の仕方

- ヤスリ類・ブラシ
 - ①洗浄
 - ②浸清消毒10分（次亜塩素酸ナトリウム溶液）
 - ③紫外線消毒器20分
- ナオルンニッパー・人工爪ニッパー・シザーライ・ビット・その他金属・銅製器具
 - ①汚れ取り
 - ②消毒用エタノール80%以上…無水エタノール
 - ③紫外線消毒器20分
- ナオルンライト
 - ①使用毎にエタノールで清拭消毒

診察終了時間後の消毒方法 先生の仕方の方法でお願い致します。科学的方法と物理的方法があります。

- オートクレーブ・EOG滅菌法・化学白滅菌法・過酸化水素（他）滅菌
- 高水準消毒・中水準消毒
- 浸清洗浄の場合十分に乾燥
- 洗浄剤（消毒薬）の種類は材質に適合させる。中性洗浄剤・アルカリ性洗浄 etc.
- WDによる熱水を用いた消毒
- ※適切な洗浄・消毒・滅菌を行う。

■ 爪の名称



重要

[ナオルン人工爪]は根治治療です。
完治治療に向けてご指導下さい。
参照 P.68、P.72

問診と視診を行う

- A 卷き爪、陷入爪になった原因を特定するために問診と視診を行う
- B **P.72** の巻き爪、陷入爪の原因 1～36 のどれにあたるのかを特定する
- C その原因にあった改善と予防を指導し根本的な解決（完治治療）を目指します
- D ナオルン人工爪は1回の施術で痛みもなくなり治ったかの様に、患者様は考えます。しかしナオルンは根治治療です。完治治療にむけての改善が必要な事をご指導下さい

- 足裏に、赤みをもった部分的な皮膚があるか？ うき指になっている・赤みの場所で歩っている
- うおのめ、たこがあるか？足の表～裏 うき指になっている。靴の影響
- 横アーチが崩れてないか？ マッサージと、靴の変更
- 病気があるか？（糖尿病、リュウマチ etc） 病気が治るまで完治しませんので予防施術を行う。

P.68 必須

- 靴はいつもどのような状態のをはいているか？ 靴底の状態と靴の種類・靴の履き方
- スポーツをしているか 趾爪にかかる上下の圧力のアンバランス
- 仕事の職種は？ 趾先にかかる負担の問診。靴の改善
- 白癬菌をもっているか？ 薬治療使用可・爪が乾燥して弾力低下、爪の力が弱まる。内服薬の場合ナオルン使用可。（乾癬 etc.）
- 患者自ら切っている爪の形は？ 切り方指導・三角切り→巻き爪、陷入爪
- 深爪に切っていないか？ 切り方指導・埋没爪になりやすい
- 爪を三角切り（バイアスカット）で切っている 爪の切り残しが陷入する
- 外反母趾、内反母趾になっていないか？ 横アーチの崩れと靴との関係
- 遺伝ではないか？ 問診・爪の形・厚み・大きさ etc.
- 最近の内臓疾患の病気をしたか？ 薬の影響
- 体重の変動があったか？ アーチの崩れ・上からの圧力と下からの圧力のバランス崩れ
- 靴のかかとのすり減りを見る 姿勢の悪い歩き方・足裏にかかる力のバランスの崩れ、うき指・靴底の内側の減りは扁平足による。
- 爪甲の周り（側爪郭）の角質化 硬い角質が原因で爪甲が伸びにくくなる・角質の保湿と角質処理、爪上皮の処理、爪甲が乾燥し陥入しやすくなる。

施術前の準備

(巻き爪・陥入爪)

■ ナオルン人工爪を作る手順【作業の流れ】

解説 P.10～P.15

極めて重要につき下記の手順に従い確実に行って下さい。
この作業が不十分ですとナオルン人工爪が取れ易くなってしまいます。

★はもっとも重要な作業です

※慣れると5分以内で出来ます。看護師が前準備の作業順番1～18を暗記すると簡単に早く施術が終わります。

作業

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 エタノール（スプレー） | 爪甲全体、裏側の <u>消毒</u> [96%以上エタノール] |
| 2 ドライヤー（冷風） | <u>拭き取り衛生上禁止</u> [5秒程乾かす] |
| 3 自爪を短く切る | 剥離の部分も <u>切る</u> |
| ★ 4 自爪の表面の削り | 爪甲全体、 <u>爪の表面の光沢が無くなる位、特に後爪郭部、爪の両サイド</u> |
| 5 粉を取る | 爪の裏側も丁寧に <u>払う</u> |
| ★ 6 エタノール（スプレー） | 多めに。爪甲の厚みの一番下迄の <u>油分水分</u> を取る為（必須） |
| ★ 7 ドライヤー（冷風）（強風） | 爪甲、爪の両サイドが <u>真っ白</u> になるまで乾かす（重要） |
| 8 不用部分の爪を切る | 巻き、陥入始めの痛い場所に印し●をつけて不用部分の爪・小骨を <u>残さず切る</u> |
| 9 シールンの用意 | 残った自爪のラインに合わせて <u>シールンを切り用意</u> しておく |
| ★ 10 ペンカルンを塗る | 取れなくする為の一番重要な商品 |
| ★ 11 ペンカルンを安定・定着させる | そのまま <u>10秒待つ</u> 。爪甲に <u>強固な被膜</u> を安定させる為 |
| ★ 12 ドライヤー（冷風）（弱風） | いらない成分を飛ばす為 <u>10秒程</u> |
| ★ 13 爪甲の上のペンカルンにナオルン専用ライトを3～15秒当てる | ★ <u>化学反応</u> が起き、人工爪が取れない様になります |
| 14 シールンの取り付け | シールンをフルトロンの下敷きとしてセットする |



参照 P.13～P.15 基本的な人工爪の作り方

15 フルトロン→ナオルン専用ライト（3～20秒）

切除した爪の部分にフルトロンで人工爪を作る

16 PPペストロ→ナオルン専用ライト

PPペストロで強力に爪甲全体に合体・均一に爪甲を伸ばす為

17 人工爪の形を整える

18 ラバシン→ナオルン専用ライト

ラバシンで趾爪にかかる衝撃力を分散・吸収し、自爪の様な柔らかさを再現

19 終了

※施術終了後、透明マニキュアを塗るとラバシンへのゴミ付着防止になります。（自宅にて）（必須）

※秒数は爪の症状により変わります。

※慣れるまでナオルンセットの中に、このページだけをコピーして入れておき施術して下さい

[P.68 参照] ● 重度の爪の方は、作業4を多目に削る。作業6、7を2回くり返す。作業10を多目に塗る。

作業11を1分位安定させる。P.9 作業12は遠目から30秒位行う。作業13は30秒位当てる。

●ドライヤーは必ず用意して下さい。

■ P.9 の施術前の準備の解説（なぜP.9が重要なのか…） 作業 1～14

取れないナオルン人工爪を作る為に大変重要です。しっかりと行って下さい。

[参照 取れないナオルン人工爪にするには？ P.3]

作業1～作業18のタイトルを暗記すると施術が早く終了します

重度の爪、要注意の爪の方はP.68を追加して下さい

作業

1 エタノール（スプレー式）

- ◎96%以上エタノール（ナオルンエタノール）を患部全体に多めに吹きかける。（96%～無水エタノールのみ使用。）
- ◎成分の蒸発を防ぐ為、真空容器のスプレー式を必ず使用。
- ◎爪甲・側爪郭の消毒。
- ◎自分の手の消毒



1

2 ドライヤー（冷風）

- ◎冷風のみ使用する事。施術時間短縮の為。
- ◎エタノール乾燥時に殺菌効果を果たし、特に白癬菌・乾癬、様々な菌がある場合、多目に行う事。
- ◎ナオルン人工爪に水分（エタノール）は一切埋め込み施術しない事。



2

3 自爪を短く切る・爪床から剥離部分の爪を全切除

- ◎人工爪ニッパを使用して下さい。爪甲の上の爪はナオルンニッパ使用。
- ◎施術をし易い様に自爪は短く切る。又、爪床から剥離している爪甲も全て切り取る事。人工爪の土台（爪甲）が脆弱だと人工爪が取れやすくなる為。
- ◎爪上皮（甘皮）は押し上げる。爪上皮が爪甲に張りついていると爪が伸びにくくなる為、爪甲の伸びが早いと根治も早くなる為。
- ◎作業4の時、マシーンの針状ビットで角質化した厚い爪上皮は削り取る。
- ◎薄い爪上皮はオレンジスティックかステンレス製オレンジスティックで爪甲から剥離させる事。



3

A

★ 4 爪甲全体の表面削り（削り残し厳禁）

- ◎爪甲表面はツルツルして油分・水分があります。表面をしっかりと削り一番下の爪甲までエタノールの成分を浸透させ、油分・水分を取り除く為に行います。
- ◎爪甲表面はナオルンマシーンの円柱ビットや粗目ヤスリを使用。
4-A（写真）
- ◎後爪郭部、爪甲の両サイドの窪みは針状ビット使用。（後爪郭部は念入りに行う）4-B凹は針状ビットを少し立ててしっかりと行う。
4-B（写真）
- ◎爪甲は何千の層でできていますので、多めに削る事。
- ◎肥厚爪や下角質の厚みがある場合は、爪甲をできるだけ薄く削り、角質も取る事。
- ◎マシーンやヤスリで爪甲の同じ場所を4秒以上削らない。熱をも칃す。
- ◎マシーンは爪甲に力強く当てて使用して下さい。



4-A



4-B



5

5 ブラシで粉払い

- ◎爪甲表面の窪みや裏側等の削り粉を確実に取り払う事。粉が残っていると人工爪は取れ易くなる為。エアダストスプレー、P.6のダスト集塵機があると便利です。

★ 6 本番エタノール [参照 消毒（ナオルンエタノール）について P.4]

- この時のエタノールの効果がナオルン人工爪の剥がれトラブルを左右します。
- 多目に爪甲全体、裏側、に多目に吹き掛ける。
- 作業4で爪甲の表面が無くなりエタノールが爪甲の下までエタノールが入りこみ油水、水分を取ることができ、人工爪のはがれに左右します。
- 脱脂綿での拭き取りは絶対にしないで下さい。



6

★ 7 本番ドライヤー（冷風）強風

- 爪甲全体、窪み、爪の裏側をしっかりとドライヤーの（強風）冷風で乾燥させて下さい。側爪郭の爪溝も必ず行う。
- 爪甲全体がどんどん白くなります。爪甲の両サイドもしっかりと白くして下さい。白くなる事は爪甲の油水、水分が取れた証拠です。**
- 白くならない場合は、作業4の表面削りが不足している為です。やり直す事。爪甲に部分的に白くならないで光沢がある所は作業4が不足しています。
- 特に後爪郭部と側縁部を真白にする事。（爪溝必須）
※子供、若い女性などは爪甲に油水、水分を多く含んで白くならない時はペンカルンを多目にして処置をする。



7

8 不用部分の爪を切る [参照 不用部分の爪の切り方 P.23～P.26]

- 患部の趾指を逆利き手で軽く握ります。決して強く握らない事。痛みを感じます。
- 側爪郭部の皮膚を指の腹で押し下げながらオレンジスティックで後爪郭部（甘皮）の爪甲側縁から一箇所づつ力を入れて押し、爪先に向かい少しづつ移動してどこから痛みがあるかを調べます。
- ③痛い場所の始めの巻いている場所が判ったら細い油性マジックで●印をつけます。
- ニッパー（看護師使用）か、医療用の先端が鋭く薄い強度のあるハサミ（医師使用）で巻いて刺さっている不用の爪の●印の所までしっかりと切り取る。

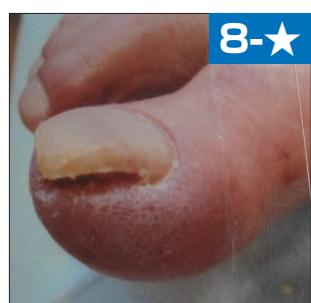
★重度でも後爪郭部の両サイド米粒1/2は必ず残す事。人工爪をつくる際の土台とする為（抜爪しない事）写真8-★



8-②



8-③④



8-★

- （重要）★⑤側爪郭を押し下げ、オレンジスティックで小骨が残っていないか横から見て確かめる。少しでも小骨が残っていると再発します。出血していたらオレンジスティックを使い、切った部分に小骨の引っ掛かりが無いか感触で確かめる。少しの小骨も切り取る事。
- ★⑥爪甲側縁を親指の腹で表面を上から押して痛くないか聞く事。（鈍痛ではなく刺す痛み）
- ⑦切り取った後、オレンジスティックで側爪郭部の角質や汚れをしっかりときれいに取りのぞく事。（エタノールを吹きかけると角質が柔らかくなり便利です）
※硬い角質はナオルンニッパーで切除。

9 シールンの用意 [参照 シールンの使用方法 P.27～31]

- 切り取った爪のラインに合う様にシールンをナオルンシザーで切って用意します。重度の場合はハサミで長方形に切ると良い。
- 不用部分を切った後、爪床の状態が平行で爪床が土台となりえる場合はシールンは使用しない。シールンを使用しない場合 P.30 参照

◎状況により、ペンカルンの前にシールンを取り付けても良い。（P.9作業10、14を逆にしても良い）。シールンの切り方参照 P.27～31



9

★ 10 ペンカルンを塗る

※ペンカルンはボトル式になり、カルンと名称が変わることがあります。

- ナオルン人工爪を取れなくなる為の一番重要な工程です。
- ①ペンカルンを垂直に持ります。斜めに持たない事。（逆きき手に持つ）
- ②ペンカルンスティックの先端に一滴づつ乗せ爪甲全体と爪の厚みに塗ります。（きき手に横に持つ）※ペンカルンを斜目に持つと横に垂れてしまいます。
- ③男性の母趾の場合、1滴づつ3回（3滴分）が平均量です。少し多めに塗る事。（被膜の厚みをつくる為）
- ◎重度の爪は多目に塗り厚みをつくる事。
- ◎爪上皮や側爪部、皮膚についても問題ありません。最後にアルコールの脱脂綿で拭く事。
- （◎ボトル式になっている場合、オレンジスティックにペンカルンと同様に1滴取り爪甲に塗ります。）



10

★ 11 ペンカルンを安定・定着させる【必須】

- 爪甲の上に塗ったペンカルンを安定、固定させる為、10～20秒爪甲を平行に持ち、そのまま動かさない事。
- ◎ペンカルンは爪甲の上に強固な被膜の厚みを作ります。爪甲には浸透しません。重度の爪は1分位安定させる。
- ◎絶対に触れないで下さい。触れてしまったらペンカルンを塗り直します。→作業11～13を行う。
- ◎ペンカルン（カルン）を塗ってすぐにドライヤーをかけないで下さい。



11

★ 12 ドライヤー（冷風）（弱風）

- ◎ペンカルンに入っている不用な溶剤を爪甲の上から除く為に冷風（15秒～20秒）で蒸発させます。（弱い冷風）
- ◎強い冷風の場合、ペンカルンの厚みがずれてしまいます。爪甲から離して冷風をかける事。ペンカルンが風で動かなくなるまで行う事。重度の爪は30秒～40秒



12

[重要] ★ 13 爪甲にライトを当てる（ペンカルンを化学反応させる）

- ◎ペンカルンにナオルン専用ライトの波数を20秒ほど当てます。化学反応が起きて取れない土台が爪甲の上に成立します。ライトを当てても熱くなりません。★重度の爪は長目にライトを当てる事。
- ◎ペンカルンは乾きませんので触れないで下さい。触れてしまったらペンカルンが取れるのでぬり直しをして下さい。
- 重度の爪は30秒～40秒長目にライトを全体的に当てる。



13

14 シールン取り付け

【参照 シールンの使用方法 P.27～31】

施術開始

- ◎シールンを取り付けて施術に入って下さい。
- ◎シールンを取り付けた後、ペンカルンを塗ってもよいです。
- ◎取り付けの際には爪甲のペンカルンに触れない様に注意して下さい。
- ◎基本的な人工爪の作り方 [基本形 P.13～15]
- ◎[軽度～中度 P.33～35]
- ◎[重度 P.36～49] に移行施術開始して下さい。



14

第3章 施術（作業15～19）

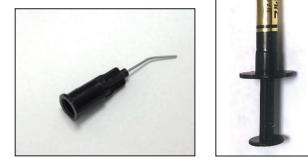
■ [趾爪] 基本的なナオルン人工爪の作り方【基本形】P.9 作業 15～19

※施術前の準備 P.9（作業1～14）をしっかりと行ってから施術に入る。

※取り付けたシールンが動かない様に、左手（逆利き手）で趾指のシールンの下を含めて軽く握り、下から支えながら施術を開始します。フルトロンの持ち方は、注射器を持つ時と同じにして下さい。

★このページは基本形です。[軽度～重度の詳しい作り方は、参照P.33～49]をご覧下さい。
[シールンの使用方法 P.27 参照]

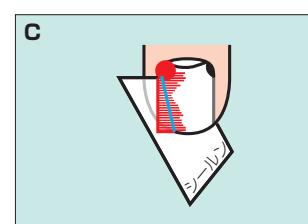
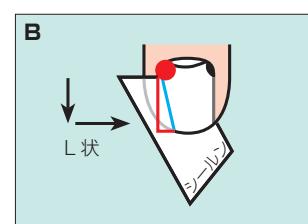
14 シールンを、切り取った自爪の爪甲側縁と平行に取りつける。



先端チューブ・針金部分の
サック在中
爪甲に触れないと作れる様に
なったら金具に
キャップをして保管できます（針
金はナオルンエタノールで消毒
して下さい）

15 フルトロンで不要部分の切り取った部分の爪の部位に理想な形の人工爪を作る。（フルトロンの蓋を取り、先端チューブをしっかりと取りつける）

A. ①フルトロンで後爪郭部の角（甘皮のサイド・赤丸●の部分）に米粒1/2サイズのフルトロンの丸いボールを作る。P.16 参照
②後爪郭部の角の部分の爪●を土台として人工爪をつくる為。
③出すぎたらオレンジスティックで取る。



【注意】

- ◎爪上皮（甘皮）にはフルトロンを絶対につけないで下さい。
- ◎施術前の準備 P.9 作業4の時マシーンで甘皮を取り除いて下さい。参照 P.10 作業3-A

B. ①フルトロンでL状に書く様押し出して作る。

- ②後爪郭部から指先に向けて作成。
- ③理想の人工爪の形のラインにする。指先まで必ず作る。

- ◎先端チューブの針金を爪甲に押し付けず、爪甲やシールンに軽く触れるように押しながらフルトロンを押し出します。
- ◎ラインがずれたり、理想通りにフルトロンのラインが出なかつた時は、オレンジスティックでラインを整える。

C. フルトロンを左右に動かしながら薄く自爪と結合させる。【趾爪の左右両方に巻き爪、陷入がある方は趾爪の外側を2ヶ所作ってから肉側を作る】

（重要）

- ①後爪郭部の●の下あたりからフルトロンを軽く押し出し、指先に向ってフルトロンを強く押しBのラインの中をうめるように薄く自爪と結合させる。
- ②爪甲の上に厚くのせてしまったら、オレンジスティックで取ってください。
- ③最後にAの後爪郭部の●をフルトロンの先端チューブの金具で●をうすくのばす。参照 P.16（必須）

D. ライトを当て、フルトロンを硬化させる。（3～20秒）

- ◎ライトを回しながら全体に当たるようにする事。
- ◎ガラスの様な固さに固まったら終了。
- ◎爪の大きさ、フルトロンの厚みにより秒数が変わります。

16 PPペストロで人工爪を爪甲全体に薄く作ります。[ガラス製]

(目的)

- E. ①自爪の巻く力を阻止させるため強度を高める。
 ②爪甲とガラスフィラーを強力に一体化・合体させる。
 ③爪甲の伸び率を均一にする。

1. PPペストロを必要な量を取り指で丸めます。
 ◎冬など硬い時は指の温度で少し温めて下さい。
 ◎ドライヤーの温風をあて固いフルトロンを柔らかくします。
2. 爪の中央に置き人差し指の腹の指先で爪全体に広げます。（薄めに作ります）（厚みはラバシンで行う）
 ◎指先で広げる時、少しづつ押しのばし上下、左右均一に広げる事。
 ◎出しすぎないで下さい。PPペストロにオレンジスティックを入れ取り出して下さい。P.34-3写真参照
 ◎指先まで作る事。
3. 表面の段差を取る。
 人差し指の腹に少しのエタノールを吹きかけ円を描く様に撫でるようにして表面の段差を取ります。ツルツルになり表面のヤスリがけがいらなくなる為。
4. 最後に又、オレンジスティックの平面部分に少しのエタノールを吹きかけ、後爪郭部の段差が出来ない様に軽く指先方面に押してなじませます。
 ※後爪郭部とその両サイドは必ず薄く作る事。

【注意】◎人差し指やオレンジスティックにエタノールを多くつけ過ぎないで下さい。溶けて取れ易く形も作れなくなります。
 ナオルンエタノールのスプレーのワンプッシュ1/3が適量です。
 ◎人差し指を少しティッシュに付けてワンプッシュの1/3の量にする。

F. ライトを当て、PPペストロを硬化させます。10秒～20秒

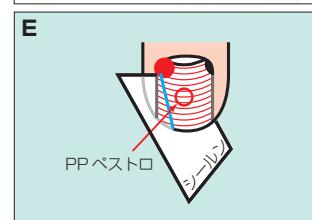
※ライトは爪甲全体、両サイド、厚みに当る様に回しながら当てます。

- ※ライトの秒数は爪の大きさ・厚みによります。
 ※自分の爪先を表面で押しガラスの様に固くなるまで当てる。
 ※防護メガネ必須（看護師用）

●施術者はライトの防護板を通して光を見る事。絶対に直接光を見ないで下さい。

17 人工爪の形を粗目ヤスリやナオルンマシーンで整えます。

- ◎ラバシンの後で人工爪の形は整えられません。〔ゴム〕製などでPPペストロを固めた後行う事。
 (手爪の場合は終了。自分で光沢が出せます。ラバシンは使用しません。)
- ◎両サイド先端を粗いヤスリで整えます。参考P.79～80ヤスリのかけ方
 (爪の形の好みは自宅で行ってもらう事)

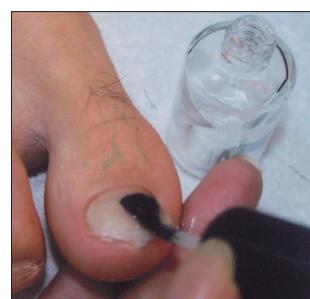


18 ラバシンで人工爪の厚みを調整します。（趾爪の場合）[ゴム製]**（目的）****G. ①趾爪にかかる衝撃を分散、吸収し自爪に近い構造にします。（サッカーなどスポーツをしている方は、特に厚目に作ります）（仕事の職種などetc.）****②PPペストロンは薄く作っているのでラバシンで厚みを作ります。****③ラバシンはゴム製なので軽いので、爪甲の上を理想の厚みや変形した爪の厚みを整えられます。**

1. ラバシンを必要な量を出し指で丸めます。
2. 人さし指の腹でラバシンを爪甲全体に広げ理想の厚みと形を作る。
3. 変形爪の場合、左右の厚みのバランスはラバシンで行う。
4. 後爪郭部とその両サイドは薄く作る事。（必須）

H. ライトは全体に当る様に動かしながら少し長く当て、ラバシンを固く硬化させる。（約20～30秒）**（バスケットボールの表面位の固さ）****※幼児は爪が柔らかいのでライトの秒数は短く柔かく仕上げます。****19 ナオルン人工爪の施術は終了です。**

- ★◎透明マニキュアを自宅で塗って戴く事。ラバシンはゴム製なのでゴミが付き変色する為。
- ◎マニキュアのベースコート（透明）を用意して（150円位）塗つてから帰宅させてもよい。
- ◎その後女性は、マニキュアが塗れます。
- ◎自分の手の消毒（ナオルンエタノール）をして下さい。
- ◎器具の消毒。P.7 参照

**【注意】**

- ◎巻き爪・陷入爪が1趾の片側だけでも「PPペストロ」・「ラバシン」は爪甲全体に作る事。
- ◎趾爪は特に衝撃が掛かる為、片側だけにフルトロンだけで人工爪を作ると衝撃により左右のバランスが崩れて取れやすい。
- ◎爪の伸率を均一にする為。
- ◎重度の爪甲角増殖の方は、上からの圧力が必要な爪はPPペストロを厚目に作る。
- ◎埋没爪などの方は、上からの圧力が必要なのでPPペストロは爪甲の中央部分に厚みをつくりない。均一に作る事。

ナオルンは根治治療です。寛解の状態です。原因が改善していない方、指導に従わない方は再発します。

再発予防法】PPペストロだけを使い、爪甲全体に薄く作り、巻き、陷入を予防する。
※根治後人工爪を外した後、P.9の施術前の準備（作業8、9、14を除く）を行なう→PPペストロを薄く作る。

※その方の巻き、陷入する場所により3～6ヶ月に1回少しだけ、薄くPPペストロをつけながら原因の改善を行い完治治療に向ける。参照P.68再発防止について

■補足説明

後爪郭部の両サイドにつくる米粒1/2のフルトロンについて（重要）

[参照 基本的な人工爪の作り方 P.13～15 作業15-C-③について]

① 両サイドの米粒1/2のフルトロンは大きく作らない事。大きいボールにすると段差が出来て取れやすくなります。

- ・段差があると油水・水分が入りやすい。
- ・患者様が段差を気にして手の爪で取る様な行為をします。さわらない様に注意して下さい。



② フルトロンで人工爪を作り終った後（ライトをあてる前）、両サイドの米粒1/2のフルトロンを先端チューブの金具の先端で後爪郭部のラインに沿って、やさしく伸ばし段差なく薄く穴が無いように伸ばす事。ライト→PPペストロ→ラバシン→終了

※皮膚や爪上皮（甘皮）に付いたらオレンジスティックで必ず取る事→ライト

※フルトロンが多すぎた時はオレンジスティックで取る。

※PPペストロ、ラバシンも後爪郭部と特に両サイドは必ず薄く作る事。多く、厚く作ってしまったらオレンジスティックで下の方へ押して薄くする事。



（理由）ナオルン人工爪の失敗はほとんどありませんが、同上の後爪郭部と特にその両サイドを厚く作ってしまうと、患者様が気になり自分の爪で取るしぐさをしてしまい、一部ガラスフィラーが破損します。必ずその部分は薄く作る事。

この写真は見やすくするためシールンはありません。又、厚く作っています。

ナオルンニッパーの持ち方、切り方

◆爪の左側を切る（外側）

- ・手の内側にニッパーをにぎり刃先を**右側に向け**握り、手首を少しまげて爪の左側を切ります。

◆爪の右側を切る（内側）

- ・手の内側にニッパーをにぎり刃先を**左側に向け**握り、爪の右側を切ります。



〔重要〕

※一度に切ろうとせずに**刃先の先端**で少しづつ切る。

※陷入爪の場合は側爪部に埋もれているので、**少し切ったらそのまま爪を引き上げる**ように切除し、又切ったら上向へ引き出しながら少しづつ切除していく事。

フルトロンの最後の針金の動かし方

●写真は分かり易くオーバーに厚く作っています。[ソフトラバーも同様]

○フルトロンの最後の終了は針金部分を上にのばさないで下さい。

（理由）フルトロンが付いて上突起の段差が出来てしまいます。



ライト
→



●フルトロンが突起して固まってしまいます。

●ライトで固めた後この突起を削る事になってしまいます。

○フルトロンの最後の終了は針金部分を横にひっぱるようにして下さい。

その時フルトロンは出しません。出ししながら横にはひっぱらないで下さい。必要なないフルトロンが出来てしまい段差が出来てしまいます。→オレンジスティックで取る



ナオルンニッパーについて

●不用部分の爪だけを切除する為に研究されたナオルンニッパーです。

●切りあじが悪くなったら、買いかえて下さい。（研ぐ事が不可）

●終了後ブラシで刃先の汚れを取りナオルンエタノールで消毒

●オートクレーブ使用可

■ 初回の再診（軽度～重度の爪）……1週間後に来院

【必須】

1. 初回から1週間後に再診。
痛くなり来院しない方がいるので必ず来院してもらう事。



軽度の再診／植え足しが必要無い方

軽度とは…爪先に近い巻き爪、陷入爪、靴などによる一時的な巻き爪、陷入爪。巻き、陷入が浅い爪。

●軽度で指先（爪先）に近い巻き爪・陷入爪の場合は、この再診1回で終了。

見分け方

●痛みがないか人工爪の爪甲側縁を親指の腹で上からのみの力を強く押して痛みがないか確かめる。問題ない場合2.に移行。
問題があり痛い時はHELPへ移行。



2. 軽度の方は自宅にての補正をしてもらう。



- A 自宅にてヤスリで常に爪の長さを趾指先まで短くしてもらう事。爪が伸びたままになると趾指先が重くなり、補正の効果が出ません。
B 爪の形を常に整えること。特に両サイドのライン。爪先の幅を細くしておく。※人工の爪です。そのままの形で伸び、爪先の幅が太くなり隣の指に当るため。
C 決して爪切りを使用しないこと。
D 3ヶ月後に来院（必須）→問題がない場合、人工爪を外す指示をする。
E 問題がなければ患者の自宅にて、爪甲の上の人工爪をヤスリで薄くして取る指示をする事。
参照 P.22 人工爪の外し方（取り方）
※ナオルンの粗いヤスリはどこでも販売されていないオリジナルです。ガラスフィラーユ用の粗さのヤスリです。ナオルンヤスリの販売をお勧めして下さい。

HELP

●痛い場合の原因と補正の仕方

A ヤスリの悪い使用法 P.79 参照

B 小骨が残っていた場合（この症例はあまりありません）

- A 爪甲側縁の部分の人工爪がまっすぐに整えられていなく両サイドの人工爪が側爪部の皮膚に当っている→マシーン、粗いヤスリで両サイドを整える。
B 人工爪ニッパーで人工爪をU字状に切り取り、小骨を見つけ切除する。その部分にシールンをはさみ→フルトロン→PPペストロ→ラバシンで作り直す。小骨切除専用ヤスリ（別売）P.33

- ・P.9の作業8の不用部分の爪の切除の際、小骨が残っていて人工爪の中で巻き始めている可能性があります。
- ・オレンジステイックでゆっくりと力を入れて側縁部のギリギリの端を押して小骨が残っている場所を見つける。
※人工爪の両サイドは爪を切除してあるので人工爪だけが切れます。安心して切って下さい。



中度～重度は必ず植え足しが必要です

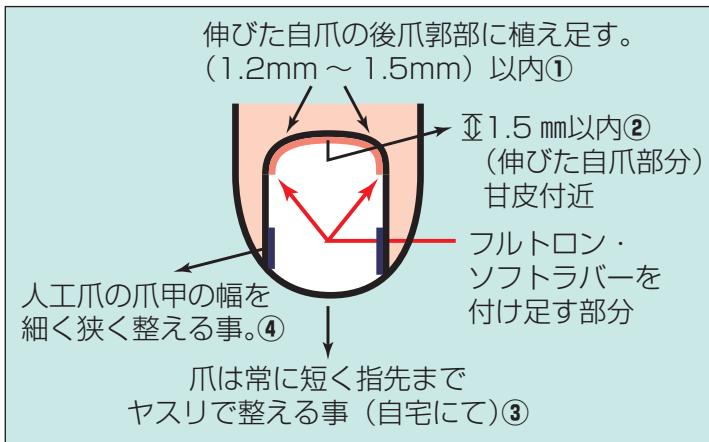
中度～重度の再診／植えたしが必要な方（初回から1週間後の再診）

見分け方

- 爪甲・側縁部を、親指で上向から力強く押し、オレンジステイックでも両サイドを押す。
▲ 痛みがなければ問題はありません。→次回の植えたしの予約をとる。自爪が1.2mm～1.5mm伸びた後爪郭部の自爪部分に植えたしを行う。年齢・爪の状態により伸び率は変わります。→施術 P.18～20（2回目からの植え足しの手順）参照
▲ 痛みがある場合→HELPへ移行。

■ 2回目からの再診・植えたしの手順

中度～重度の巻き爪・陷入爪：植え足しが必要な方



- (目的)**
- ◎後爪郭部（伸びてきた 1.2 mm～1.5 mm）の自爪は柔らかいです。その時に補正をします。1.5mm 以上伸びた自爪は固くなり補正できません。
 - ◎甘皮付近（後爪郭部）の伸びた自爪部分（1.5mm）ペンカルン（カルン）+フルトロン+ソフトラバーで植え足しを行います。
 - ◎自爪が柔らかいうちに巻き、陷入しない様に補正します。

A. 植え足し手順

針状ビットマシーン+ペルカルン+フルトロン+ソフトラバー使用

（特にナオルンエタノールが重要です。ナオルンエタノール必須）

1. 後爪郭部の伸びた自爪（1.2mm～1.5mm）の自爪部分だけに P.9 施術前の準備を行います。（P.9 作業3、8、9、14 は必要ありません）

前準備の注意点

- ※後爪郭部の新しく伸びた自爪は油分、水分を多く含んでいます。エタノール、針状マシーンを念入りに行う事。
- ※爪上皮（甘皮）は針状マシーンで切除するか、オレンジスティックで押し上げて下さい。
- ※爪上皮の上にはフルトロン、ソフトラバーをのせて作らない事。
- ※シールンは必要ありません。
- ※ペンカルンにライトを当て化学反応をさせ、取れない人工爪にする事。
- ※エタノールは必ず 96%以上で、自爪がまっ白になるまでドライヤー冷風で油分、水分を取る。特に後爪郭部は水分、油分を多く含んでいる為。

2. 伸びた自爪の部分にペルカルン→ライト・フルトロン→ライト→ソフトラバー→ライトで植え足しを行います。→終了

※前回作った人工爪と自爪に段差があった場合は段差をマシーンの円柱ビットでなだらかにしてから植えたしをして下さい。

3.
 • 決して厚く作らず薄く作る事。（●フルトロンの金具で爪上皮に付けずになだらかにする ●ソフトラバーも同様）
 • ライトを当てた後に爪甲に植え足しの段差が出来たらマシーンの円柱ビットで段差を取る。

4. 終了

- ※次回の植えたしの予約の確認を行います。
- 〔重要〕**※巻き、陥入始めの所までの●印の場所が爪先近くまで伸びるまで植え足しを行います。
参照 P.21 人工爪を外す時期
- ※爪甲に先端チップの金具が触れないで作れる様になったら金具をナオルンエタノールで消毒をして金具用のキャップをして保管できます。

＜注意＞

- ナオルン人工爪で補正すると痛くなくなり、来院しない方がいます。必ず来院して植え足しをして下さい。
- 出し過ぎないで下さい。出し過ぎたらオレンジスティックで取ってからライトを当てる。薄く作る事。
- フルトロン、ソフトラバーを出したら、先端針具で前回作った人工爪と平行にならす事。
(参照 P.16 両サイドに作る米粒 1/2 について)
- ライトを当てた後、前回作った人工爪との段差や厚くなってしまったら、マシーンの針状か円柱状のビットで段差を取る
- ソフトラバー使用の時は必ず自宅にて透明マニキュアをぬっていただく事
※ PP ペストロ、ラバシンは使用しません。

再診の植え足しの頻度

患者様の年齢、爪甲の状態、厚み、男、女、スポーツ、職種などを考慮して 1.2mm～1.5mm の伸び率をカルテに残し植えたしの再診時期を参考にして次回の予約を取る。参照 P.70 爪甲の伸び率

趾爪母趾爪 (1.2mm～1.5mm の伸び率)

10代～20代前半…2週間に1回の植え足し
30代～40代………1ヶ月に1回の植え足し
(1日平均 0.05mm 男性)
年配の方 …………1ヶ月半に1回の植え足し

趾爪トラブル爪 ……軽度～重度により伸び率が遅くなります

自爪の伸びが早ければ終了の時期も早くなります。

患者様に必ずしていただく事

- 粗いヤスリで常に指先ギリギリまで短くする事
- 人工爪の形の爪先（指先）の両サイドの縦のラインを細く、狭く整えておく事。
- 後爪郭部のうすい人工爪をはがそうとしない事。（触らない様にご指示下さい）
- ナオルンヤスリは人工爪用のオリジナルです。（ガラスフィラー専用）患者様に買っていただく事をおすすめします。

植え足し補正の理論

後爪郭部の伸びた自爪は柔かくまだ爪になっていない爪です。その柔らかい時に植えたして巻かない、陥入しない様に平滑な爪を誘導します。

要注意

ナオルンは1回の補正でどんな重度の爪の方でも痛みがなくなります。

痛みが無くなると再診、植えたしに来院しない方がいますが、人工爪は自爪と共に伸びます。必ず来院していただけて下さい。

1.2mm～1.5mm植えたし時期よりも遅くなった場合

◎伸びすぎた自爪が巻いていない陷入していない時はそのまま植えたしをしても効果が維持できる場合があります。

◎伸びすぎた自爪が巻いている、陷入していた場合は、作り直しが必要です。ナオルン人工爪を出来るだけうすく削り、人工爪を作り直します。

★ ◎爪甲の上にナオルン人工爪が残っていても新しい人工爪は合体します。ペンカルンは自爪にのみ有効で人工爪の上には必要ありません。

人工爪の形の補正

①患者自身で爪の長さを常に指先まで粗いヤスリで趾指先まで短く必ず整える事。

②指先（爪先）の幅の人工爪を細く狭くする事。（人工爪なので伸びるとそのまま伸びるので隣の指に当ります。）

※つめ切り禁止

後爪郭部の人工爪がはがれていた場合

①再診補正の際、後爪郭部近くの人工爪が剥がれていた場合、原因は 参照P.3 取れない人工爪にするには？ の◆と◆が主な原因です。

➡人工爪ニッパーで剥がれている人工爪を切り、その部分に人工爪を植えたす。

★ ②・後爪郭部の人工爪が厚すぎて作り、患者様が段差に爪で取ろうとする行為をする為に1部人工爪の破損。

➡破損部分に植え足しを行う。

■ ナオルン人工爪を外す時期

人工爪は常に粗いヤスリで短くしておく様に指導して下さい。初回に切り取った巻き始めの場所の自爪部分（P.9 作業8 ●で印しをつけた部分）が指先近くまで伸びたら終了です。人工爪を外します。

A. 軽度の場合

- 1回の施術でほぼ終了。
- 1週間後の再診の際、爪甲側縁を上からだけの力で強く押し、巻き爪、陥入爪の痛みが無く問題が無い場合は、人工爪の長さを患者自らヤスリを使い常に短く、又、爪の幅を細く整えておく事を指示する。
自爪（作業8 ●での印し部分）が指先近くまで伸びてきたら終了です。
- 7ミリほど自爪が伸びたころ。（爪甲の中央の長さ位）2～3ヶ月後に再診。（患者の年齢：爪の症状により異なる）
- 問題がない場合は患者自身で取る指示をする。（全て取らない事をご指導下さい）固い爪に慣れてしまっている為。参照 P.22 人工爪の取り方

軽度の爪とは……

- 爪甲の中心（平均7ミリ）より指先近くから巻いている爪
- 痛みが最近出てきた爪
- 湾曲や陥入が浅い爪
- 巒き爪が陥入爪が始まったばかりの爪

B. 中度～重度の場合

P.18の2回目からの植え足しは行っておりましたか？
行って無い時は根治治療の効果が極端に低下します。

基本は初回に切りとった自爪部分 P.9 の巻き始めの（作業8）
●の部分が趾指先近くまで伸びたら終了です。（爪は常に短くしておく事。又、爪の爪先の幅を細く狭く整える事）※植え足しの補正是常に行って下さい。P.18～20

- 患者の爪の伸び率によりナオルン人工爪を外す時期が異なります。参照 P.21
- 女性より男性の方が伸び率が多少早目です。
- 年齢により20歳までは爪甲の伸びが良く、通常より早く終了します。
- 40歳以上の方は爪甲の伸びが段々と遅くなり、70歳以上の方は1ミリ伸びるのに長くかかる為、再診の植え足し回数は少ないが終了まで時間がかかります。1.2mm伸びるのに2ヶ月以上かかる場合もあります。又、爪の病気の方も伸び率が遅くなり、人工爪を付けている期間が長くなります。

■ ナオルン人工爪の取り方（外し方）

A. 病院で取る場合

粉が飛ばない様に大き目の透明のビニール袋の底をハサミで切り筒状にして指先を入れ、ナオルンマシーン（円柱ビット）、ナオルン専用粗目ヤスリ、人工爪ニッパー等で人工爪の厚みの2/3を削り取ります。（全て取らない事。下記<ポイント>参照）→爪甲にピンクヤスリを行う。終了。



- フット用ダクト集塵機（コンパクトタイプ）（別売、P.6 参照）
- 人工爪が飛び事がありますので必ずメガネをして下さい。
- ★円柱型のダイヤモンドビットがあると時間短縮になります。（別売）
- 光沢が必要な女性の方は光沢ヤスリをご使用して頂いて下さい。



防護メガネ（必須）

B. 自分で取ってもらう場合

- 粗目ヤスリで徐々に薄くして取ります。（爪切り使用可）
- 人工爪専用ヤスリ（ガラスフライ専用ヤスリ）をおすすめして下さい。又ナオルンマシーン（円柱ビット）の購入を希望する方もいらっしゃいます。

<ポイント>

- ◎ ナオルン人工爪は除光液やアセトンに溶けません。ヤスリやつめ切りなどを使用。
- ★ ◎ 爪が硬い人工爪に慣れてしまっていますので、1回目は1/2の厚みを取る。この厚みになれば2回目の厚みを取る
[注意] 必ず薄く人工爪を残して終了させる事。女性の方は光沢を出すヤスリでピカピカの爪に出来ます。
- ◎ ナオルンの粗いヤスリを購入してもらうと早く取れます。（ナオルン専用ヤスリ） and ナオルンマシーン（円柱ビット）
- ◎ つめ切り使用可。

→ 必ずご指示下さい。

（注意）ナオルン人工爪をそのまま薄くしないで長さもそのままにしていると先端の人工爪が重くなり自爪と人工爪の重さが違うため自爪が割れる恐れがあります。絶対にそのままにしないで下さい。

再発予防方法

ナオルンは根治治療です。寛解の状態です。原因が改善していない方、指導に従わない方は再発します。根治後、人工爪を外した後PPペストロだけを使い、爪甲全体に薄く作り、巻き、陥入を予防する。

※自爪だけにP.9の施術前の準備（作業3、8、9、14を除く）を自爪のみに行う→PPペストロを全体的に薄く作る。

※その方の巻き、陥入している場所により3～6ヶ月に1回、PPペストロをつけたしながら原因の改善を行って完治治療に向けて指導をして下さい。（参照P.68再発防止について）

■ 不用部分の爪の切り方【基本形】 軽度～中度参照P.24、重度参照P.26～

(P.9 作業 ⑧ 巻いて刺さっている不用部分の爪を切る)

不用部分の爪とは…

爪の爪甲側縁が内側に巻きこんだ部分の爪、又側爪郭にくい込んだ部分の爪を言います。…痛い部分の場所の爪です。

- ★ ● 不用部分の爪を切る前に人工爪ニッパーで自爪は短く切る。
又、剥離している爪も切除して下さい。(P.9 作業 3)
- ナオルンニッパーを使用する時は、誰でも施術できます。

神経ブロック注射が必要な場合もあります。その場合、医療メスにてドクターが切り取り、他の施術は誰でも行えます。通常ナオルンニッパーを使用。誰でも施正できます。



● ナオルンニッパーの刃先で少しづつ切り上向に引き出しながら切除していく



● 重度でも後爪郭部の両サイド米粒1/2は必ず残す事

- 1 爪甲がぐらつかない様に逆き手片手で趾指全体を軽く握り固定します。

・患部の指は強く握らない事。(爪周炎の痛みと間違える場合があります)

- ★ 2 オレンジステックで後爪郭部の角(サイド)から爪甲側縁をゆっくりと少しづつ移動しながら爪先方向へ力強く押し、痛みが始まる場所にマジックで印し●を付けます。間違いない様2回程確かめて下さい。患者様に痛い場所を知らせてもらう事。

・爪側郭(両サイドの肉)の盛り上がりがある方は片手の親指や人差し指で押し下げ広げながら側縁部の内側の爪を押して調べる。不要部分の爪が爪溝に埋もれている為。

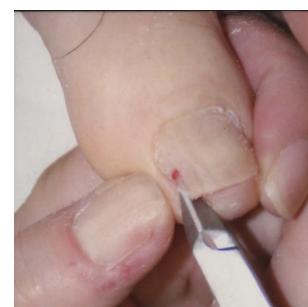
- 3 ナオルンニッパーの先端を使い印しの所まで切除します。刃先で少しづつ切れます。まっすぐ垂直に切除。

・陷入爪の方は側爪郭の皮膚に深くつき刺さっているのでナオルンニッパーで切り、爪を上向に引き出しながら少しづつ印●まで切り取ります。



- 4 切除した後、指の腹で切った爪甲側縁を上からだけの力で押して痛みがないか確かめる。(鈍痛でなく、巻爪、陷入爪の痛みです)

※痛い場合は、小骨が残っています。垂直に全切除して下さい。小骨切除用ヤスリを使用する事をお勧めします。P.33



- 5 オレンジステックで、爪を切り取った後の爪溝の硬い角質などをナオルンニッパーで切り、オレンジステックで出来るだけきれいに取り除きます。(多目にエタノールを吹きかけ角質を柔らかくし行う) (爪ジンデ使用。他 etc.)

- 6 シールンをセットする。参照P.27～31

- 7 施術を始める。切り取って欠損した部分の爪をフルトロンで人工爪を作ります。→PPペストロ→ラバシン
 - [人工爪の作り方 P.13～参照 [基本形]]
 - [軽度～中度] P.33～
 - [重度] P.36～

不用部分の爪の切り方 【軽度～中度】 【巻き爪、陥入爪】

P.9の前準備を行います。【基本形】P.13～15参照に追加して施術します。

- 1 趾指先より伸びている爪、爪床から剥離している爪を人工爪ニッパーで全て切り取る。爪甲の剥離はナオルンニッパーで切除。
- 2 爪先から痛み始めの印し●までナオルンニッパーの角度を考え、刃先で巻いて刺さっている不用部分の爪を少しづつしっかりとナオルンニッパーで切って下さい。できるだけ垂直にまっすぐ切除する事。
●ナオルンニッパーで切ったら上向きに爪を引き出しながら少しづつ切除をしていく事。



※ナオルンニッパーが使用できない時は医療用ハサミを使用して下さい。(ドクターのみ)その後は誰でも施術できます。

※爪を伸ばす為の土台として使用する為どの様な爪でも後爪郭部は必ず米粒1/2個分残す。決して抜爪しない事。人工爪の土台とする為。



巻き爪、陥り爪

爪溝に入り込んだ不用部分の爪だけを切除する事。



不用部分を切る際
後爪郭部の米粒1/2個分は
切らない事

- 3 爪甲の両サイドの皮膚（側爪郭）を指で押し広げ、切り残した小骨が無いかオレンジスティックでしっかりと確かめます。

・出血した場合、オレンジスティックで切ったラインを感触で確かめ、引っ掛けが無いか確認します。引っ掛けは小骨です。小骨が残っていると再発します。(爪ゾンデ etc. 使用)



長さ、剥離している爪甲を全て
切除

- 4 シールンをセットする。



第2趾の陥入爪

- 5 施術を始める。フルトロンで切り取った部分の爪を作る。

→ PPペストロ→ラバシン

- [参照 P.13～15 (基本的な人工爪の作り方)]
- [参照 P.33～35 (軽度～中度の人工爪の作り方)]

不用部分の爪の切り方 中度の硬い爪（肥厚爪）を伴う【巻爪、陷入爪】

P.9の前準備を行います。【基本形】P.13～15参照に追加して施術します。要注意の爪の場合、P.9にP.38を追加して前準備を行って下さい。

硬い爪で爪甲が厚く陷入がきついので、ナオルンニッパーが使用できない時は先端が鋭く薄い強度のある医療用ハサミを使います。
(医師のみ) その他の施術は誰でも行えます。

・肥厚爪について 参照 P.53～54

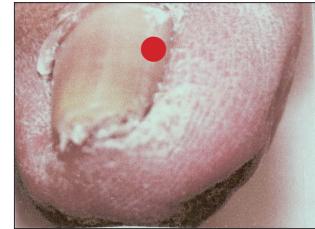
(白癬菌多し) (脆い爪)

・厚硬爪について 参照 P.53 (固い爪)

(靴の影響多し) 指先が靴に当たり、爪が伸びなく、爪が厚くなっていく爪。大きい靴、きつい靴。



重度切除用医療ハサミ（別売）



- 1 人工爪ニッパーで爪の長さをできるだけ短く切り、剥離している爪もナオルンニッパーで切り取ります。
- 2 硬い爪は厚硬爪になっている事がある。できるだけ薄く削る。(厚硬爪=固い爪)



- 不用部分の爪をしっかりと切り取ります。(爪溝に入り込んでいる爪のみ)
- 肥厚爪の場合、マシーンの円柱状のビット又は黒ヤスリで薄くします。もろい爪です。白癬菌の場合 (etc.)、飲み薬の方は施術できます。(もろい爪なので削りすぎない事)



- 3 痛み始めの印し●の所まで不用部分の爪を切除します。
- 硬いので指で側爪郭を広げナオルンニッパーの刃先で少しづつ切り、硬いので人工爪ニッパーで爪を上向きに引き出し、●印の所まで切除する。
- できるだけまっすぐ垂直に切除する。(小骨が残る為)
- 4 小骨がないか調べます。
- 爪溝は、深い溝になります。ナオルンエタノールを多目に吹きかけ角質を柔らかくしてオレンジスティックで角質をできるだけ取って下さい。(爪ゾンデ etc. 使用)
- 爪溝の硬い角質はナオルンニッパーで必ず、全て、切り取る事。硬い角質が爪化して陷入する恐れがあります。
- 5 シールンを取り付ける。
- 6 施術を始めます。

参照 P.33～35 (軽度～中度の人工爪の作り方)



(例) 陷入爪+剥離爪の切除
※剥離部分の切除は痛くありません（出血していません）



不用部分の爪の切り方 [重度]

- 不用部分の爪の切り方 [基本形] [軽度～中度] [中度の硬い爪] を理解して、以下の項目を症例にあった切り方で行って下さい。
- P.9の前準備にプラスしてP.38を追加して下さい。→

ポイント

神経ブロックは先生の判断、施術法にて行って下さい

- 重度の趾爪は、様々な爪の形、厚み、変形が考えられます。
- 菌の検査（できるだけ爪母に近い爪を検査）をして下さい。
- 神経ブロックが必要な症例が多くありますがアレルギーを持っている方は指先を氷で冷やし（コールドスプレー・ペンレスステープ、リドカイン etc.）麻痺させて切除します。参照P.78 神経ブロックにアレルギーを持っている方。
- 医療用ハサミを使用（切除のみ医師）
- ★●爪甲がぶ厚すぎる場合、神経ブロックを使用しない場合などは尿素軟膏のラップ密閉療法を行い爪甲を柔らかくして、ニッパー又は医療用ハサミで切除。
- 巻いている、陷入している爪だけを切除する。余分に爪甲を切らない事。（爪溝に入り込んでいる爪のみ）
- ★●テーピングを行う。
- 爪は短く、剥離した部分は全て切除して下さい。

重度 切り方

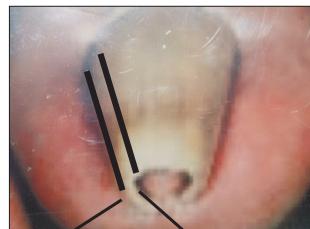
- 1 親指で側爪部と爪甲側縁を広げます。又はテーピングを行います。（爪溝を広げる）
- 2 痛み始めの場所をオレンジスティックで爪甲側縁の通常の位置よりもより内側を押して位置を確め印し●をつける。（油性ペン）※側爪郭に爪が入りこんでいる為。
- 3 テーピングを行う場合は側爪郭（爪の周りの皮膚）と爪甲側縁（巻いて、刺さっている部分）をできるだけ離す。（特に重度Cは必ず行う事）（爪溝）下に向けたテーピングを行う。
- 4 （神経ブロックを行う）又は他の方法。
- ★5 自爪の長さや爪床から剥離している爪甲を全て切除。
- 6 P.9の施術前の準備作業1～13にP.38を追加した前準備を行う。※ペンカルンは多目に厚い皮膜を作りライトも長目に当てる。
- ★7 どんな重度でも後爪郭部の爪甲の両サイドは米粒1個分又は1/2個分は必ず残して切除する。
- 8 切除の際、巻いている爪、陷入している爪だけを取る事。必要なない爪甲は決して切除しないで下さい。→
- 〔重要〕★9 側爪郭の内側の皮膚が硬く角質化し側爪郭に入り込んだ爪と合体しています。切り取る際そのまま引き抜くと硬い皮膚まで引き抜く事になり出血します。硬い皮膚と爪を切り離しながら不用部分の爪を切除して下さい。
※切除後エタノールを多目にかけ爪溝の角質を柔らかくして取り除いて下さい。
- 10 ●施術を始めます。参照P.36～44 [重度A、重度B、重度C] [肉芽のある巻き爪、陷入爪 (P.46～49参照)]
●症例に合わせて人工爪を作る施術をして下さい。

P.9の前準備に追加して下さい（重度の爪、要注意の爪）P.38参照
 ①作業4～多目
 ②作業6～7～2回行う
 ③作業10～多目。爪の厚みに塗る
 ④作業11～安定は1分位
 ⑤作業12～遠目からの冷風ドライヤー30秒～40秒
 ⑥爪甲の上のベンカルン（カルン）に必ずナオルラブトを長目20秒位当て科学反応をおこす。



先端が鋭く薄い強度のある医療用ハサミを用意します（医師が切る）

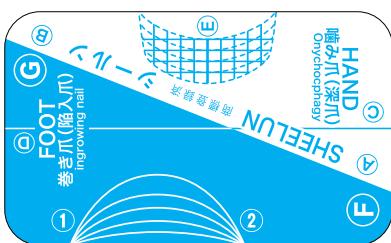
★8番



○ 爪溝に深く入りこんでいる陷入している爪だけを切る。
× 爪甲を切りすぎです



■ シールンの使用方法 P.9 (作業 9 シールンの用意、14 シールンの取り付け) 【趾爪】 使用



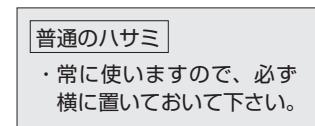
[A]～[B] 折る⇒〈青色面〉趾用〔巻き爪、陷入爪変形爪 etc.〕
 [C]～[D] 折る⇒〈透明面〉手用〔噛み爪、深爪 etc.〕
 テーピング用としても使用（参照 P.82）

■ 用途

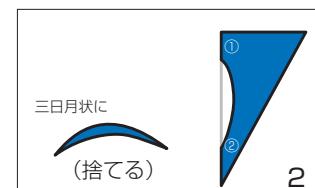
- 不用部品の爪を切り取った部位に人工爪を作る下敷として使用。
- 不用部分の爪を切り取った形の側縁部に合わせてシールンを切って用意する。
- シールンの裏紙を剥がすとシール状になっています。
裏紙は A4 で剥がして下さい。趾指の腹側に付け固定粘着させます。P.9 準備作業 14 その後微調整する。（少しずつ動かし合う場所で固定）
- ナオルンシザーをご使用下さい。丸みがあるカーブ状に切ることができます。1人に対し1枚、切りながら何ヶ所でも使用可。
- 中度～重度の場合、又爪甲の状態によりシールンを普通のハサミで長方形に切って使用します。1枚で切りながら何人でも使用できます。
- 趾爪の内側専用のシールンを1枚のシールンから2名分用意する方法 - 参照 P.29-C



ナオルンシザー（シールン用）



1



2



2



(例 1)

A 一枚使い 基本の使用方法 【趾爪の場合】

＜施術前の準備（P.9 作業 9 シールンの用意）＞

- シールンの「①～②」を青い面に沿って強く折る。
折りが弱いとシールンが施術中に剥がれます。
- シールンの青い面の「①から②まで」の端から端まで、丸みのあるナオルンシザーで 3～4mm 幅の三日月型に細長く切り落とす。はじめは1本目のラインで切ってみて下さい。全く合わない時は他のラインを切ります。

■切ったシールンを動かすと必ず合う場所があります。微調整して下さい。

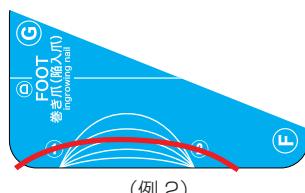
※巻き、陷入した爪甲側縁を切り取った後の自爪のラインに合う様にシールを切る。

※切ったラインに合わせるのでシールンのラインを無視して切る場合も多いです。

[重要] ★痛み始めの●と爪先に合わせてシールンを取りつけする事。

シールンが趾裏の腹にとどかなく貼れない場合

- (例 1) ●軽度の場合、趾爪が大きい方など、シールンが腹に貼れない場合は折りライン④～⑤の内側を力強く折って腹に届くようにして下さい。写真（例 1）
- (例 2) ●シールンの下から3本目のラインを使用し長く曲線なラインに切って下さい。写真（例 2）

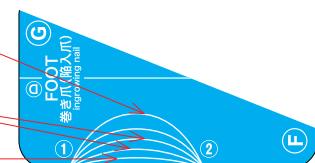


(例 2)

変形爪や爪甲の剥離を切り取った後の変形したラインに使用

軽度～中度～重度に使用

軽度に使用



3. **A左手**（逆利き手）で趾指を軽く握り、シールンの取り付け位置を確認します。

手でのシールンの持ち方【支え方】**A～C**

- B**趾指は最後まで握り動かさない様にして下さい。

シールンの切った「①～②」のラインのどこかに切り取った爪甲側縁の形と合う場所がありますので、シールンを動かしながら探しその場所にシールンを取り付けます。



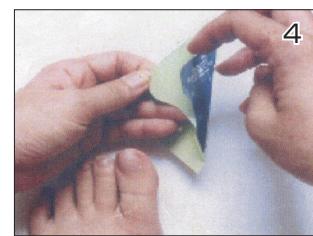
痛み始めの●と爪先にシールンを合わせる事。

4. シールンの裏紙を取る。

5. ★趾指の裏の腹側に透明の（手用）の部分を貼る。

6. シールンを動かしながら微調整し、切り取った後の爪甲側縁と平行に貼り合わせる。

C逆きき手の指を広げてシールンを下から支える。



4



5

7. 施術者から見て… シールンの貼り方

右足の爪の【外側】は

Fの所を広くしっかりと貼り合わせる。

Gの所は先端を少し、しっかりと貼る。

【内側】はシールンを短く切り

Gの所を広くしっかりと貼り合わせる。

Fの所は先端を少し、しっかりと貼る。



左足の爪の【外側】は

Gの所を広くしっかりと貼り合わせる。

Fの所は先端を少し、しっかりと貼る。

【内側】は

シールンを短く切り**F**の所を広くしっかりと貼り合わせる。

Gの所は先端を少し、しっかりと貼る。



6



7

■ 1枚のシールンで作る両足の施術の場合のシールンの使い方の順番

- 1 両足の爪の外側を最初にフルトロンで作る。

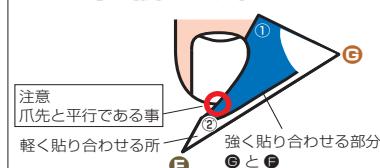
- 2 シールンを短く普通のハサミで切り、両足の内側、両足の趾爪に巻き爪、陷入爪がある場合、フルトロンで作る。参考 P.29-C

↓

PPペストロ・形整え・ラバシン→終了

8. シールンが動かない様に、患部の趾指を持っている手の指を広げてシールンを下から動かない様支える。

爪先の先端とシールンと必ず平行である事（例：左足）



注意（指先と平行）

9. 爪先の先端とシールンは図○隙間なく平行にし隙間なくする事。



この部分

【注意】

①爪甲と爪床の間にシールンを深く差し込まない事。

②爪甲の上にシールンをのせて作らない事。

③切り取った爪甲側縁に平行にシールンをセットする事。

④シールンを取り付け終了後シールンの1部分が爪甲の上にのった場合、指でシールンを上から押して爪甲の下にシールンを動かし爪甲側縁と平行にしフルトロンを使用。

※⑤爪先の先端とシールンは隙間なく平行で空間はない事（下から支える）

⑥**G**と**F**以外は粘着させない事。（シールンの切り方により様々な場所を粘着させる事があります）

爪先の先端と隙間なくシールンを取り付けフルトロンを作る。
(隙間があると爪先の人工爪がぶ厚くなってしまいます)

B 趾爪の内側に取りつけるシールンの切り方

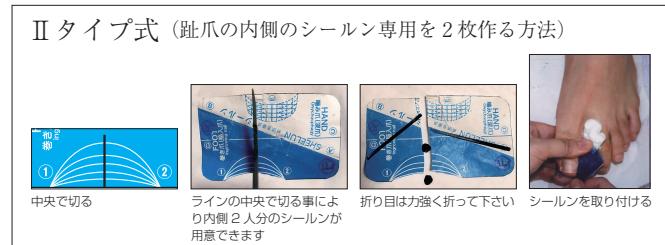
I タイプ式 [1枚のシールンで外側のフルトロンを作った後にシールンの上部の部分のシールンを普通のハサミで切り内側用に小さくして使用]

- 初心者向き（簡単な為）
- 側爪郭の盛り上がりが少しもある方はこちらのIタイプで使用して下さい。（簡単なテーピングの代わり）
- 両足の趾爪に巻き爪、陷入爪がある場合－参照P.28 ■参照



II タイプ式 [シールンを中央で切り内側用のシールンを2枚作る方法]

- 趾指の内側に取り付ける場合はシールンが大きすぎる所以、普通のハサミでラインの中央ラインから半分に普通のハサミで切って取りつけて下さい。第2跡指がじゃまになります。
- 内側だけの巻き爪、陷入爪の方は1枚で内側だけの巻き爪、陷入爪の2枚分のシールンが用意できます。



C 長方形に切って使用する方法

- 埋もれた爪・変形爪など、側爪郭が妨げとなりシールンが平行に取りつけられない、又は届かない場合はシールンを切って使用します。

例：テーピングなど他のページを参照して下さい。

- ・埋没爪
- ・爪甲側縁のもり上りが重度
- ・変形爪
- ・重度巻き度数 $80^\circ \sim 100^\circ$ の爪
- ・平行に取り付けができない爪
- ・一枚使いが難しい場合



- 長方形に普通のハサミで幅を考えて切る。切除したラインに合わせて、シールンをナオルンシザーで切る。色々な切り方を試して下さい。

爪甲を切除したり、変形爪の場合

1枚のシールンで1人の患者様の場合、普通のハサミやナオルンシザーで切りながらシールンがなくなるまで使用できます。自由に切ってコツをつかんで下さい。



D 看護師に支え持つて貰う方法（変形爪 etc.）

- 爪が変形しすぎて1回でフルトロンが作れない時。（写真1）
- 何回かに分けてフルトロンを固めて理想の形にして作る方法の時。
- 側爪郭のもり上りが激しい時。
- 爪甲から剥離している爪を切除した時、爪甲が変形した形になった場合。



長さ、剥離している爪甲を全て切除して爪甲が変形した爪



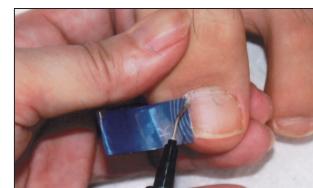
(写真2)



(写真3)



(写真4)



側爪郭部が盛り上がっている時
少しづつフルトロンを作ります。
(理解しやすくする為、ノーマルな爪の皮膚を使用)
1人で行う場合

シールンを使用しない爪

- A** 爪甲が正常では無い爪。（深爪 etc.）巻き爪、陷入爪の無い爪甲→PPペストロのみで補正（P.9の前準備は行う事）
(変形爪、スプーンネイル、噛み爪、etc.)



A

シールンが必要ない場合。爪甲だけが正常でない時。

- B** 不用部分の爪を切った後、爪床が普通の皮膚で爪床が下ってなくだいたい平行の爪床の場合、爪床がシールンの役目をします。（爪床にはナオルンは付きません。伸び率には関係ありません）（爪床が正常で平行であった場合）



B

側爪郭部・指先の皮膚が盛り上っているシールンの使用方法 [巻き爪・陥入爪・趾爪]

P.9の施術前の準備及び不用部分の爪の切除は必ず行う事。参照P.81～82 テーピングの仕方4種類

側爪郭の盛り上り度

- A** 軽度の盛り上り…不用部分の爪を切除した後、シールンを取りつける。(1枚使い)
- B** 中度の盛り上り…同上（シールンを切って小さくして使用）
- C** 重度の盛り上り・埋没爪…普通のテーピングをした後、不用部分の爪を切除する。
その後シールンを取りつける。(1枚使い)

(重度の側爪郭の盛り上り 指先の先端の皮膚(肉)の盛り上り) (爪床の上の爪甲が短い症例も多い)

テーピングの仕方ABCとフルトロンの使い方

- A 軽度** シールンを1枚使いとして使用のテーピング+（フルトロンの土台）の併用。参照P.28又はP.82

シールン1枚使いIタイプ・IIタイプ

Iタイプ式

- ①事前に側爪郭を指で押して柔かくする
- ②1枚使いのシールンを切除した側爪縁に取りつけ固定する
- ★③自分の親指の第一関節から指先までを使いシールンを力強く押し、側爪郭を押し下げる。
- ④シールンを押し下げながら、フルトロンで理想の形の人工爪を作る。側爪郭を押し下げている指は、ライトを当てて固まるまで離さない事。
- ⑤フルトロンで趾爪の指先まで人工爪を作る事。
- ⑥シールンを取る→PPペストロ→ラバシン

●わかりやすくする為ノーマルな側爪郭の写真を使用しています



左側の側爪郭を押す親指



右側の側爪郭を押す親指

IIタイプ式

- 次のページのP.32のA-1～4を行う（※A-2の縦は長く切る事）
- 右側の側爪郭を潰す時は右側のシールンを下に力強くひっぱる→フルトロンで補正→PPペストロ→ラバシン
 - 左側も同様

B 中度

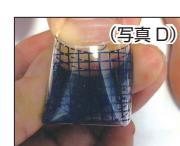
シールンを小さく切って使用してのテーピング+（フルトロンの土台）の併用。[フルトロンで何回かに分けて片側の側爪縁の人工爪を作る為シールンが移動しやすくなる為]

- ①シールンを趾爪の内側用（参照P.29-B）の様に小さく切り除した側爪郭に取りつけ固定する
- ②シールンを力強く自分の親指の爪先で側爪縁を押し下げる
- ③フルトロンで何回かに分けて人工爪を指先まで作る



指先の盛り上りのシールンの使用方法

- シールンを取りつけた後、★爪甲の左側は逆さき手の親指の先端でシールンを強くおす→フルトロン→ライト（固める）写真A シールンを下の方へ移動させる。親指で強く押す→フルトロン→ライト（固める）…を指先まで行い人工爪の両サイドの側爪郭部を押しながら指先までフルトロンで作る★爪甲の右側は趾指を握り人さし指→薬指の上にのせ親指で押しながら作る。写真B
- シールンを取りつけPPペストロ→ラバシン



指先の盛り上りのシールンの使用方法 P.81-テープB参照

- ①シールンの②～④を力強く折り、⑤を爪幅に合わせて切り爪先に取りつけ貼り合わせる。写真C・D
- ②シールンの両サイドを下におしながら左右のシールンの端を趾指の裏側に力強く引っぱり持つ。先端部分をフルトロンで指先まで薄く→ライト→PPペストロ→ラバシン

C 重度・埋没爪

※テーピング必須 普通のテーピングを行います+1枚使いでのシールン（フルトロンの土台として使用）参照P.81-テープB 重度のテーピングの仕方

- ①爪甲側縁と側爪郭を出来るだけ離し爪溝を広げる。（不用部分の爪を切り易くする為）
- ②側爪郭を押し下げ出来るだけ下の方に向けてテーピングを行う
- ③指先の先端皮膚（肉）も盛り上っているので②とは別に指先のテーピングをして先端を押し下げる
- ④テーピングをしてもフルトロンの土台のシールンは必要になります
- ⑤フルトロン→PPペストロ→ラバシン
- ⑥ナオルン人工爪の補正が全て（ヤスリがけも含む）終了したらテーピングのテープを外します。

■ シールン使用方法【手爪用・長さ出し】[手爪の側爪郭の盛り上りのテープティング]

手爪ではほとんどの場合、シールンの使用は必要ありませんが、次の様な時に使用して下さい。

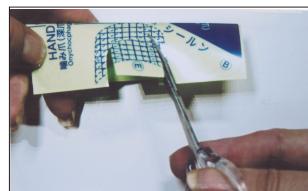
■用途

- 指先より人工爪を長く作りたい時
- 深爪・埋没爪・変形爪で側爪郭・指先先端の皮膚（肉）が盛り上がっている場合に、シールンで側爪郭を押し下げ、指先の先端の皮膚を押し下げ（例）埋没爪（参照P.82）テープティング代わりとして使用する事もできます。（軽度の場合）
- 手爪の巻き爪・陷入爪の場合

※手爪の巻き爪、陷入爪以外はペンカルン+PPペストロのみ使用。（重い荷物を持つ、マッサージなどの仕事の方はラバシンを必ず使用して透明マニキュアを塗って下さい）

A 指先よりも長く人工爪を作る時（変形爪・噛み爪・スプーンネイル etc.）【本人の希望の場合】

1. シールンの「◎-◎」をしっかりと力強く折ります。
2. シールンの「E」部分を（普通のハサミで）手爪の幅に合わせて切れます。
※側爪郭とシールンの間に隙間を作らず少しきつめに切って下さい。
※①の縦のラインは深く長目に切って下さい。
3. 印刷された「E」の横の横のラインは爪先の形に合わせて切れます。この際、ナオルンシザーを使用して爪先のラインに合わせて丸みのあるラインを切る。
4. シールンの裏紙を剥がして、爪先に合わせて左右をしっかりと貼り付けます。
※爪甲が爪床の中央までしかない時も爪先に合わせます。
※手用の場合、透明のフルトロン、PPペストロをお勧めします。
5. 作り方 A1～4を行った後、P.51に従いシールンの上にもPPペストロを作り希望の長さの人工爪を作ります。
●シールンがずれない様に下から押さえて下さい。
●植え足しは必要です。→P.18～20
※長さ出し専用のテフロン製のフィンガーサックがあると便利です（別売）。3,500円。1本で長く使えます。P.81参照。



B 手爪の側爪郭の盛り上りの為のテープティングとして使用する場合（例：スプーンネイル）（変形爪 etc.）A-1～4を行う。

- 左右のシールンをしっかりと貼り合わせ、側爪郭を潰す様に左右のシールンを下へ下げるPPペストロで理想の人工爪を作る。
- ※手爪の巻き爪、陷入爪の補正の方はシールンを使用し趾爪と同様に施術をする。

C 手爪の指先の盛り上りの為のテープティング A-1～4を行う。

- 指先のシールンを下に向け押して、盛り上りを潰してPPペストロで指先ギリギリまで人工爪を作る。
- 埋没爪の補正の仕方参照P.51
 - フィンガーサックがあると便利です。P.81

■ [趾爪] ナオルン人工爪の作り方・補正の仕方 [巻き爪、陥入爪]

軽度～中度 (ベンカルン+フルトロン+PPペストロ+ラバシンを使用)

1. P.9 の施術前の準備をしっかりと行います。

作業 1～14

- ・P.13～15 の基本的な人工爪の作り方にプラスして施術します
- ・ナオルンニッパー使用。誰でも補正できます。



軽度巻き爪、陥入爪



施術後



[小骨切除専用ヤスリ]



カーブ型



ストレート型



2Wayタイプ
(ストレートヤスリ
カーブヤスリ)

(別売) ¥6,000

使用方法

ナオルンニッパーで不用部分の爪を切除した後に使用します。小骨切りヤスリで側縁部の爪を削る。ストレート面かカーブ面で削ります。小骨を完璧に取り除きます。



施術前の注意点

A. 不用部分の爪の切り方

[ナオルンニッパーの刃先で少し切り
上向きに爪を引き出しながら切除していく]

…簡単説明 P.23 参照（不用部分の切り方基本形）

- ① 事前に自爪は短く剥離の部分も切除。
- ② 痛み始めの印し●の所まで不用部分の爪を切る。まっすぐ切る。
ボロボロ（段差がある切除は小骨に成長することがあります）
- ③ 切り終わったらオレンジスティックで確かめ、引っ掛けがあったら小骨を切る。
- ④ 特に陥入爪の刺し爪は小骨を切り残さないで下さい。
残っていると再発します。小骨切除専用ヤスリをお勧めします。
- ⑤ オレンジスティックで残っている角質・汚れを取る。
ナオルンエタノールを多目に吹きかけると角質が柔らかくなります。
- ⑥ 出血したら適切な消毒をし乾かす。

B. ベンカルン→ドライヤー→ナオルンライト

- ① 爪甲の上で化学反応を起こさせ、取れない人工爪にします。（強固な被膜の作成）P.9 作業 10、11、12、13

C. シールンの取り付け P.27～31 参照

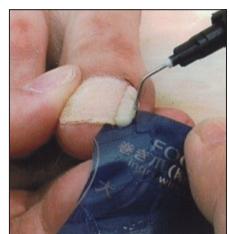
- ① 切り取った後の爪甲側縁部に平行にシールンを取り付け粘着させます。[シールンを取り付けてから B を行っても良い]

★ P.16（基本的な人工爪の作り方）にプラスして施術してください。

2. フルトロンで切り取った部分の人工の爪を作ります。 →ライトを当てます。15

作業15の注意点

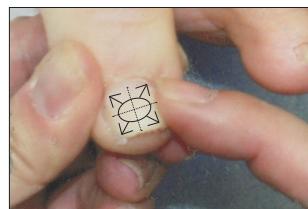
- ◎L状にフルトロンで指先までラインを作る。
- ◎L状の中を埋める様にフルトロンを左右に動かしながら人工爪を作る。（薄く作る事）
- ◎後爪郭部の両サイドの米粒1/2のフルトロンは、ライトで固める前に段差なくうすくのばす。P.16参照
- ◎できるだけ直線的に作ります。（シールンの取りつけ方に注意）
- ◎爪上皮の上には決してフルトロンをのせない事。
- ★◎爪甲の左右両方が巻き爪、陥入爪の方は、もう片方の趾爪の外側も3の前にフルトロンで人工爪を作ります。P.28 ■参照



3. PPペストロを爪甲全体に段差なく薄く作ります。（厚みはラバシンで行います）→ライトを当てます。16

作業16の注意点

- ◎薄く作る。
- ◎厚みや爪甲の左右のバランスはラバシンで行う。
- ◎オレンジスティックでくくうように取ると出し過ぎ防止になります。



※ポイント

- ◎後爪郭部とその両サイドを薄く作る。（患者様がその段差に自分の爪を入れて取る様な行為をする為）参照 P.16
- ◎解らない様ご指示下さい。
- ◎寒い地域の冬場は、取り出したPPペストロをドライヤーの温風で柔らかくして下さい。

【重要】PPペストロの表面の段差とりの為に行うエタノール

- ◎PPペストロが終了しライトを当てる前に、ナオルンエタノールを指の腹にワンプッシュの1/3程を濡らし、丸を描く様に爪甲の上のPPペストロを撫で表面の段階を取ります。表面のヤスリがけが必要なくなります。

※決してぬらしすぎない事。PPペストロがとけてペトペトになってしまいます。

※エタノールをワンプッシュしたあとティッシュに少しだけ触り余分なエタノールを取ってから行う事。

作業17の注意点

4. ナオルン専用粗目ヤスリ又はマシーンで人工爪の形を整える。17

- ◎ 形を患者様が気に入らない時は、自宅にてヤスリで形を整えて頂いて下さい。
- ◎ ステンレスの粗いヤスリ（オートクレーブ使用可）別売
- ◎ 粗いヤスリはガラスフィラーに合わせたオーダーメイドの特別な粗さのヤスリです。（色が変わる場合あり）オートプレートに入れたい時は必ず乾燥させて下さい。ただし紙ですので脆くなりがちです。
- ◎ 患者様にもお勧め下さい。
- ◎ ヤスリの持ち方 参照P.79～80
- ◎ ゴム製のラバシンの後でのヤスリは削りにくくなる。



5. ラバシンを爪甲全体に作り厚みや形の調整をします。

→ライトを少し長く当てます。18

(バステットボールの表面の硬さ位まで)

- ◎ 両サイド等厚みの調整は必ずラバシンを使用します。
- ◎ 爪の形が左右均等でない場合、爪甲両サイドを爪甲中央の一番高い場所に合わせて、ラバシンで厚みを作ります。
- ◎ ラバシンが衝撃を分散・吸収します。必ずご使用下さい。
- ◎ ラバシンはゴム製なので汚れが付き変色するので、ご自宅で透明マニキュアをぬってもらって下さい。（病院で用意しても良い）コンビニで150円です。（ベースコート）
- [重要]** ◎ スポーツなどの趾爪に圧力がかかる方は、PPペストロを薄く作りスポーツに適したラバシンの厚みにして下さい。



6. 終了 19

<ワンポイント>

〔女性のみの例外〕

- ◎ 女性の方でどうしても足の爪のマニキュアをしたい方はPPペストロで終了しご自宅で光沢を出してマニキュア・ジェルネイルができます。又、ネイル、フットサロンにも行けます。ただしラバシンを使用していないので補正力は不十分になります。特に夏はPPペストロで終了の要望が多くなります。
- ◎ フルトロン、PPペストロは除光液・アセトンに決して溶けません。ジェルネイルや色々なアートが楽しめます。
- ◎ ラバシンの上にベースコートを3回ぬった後に簡単なマニキュアは塗れます。



透明マニキュア

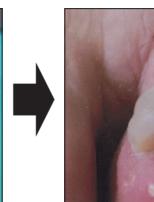
■【趾爪】ナオルン人工爪の作り方・補正の仕方

重度A [巻き爪、陷入爪、混合爪、変形爪、剥離]

(※神経ブロック注射) + ペンカルン+フルトロン+PPペストロ+ラバシンを使用



重度巻き爪・陷入爪 etc



施術後

◎埋没爪
P.56 参照

不用部分の爪の切り方【簡単説明】

- P.23の不用部分の爪の切り方【基本形】+【軽度～中度】
参照 P.24～25に以下のA～Fを追加して下さい。
- 必要な場合、先端が鋭く薄い強度のある医療ハサミを使用する。(切除のみ医師が行う)
- 必要に応じて神経ブロック注射を行って下さい。

先端が鋭く薄い強度のある医療用ハサミを使用する。(医師のみ)

- A.** どこから巻いて刺さっているか、後爪郭部からゆっくりとオレンジスティックで内側に隠れている爪甲側縁を押して広げて痛み始めの所に●印をつける。(爪溝に入り込んでいる爪)

※後爪郭部を指で押し下げて側爪郭（爪溝）に隠れている部分の端の爪をナオルンスティックで押します。（重要）



- B.** 趾基部にチューブをきつく巻き、神経ブロック注射を行う。
(必要な場合)

※神経ブロックにアレルギーのある方は、氷で指先を冷やし痺させる。又はコールドスプレーを使用して下さい。（経川麻酔テープ）（ペンレステープ、リドカイン etc.）



- C.** 人工爪ニッパーで爪を短く切り、剥離している部分も全てオルニッパーで切り取る。



- D.** P.9の施術前の準備をしっかり行う。**作業11は長目に1分位安定させる事。**+ P.38 重度の爪・要注意の爪の前準備を追加する事。

- ペルカルンが皮膚や出血していた所に付いても問題ありません。
- 重度の方はペンカルンを多目に。爪の厚みにもねって下さい。
- 作業11の安定は1分位安定させる。
- ドライヤーは遠目から長目にかける。

E. 先端が細く強度な医療用ハサミで湾曲している部分、爪床（爪溝）に食い込んだ爪甲側縁を切り取る。

★するどく陷入、巻いている場合、少しづつ刃先で切り、硬く、陷入しているので爪が抜けません。人工爪ニッパーで強く上向に引き出しこの行為を●印の部分まで続けて不用部分の爪をできるだけ直線に切除する。

【重要】

- どんな重度でも後爪郭部の両サイドの部位は必ず少し（米粒1/2個分程）残して切る。この部分はフルトロンと合体させて爪を真っすぐ伸ばす為の土台とする為。
- 爪甲側縁をしっかりと調べ小骨がないか確かめる。
- ★○陷入爪の場合、切って引き上向に爪を出す時、爪の回りの皮膚が固く付着しています。ナオルンニッパーで間を切りながら●まで切除する事。そのまま引き抜くと角質（皮膚）も引っぱられ出血の恐れあり。
- 小骨切除専用ヤスリのご使用をお勧めします。P.33 参照



F. シールンを長方形にハサミで切り、爪に平行にセットする。

参照…シールンの使用方法 P.29-C・D 参照

- 看護師様にシールンを持ってもらうと楽です。
- 自爪と平行か上向きにセットする。
- 何回かに分けてフルトロンで爪の形を作る。



重度A 人工爪の作り方・補正の仕方

[基本的な人工爪の作り方] 参照 P.13～15 作業 14～19、
[軽度～中度の人工爪の作り方] 参照 P.33～35 に追加して
補正してください。

1. フルトロンで今までの形は無視して理想の形の爪のラインをシールンの上につくり自爪で結合させる。→ライト

- A ○爪の形がとても変形している場合があるので、1度で全て作らない事。何回かに分けて固めながら作る。
- B ○フルトロンで少し作り→ライト→シールンを取る→シールンを次の場所に移しセット→フルトロン→ライト……と何回かに分けて、できるだけ爪甲側縁をまっすぐに作って下さい。
- C ○指先ギリギリまで、フルトロンで作って下さい。L状に作り指先まで作る。
- D ○フルトロンで厚みを作らない事。ラバシンで行う為。
- E ○指先は右側と左側のフルトロンを結合させ、まっすぐな指先の先端を作る。

2. PPペストロ→ライト→人工爪の形整え→ラバシン→ライト

3. 終了

ラバシンはゴム製です。自宅にて透明マニキュアをぬつてもらって下さい。



再発予防方法……参照 P.68 (必須)

**重度の爪（要注意の爪）（手の爪）は P.9 の施術前の準備に追加して
施術を必ず行ってから人工爪を作つて下さい。**

重度の爪（要注意の爪）の P.9 施術前の準備に追加する項目

【重要】

● **[趾爪]** 重度の爪又は要注意の爪は P.9 の施術前の準備に以下の作業①～⑥を追加して下さい。
必ず行い取れないナオルン人工爪にして下さい。

- ① **作業4**—多目に爪甲を削る事。（薄い爪の方除く）
- ② **作業6、7**—2回行う事。しっかりと爪甲の上をまっ白にさせる事。
- ③ **作業10**—多目に厚く爪甲の上に被膜を作る事。
- ④ **作業11**—安定はペンカルン（カルン）が厚くなっている為、1分位安定させる事。（趾爪は平行に持っている事）
- ⑤ **作業12**—被膜が厚い為、遠目から冷風ドライヤーを30～40秒当てる事。
- ⑥ **作業13**—カルンと化学反応を起こさせナオルン人工爪が取れなくなる為のナオルンライトを長目に30秒位（爪甲・厚み全体に）（ライトを動かして下さい）当てる事。

● **[手爪]** の場合、全て要注意の爪に当たります。ただし作業4は症状に合わせ薄い爪は慎重に行う。作業6、7を3回行い、油分、水分を取つて下さい。透明PPペストロをお勧めします。

●巻き爪のストローネイル（爪母が原因で爪母から巻いて伸びてくる爪）

ストローネイルだけは、ナオルン単品だけでは補正できません。フェノール法や両サイドの抜爪などを併用して施術して下さい。（2回目からの補正必須）2回目からの伸びて来た自爪に植え足しがストローネイル補正に最も効果を出していく事になります。

●ペンカルン（カルン）の作業が完璧な状態の場合、ナオルン人工爪は絶対に取れない商品となります。

●人工爪は「ナオルン人工爪」と名称して下さい。（アクリルの人工爪とは全く違います）

■ [趾爪] ナオルン人工爪の作り方・補正の仕方

重度B [巻き爪・陷入爪・その他] 巻き度数 70°～80°

（※神経ブロック注射）（ベンカルン+フルトロン+PPペストロ+ラバシンを使用）



P.9の前準備をしっかり行って下さい。P.38 + (P.9の重度の爪用注意点) 参照
人工爪の作り方 [基本形] P.13～+ [軽度～中度] P.33～+ [重度A] P.39～
にプラスして施術して下さい。必要に応じてブロック注射をする。

重度Bの爪とは

- 側爪郭がひどく盛り上がっているが、テーピングをして人工爪が作れる爪の事
- 爪先の湾曲が80°以内である爪の事

特徴

- 重度Bの場合、外から見る予想以上に非常に爪が奥深くまで皮膚に突き刺さっていてその縁は刀のように鋭く側爪郭にくい込んでいます。
- 切り取った後には硬い角質が多く貯まっています。念入りにナオルンエタノールを吹きかけ十分に角質を柔らかくして搔き出し硬い角質はナオルンニッパーで全て切除して下さい。適切な消毒を完璧に行って下さい。爪溝が深くなりシールンで人工爪を作った際、爪溝があいていますがそれが正解な作り方です。
- 爪先が巻き爪で切除している途中から陷入爪の爪が多くあります。●の場所を奥深くまで見て下さい。途中からブロック注射をする事になってしまいます。

不用部分の切除・他・注意点

- A 側爪郭部をできるだけ指で爪甲と離して爪溝に埋もれている爪をオレンジステイックで押し巻き始め、陷入始めの場所を●決定する。
- B 必要に応じてテーピングをする。巻いて、陷入している爪だけを切除する事。（医療用ハサミを使用して下さい）
- C 出来るだけまっすぐに垂直に不要部分の爪を切除する事。
- D ベンカルンは多目に厚みを作る。ドライヤー、ライトも長く行う事。P.9作業11（1分位安定させる）
- E どんな重度でも後爪郭部の両サイドは米粒1/2は残して切除する事。
- F ★●重度A、重度Bの不用部分を切除する際、切って上方に爪を引き出しながら痛み始めの●印の所まで行う。しかしその際、側爪郭の内側の皮膚が激しく角質化して爪の様な固さになり爪と合体している事が多い。その為、切っても切除できない時が多くあります。
- 切除した爪を上方に引き出す時この硬い角質が剥がれず爪と一緒に引き抜くと無理やり皮膚を剥がし出血してしまう事が多くあります。
- ★○引き抜く際、硬い皮膚と爪をナオルンニッパーで切りながら不要部分の爪を引き上げて出して、切除する事。小骨専用ヤスリをお勧めします。P.33参照
- ★○ナオルンエタノールを多目に吹きかけ、爪溝の角質を柔らかくしてナオルンニッパーで固い角質も完全に切除する事。（汚れetc.）
- G ○シールンは爪甲と側爪郭の間にに入る様に幅・長さに合わせて長方形に切る。（etc.）
 - 例1
 - シールンの1枚使いで切り取ったラインに合うカーブにナオルンシザーでシールンを切る。例2
 - 爪甲と側爪郭の隙間の溝にシールンを平行にセットして看護師様に持つてもらいフルトロンを使用すると重度Bの場合早く終了します。防護メガネ必須。
 - 側爪郭の盛り上りのある方などシールンの使用方法を参照して重度Bに合ったシールンを用意して下さい。参照P.29C～P.30D～シールンの使い方

重度B 人工爪の作り方・補正の仕方

[人工爪の基本的な作り方] 参照P.13～
 [軽度～中度の人工爪の作り方] 参照P.33～に追加して作り、補正して下さい
 [重度Aの人工爪の作り方] 参照P.39～

重度B 人工爪の作り方、補正の仕方のポイント・追加分

★1 P.9の作業3、4、6、10、11、12、13を多目に長目に行う事。

P.38 参照。作業11は特に1分位安定させて下さい。

2 シールンの切り方と取り付け方を爪甲の状態に合わせて選択する。(参照P.29C、P.30D)

3 (テーピングを行い) 爪甲と側爪郭をできるだけ広げる事。参照P.81B

4 トウガードを使用する事をお勧めします。(隣の趾指が負荷になる為)(別売) 大きい足でも指の間に何個も入れられ広げる事が出来ます。

5 医療用ハサミを使用。

6 フルトロンは後爪郭部の両サイドに、少しの穴や隙間を作らない事。参照P.16

★7 本来の爪甲が曲がっていてなおかつ不用部分の爪を切除しているので爪甲の形が変形しています。両サイドのフルトロンのラインは惑わされずに垂直に正常な爪甲の様にまっすぐに作る事。

★8 フルトロンで指先の先端まで作る事。

9 フルトロンは光を当てるまで固まらないのでうまく出来なくとも、オレンジステイックでラインで形を整えてからライトを当てる。

★10 固めた後でもフルトロンの付け足しはそのまま行えます。何回かに分けて作る場合もあります。

11 巣きの強い爪で爪甲のカーブが強い場合のみフルトロンを多目に出し作ります+切除した側縁部に結合させるのみ

12 出血をしていたら、消毒をし、ガーゼで止血し、ガーゼを外し、すぐにフルトロンを使用。1回目のフルトロンは止血を目的として早くライトをあて固め、2回目にゆっくりと作ります。

13 後爪郭部とその両サイドの場所は厚く決して厚く作らない事。

14 PPペストロは厚く作らない事。(重度Bの場合、ラバシンを多く使う為)(ただし上からの圧力が必要な趾爪は除く。ラバシンは薄く作る事)

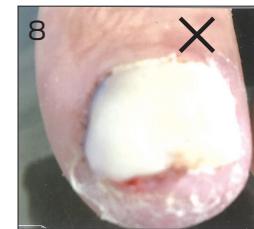
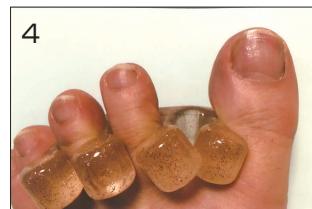
15 ラバシンでバランスの良い爪甲の形を作る。(特に両サイドのカーブの低いところは厚目につくり爪甲の中央部とのバランスを考えて作る事。ラバシンも後爪郭部は薄く作る事。(仕事の職種・スポーツをする方はラバシンを厚めに作って下さい。その際PPペストロは薄く作る事)

16 テーピングを外す。

17 透明マニキュアを塗る。

18 次回の植え足しの予約を取る。

トウガード(別売) ナオルン専用



■ [趾爪] ナオルン人工爪の作り方・補正の仕方

重度C (巻き爪・陷入爪・変形爪・重度のパイロットネイル)

側爪郭の盛り上がりが激しい爪・爪先が極端に狭い爪

巻き度数 80°~100°

(※神経ブロック) + 医療メス+ペンカルン+フルトロン+ソフトラバー+ PP ペストロ+ラバシン

(注意) 重度Cは使用する商品の順番が違います。

P.9の前準備をしっかり行って下さい。+ (P.38の重度の爪) 追加。参照 (必須)

- ・P.26 重度の不用部分の爪の切り方 (参照)
- ・P.39 重度Bの注意点 (参照) (A~G)

重度A・Bにプラスして施術して下さい。(作り方) P.36~40)

必要に応じてブロック注射。

医療メスを使用して下さい。

補正の仕方は2通りあります。

- 1 重度Bの施術法にて行う方法
- 2 以下の施術で行う方法

重度Cの爪とは

【症状】

- 爪先の湾曲が80°~100°の巻き爪、陷入爪
- 指先の先端や側爪郭が盛り上がっている爪
- 爪先の幅が極端に細く、回りの側爪郭の幅が広すぎる爪
- 外反母趾の方に多く見かけられます。

※爪母が原因のストローネイルは単独では補正できません。

必要とする場合、フェノールや一部抜爪とプラスしてナオルンをご使用下さい。

重度Cの補正=3つの目的

目的1 巾き爪、陷入爪を補正する。

目的2 爪先の極度な湾曲（巻き度数80°~100°）を補正する。

目的3 広くなってしまった指先の側爪郭を正常な幅に補正する。（爪溝を広げる）



重度のパイロットネイル
重度80°~100°の巻き爪（挟み爪）、陷入爪（刺し爪）

4ヶ月後 (20代女性)

重度C 巒き度数80°～100°の補正の仕方

目的1 巒き爪、陷入爪を補正する

- P.9の前準備を多く、長く多く行って下さい。爪甲の表面は多く削る。+ P.38追加
- 重度の不用部分の爪の切り方（参照）P.26
- [重要]** ● ペンカルン多目・1分位ペンカルンを安定・ドライヤー遠目から30秒→ライト30秒。完璧なペンカルン（カルン）にして下さい。

1 シールン——テーピングをして不用部分を切除した隙間（爪溝）にあわせて細く長方形にシールンを切り、隙間に滑り込ませる様にセットし押さえておく。

例：

隙間 シールンの形は△の様に切ります。

2 フルトロン——薄目に後爪郭部からシールン全体と不用部分を切り取った爪甲側縁にしっかりと結合させ固める。（側縁を巻かなくする為）
 ※シールンを取る。
 ※フルトロンの量は溝の深さの1/3の量にして下さい。

3 ソフトラバー——固めたフルトロンの上の爪溝全体にゴム製のソフトラバーを流し込み、植え込むように流し入れ固める→ライト長目（柔らかいソフトラバーが側爪郭に当る様にする為）
 ※ソフトラバーの量は溝の深さの2/3の量にして下さい。
 ※フルトロンより外側に少しだけはみ出してゴム製のソフトラバーが側爪郭の肉に当たる様に作る。

4 PPペストロ——薄く、薄くPPペストロを爪甲全体に作り固めます。（指先まで作る事）
 ●ヤスリで人工爪の形を整えます。

5 ラバシン——爪甲のバランスを見て厚みなど正常な爪甲の形になる様にラバシンで作り固めます→ライト長目

6 透明マニキュアを自宅で塗ってもらう。

目的2 爪先の極度な湾曲を補正する

- 1 伸びてきた自爪 1.2mm～1.5mm以内にペンカルン（カルン）、フルトロン、ソフトラバーで植え足しをする。（参照）P.18～20

※植え足しを続ける事により新しい爪が巻かなく指先の方へ移動していくので湾曲が補正され爪が伸びるたびに爪先が広がって行きます。常に粗いヤスリで指先まで短くしておく事。

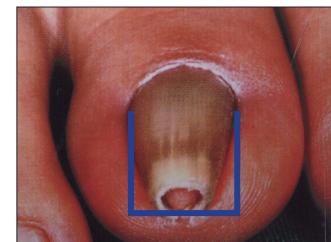
※年齢、男、女、病気の後遺症 etc. などにより伸び率は変わります。

※平均6ヶ月～1年ほどで趾爪は伸びります。

※自爪の巻き度 50°～60°になら人工爪を外します。

（爪先先端から見ると自爪の形が分かります）

※爪上皮が硬いと爪は伸びにくくなる為、爪に爪甲から剥がしておく事。又は切除する事。



目的3 広くなってしまった指先の側爪郭を正常な幅に補正する（ソフトラバー使用→ライト）

（目的2）が終了後自爪に植え足し（参照）P.18～20に来院するごとに両サイドの側爪郭を広げて爪溝にソフトラバーを流し植え足していく。来院のたびに以下を行う。

- 逆きき手の指で爪甲と側爪郭を出来るだけ爪溝を広げて隙間をつくる。（あける）
- 爪溝にナオルンエタノール（96%）→完全に乾燥させる。（ドライヤー冷風）
- 隙間（爪溝に）にそのままソフトラバーを流し入れて隙間（爪溝）を埋める→ライト長目
 - 前回作った人工爪と結合させる。
 - ラバシンで爪甲の表面を薄く作る。→ライト。自宅にて透明マニキュア



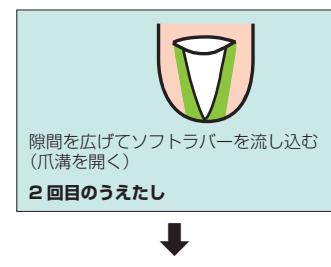
★目的2+目的3 [1～3] を来院する度に行う事。

- 青ラインが普通の爪のライン
- 側爪郭（爪溝）の幅を広げる施術をします（目的3）

爪溝にソフトラバーを流し込む



爪溝を広げ
又ソフトラバーを流し込む



※正常な側爪郭の幅になるまで
続けて行う。



正常な側爪郭の幅まで広がってきたら（正常な爪の形）
ナオルン人工爪を作り直します

- 全体的に人工爪を外します。参照P.22
- 両サイドのソフトラバーを取ると爪先の爪溝が深くなっています。
- 自爪の巻き度数が50°～60°になっていたら新しい人工爪を作ります。
- この段階で巻き爪、陷入爪は根治しています。
- 年齢にもよりますが10代～20代前半で約3ヶ月位で湾曲が60°位になります。
- ★●新しく作る人工爪により側爪郭が元に戻らなくする為に行います。

新しい人工爪の作り方の注意点

- ★1 人工爪ニッパーで両サイドの爪溝のソフトラバーを切除します。（その下に作ったフルトロンも必ず切除する事）
- 2 爪甲の上の人工爪を約半分の厚さまで削り取ります。
- ★3 自爪の後爪郭部にP.9の前準備を行います。（他の部分の爪甲は人工爪が少しついている為必要なし）
- 4 前回補正した巻き爪、陷入爪が根治しているか確かめます。
- ★5 95%直っているはずですが、もし巻いていたらその部分を切除して下さい。（6で補正が出来る為）
- ★6 今回の人工爪を作る目的は側爪郭部が元に戻らない為に作るので、全体的に薄く、薄く作って下さい。
- 7 基本の人工爪の作り方（参照）P.13～15に従いナオルン人工爪を作って下さい。
- 8 ゴム製のラバシンは必要ありません。PPペストロで終了して下さい。（補正根治している為）
- 9 終了

※1回の人工爪作成のみで終了ですが、患者様に人工爪の形の整えと、爪を指先までヤスリで短くしておくことをご指導下さい。その為この際の人工爪は全て薄く作って下さい。

★ナオルンは根治治療です。寛解の状態です。原因が改善していない方、指導に従わない方は再発します。原因P.72参照。

再発予防法 PPペストロだけを使い、爪甲全体に薄く作り、巻き、陷入を予防する。

※根治後人工爪を外した後、伸びた自爪だけにP.9の施術前の準備（作業3、8、9、14を除く）を行う→PPペストロを薄く作る。参照P.68再発防止について

※その方の巻き、陷入している場所により3～6ヶ月に1回少しだけ、薄くPPペストロをつけたしながら原因の改善を行っていく。

重度Cの場合

時間がかかりますが、重度Bの施術法にて行う事も出来ます。

注意点

- ・小骨は完璧に切除する事。爪溝に食い込んだ爪だけを切除する事。
- ・爪溝の汚れ、角質を完全に切除する事。

■ 軽度の肉芽処理の方法

★軽度の肉芽処理の方法と巻き爪、陥入爪の人工爪の作り方の手順

- 適切な肉芽処理をして下さい。
- P.9の施術前の準備の1～14を終了させます。
- P.9の15～19施術に入ります。

※症状により1と2が逆になる事があります。

■ 肉芽組織形成

☆肉芽の進行度合い

- ◆軽度 黒色期 慢性期の深い
- ◆中度 黄色期 壊死組織が潰瘍底に残り滲出液が増える
- ◆重度 赤色期 肉芽組織が増生
- ◆最重度 白色期 上皮形成になる

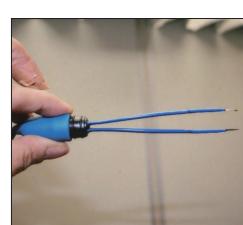
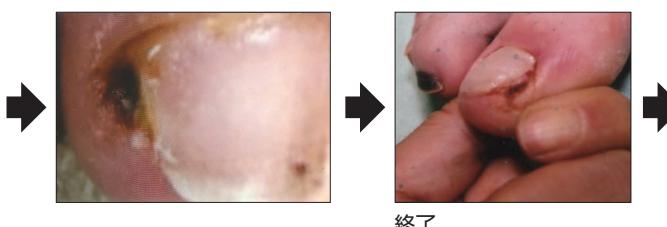
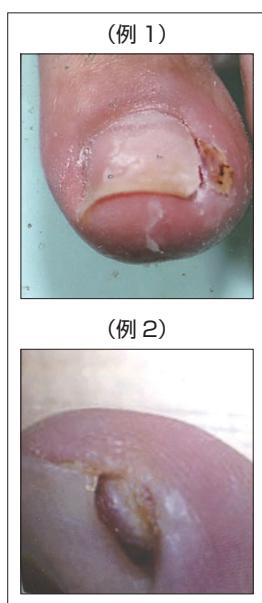
☆肉芽組織の補正方法……先生の施術方法にて行って下さい

- ◆電気メス ※症状により異なるのでより良い方法にて施術して下さい。
- ◆レーザーメス：炭酸ガスレーザー
- ◆自然放置：テapingや他の方法で爪と肉芽を離して自然収縮
- ◆薬を使い肉芽を補正する方法：クエン酸、液体窒素、硝酸銀 etc.

※切除：ナオルンは重度肉芽で大量出血の恐れがある場合でも、フルトロンで固い包帯として又止血として使用できますのでハサミや爪ソンデを使用して切除できます。参照P.47-F

※浸潤している部分もしっかりと摘出して下さい。再発してしまいます。

軽度肉芽



※軽度でも出血が止まらない時は、固い包帯としてフルトロンをご使用下さい。P.47-F 参照

■ 重度の肉芽を伴う巻き爪・陥入爪・混合爪の補正の仕方

[参照 使用法DVDをごらん下さい]

~(神経ブロック)+医療用メス+ペンカルン+フルトロン+PPペストロ+ラバシンを使用~

※肉芽処理の後フルトロンを包帯代わりにする。

<フルトロンでの重度肉芽補正の利点>

A 肉芽処理後の患部への包帯代り。

1. 重度及び最重度の肉芽はフルトロンで硬い包帯として使用。
2. 隣の趾指や靴に患部が当たらない様にフルトロンを広げて固め痛みを防げますので、靴を履いて帰れる。全く痛くなくなります。



B 止血。出血は1~2分で止血可能。

C どんなに大きな肉芽も5~6日程で創傷が治癒。(空気、水分に一切触れず遮断するので完治が早い)



【ポイント】

★軽度の肉芽の場合、肉芽部分の処理をした後に、基本通り人工爪を作ります。

(重要)★重度の肉芽の場合は、巻き爪・陥入爪の不用部分の切除をした後に肉芽処理をする場合あり(DVD参照)。爪甲の下の爪床にも浸潤している場合が多い為。→人工爪を作る



★肉芽の処理を始めにするか、人工爪を先に作るかは肉芽の状態に合せて判断して下さい。以下の手順は軽度の基本形になります。

A. 神経ブロック注射 先生の施術法にて行って下さい

1. 基部をネラトンチューブで締め付ける。
2. 神経ブロック等の注射を行う。(又他の方法での処置を行う)

B. 肉芽の処理

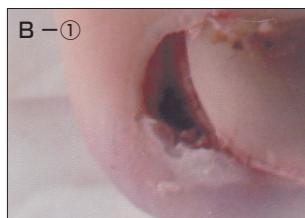
不用部分の自爪を切除してから肉芽処理をする場合があります。

肉芽が爪甲の下まで湿潤している場合。P47-D

適切な処理で肉芽を切除、処置をする

浸潤している場所までしっかりと摘出する。(デブリードマン処理)

爪甲の下まで湿潤していたら、不用部分の爪を切除した後に肉芽処理をします。P.47-D



ポイント

- ★①浸潤部分が残っていると再発するので深く、広く深く切除する。浸潤部分をしっかりと処置して下さい。
- ②肉芽周り(側爪郭)の炎症し変形した皮膚びらん etc. の盛り上がった真皮・爪縁組織も全てハサミや電気メス等で切除して下さい。
- ③洗浄し、適切な消毒をします。—デブリードマン処置
- ④できるだけ乾燥させます。(弱冷風ドライヤー)(軟膏をぬってかまいません)
- ⑤出血があってもそのまま次の施術を行います。
- 肉芽処理は先生の施術法で行って下さい。



ナオルン人工爪を作る

C. P.9 の施術前の準備を多目に行う + P.38 を追加する
(出血していても行って下さい) (ペンカルンを多目にぬって下さい)

D. 不用部分の爪の切除

爪甲の下まで肉芽が浸潤している時はこの段階で肉芽処理をして爪甲の下に浸潤している肉芽の処理をします。

注意点

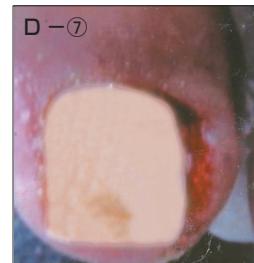
- ①不用部分の爪の切り方 参照 P.21 [基本形・軽度・中度・重度] ~ P.24
- ②巻き爪、陷入爪の軽度～重度に合った切除を行う。
- ③後爪郭部まで絶対に切除しない事。
- ④後爪郭部の両サイドの米粒1/2個分は必ず残す事。（人工爪の土台となる為、フルトロン）
- ⑤巻いている爪甲側縁、陷入している側縁以外の爪甲は絶対に切除しない事。健康な爪甲を爪床から無理やりはがしてしまう事になります。
- ⑥小骨のトゲを見のがさずに切除して下さい。小骨切除ヤスリ P.33 参照
- ★ ⑦爪を切除した後、肉芽の残り、浸潤している事が多くあります。デブリードマン処理をして下さい。

●爪甲の下まで浸潤がある場合

- ①不用部分の爪を切除
- ②浸潤の処置・肉芽処理
- ③ナオルン人工爪を作る

●爪甲の下に浸潤が無い場合

- ①肉芽処理
- ②不用部分の爪の切除
- ③ナオルン人工爪を作る



例題

E. 不用部分を切り取った代わりの人工爪を作る

- ①爪の軽度～重度の巻き爪、陷入爪にあわせて代わりの人工爪を作る。 参照 人工爪の作り方 P.13～P.15 [基本形]
- ②ペンカルン+シールン+フルトロン+PPペストロ（ラバシンはHで行います）
- ※ PPペストロで終了しておきます。（肉芽の処理の続きがある為）

F. 肉芽の患部の止血と肉芽の包帯代わりの人工爪を作る
フルトロン使用

- ①肉芽処理が終了した部位に、先端チューブ金具をはずした状態のフルトロンを肉芽部分に埋めこみます。（フルトロン多目に出して下さい）
- ②人工爪の側爪郭部と肉芽を処理した部分をフルトロンで一体化、合体する様にフルトロンを厚目に埋め伸ばします。（指先まで）
- ③フルトロンの先端チューブ金具だけを横に持ち、平滑になるように段差をあまりつくらず、なでて厚みを均一にする。→ライト（厚目に作る）
- ※肉芽処理の後、Fの後、ネラトンチューブを外した後の出血が1分以内で止血できます。
- ※この段階で全ての痛みが無くなっています。

注意

肉芽の上のフルトロンは厚く作ってライトで固めますが、その際固めた後、一部分フルトロンが薄く、そこから出血してしまう事があります。あわてないでフルトロンの上の出血を押さえフルトロンをつけたし、すぐにライトを当てて下さい。



金具でなでるように平滑に伸ばす

G. 隣の趾指に当たらない様にするための硬い包帯代わりの人工爪を作る

靴を履いて帰れる。（サンダル不用）

目的

- 靴を履いて帰り、肉芽が治る日まで靴での生活をする為。
- シャワーやお風呂に入る為。
- 靴や隣の趾指に当っても痛くなくさせる為

①肉芽処理のF-③で固めたフルトロンから趾指の側面に隣の趾指が当らない所まで又は靴に当らない所まで）フルトロンを厚目につくり、たいらになる様にフルトロンの先端金具を横に持ち広げてなだらかにします。
→ライトを多目にあてます。（20秒）

H. ラバシン【ゴム製】を使用する

神経ブロックを使用していない時は、Hのラバシンは使用しません。（ソフトラバーを代用します）

- ①A 爪甲の上、B巻き爪、陥入爪の処理をした上、C肉芽を処置した上、D隣の趾指に当たらない様にしたナオルン人工爪の上に全てラバシンA、B、C、Dを覆う様に作ります→ライトを多目にあてる。（20秒×2回）
※全体が固まる様ライトは回しながら行って下さい。
※ラバシンを作る時、押すので出血しますがブロック注射をしているので痛くないので安心して行って下さい。
※ブロック注射をしていない方はラバシンを使用しないで下さい。（痛い為）●ソフトラバーを代用して使用して下さい。
※さらに柔らかく弾力が出るので、靴を履いた時安定し違和感を感じません。
※フルトロンなどは皮膚には完全に結合しませんので、ラバシン（ソフトラバー）で爪甲と合体させ靴の圧力を軽減させるために行います。

I. 基部のネラトンチューブを外します

- ①爪甲の周りから出血がありますが1分ほどで止血します。
★②周りからではなく、爪甲の上の人工爪の一部から出血した場合の原因是その部分のフルトロンがうすかったことによります。その場合、出血している場所にフルトロンやソフトラバーを足して厚みをつくり、すぐにライトを当てて固めて下さい。
③軽くガーゼを巻き終了→靴を履いて帰れます。シャワー可

見やすくする為に爪甲は自爪を使用しています。（写真G）

G 趾爪外側



趾爪外側にフルトロンを広げて金属で平滑に伸ばす

靴が履ける

G 趾爪内側



趾爪内側にフルトロンを広げる

- 隣の指に当っても痛くない
- 靴の圧力があっても靴が履ける

J. 巻き爪、陥入爪補正+肉芽処理+靴をはける生活→終了

※医師の診断により経口抗生物質や鎮痛炎症剤の処方をお願いします。しかし鎮痛剤は多くの場合必要ない場合が多いです。痛みはほとんどありません。

次回の予告を入れる

※肉芽の上の包帯代わりの人工爪を外し、取る為に、重度の肉芽の場合は5日～6日後位で創傷が治癒しています。次の予約を入れて下さい。



補正終了

■ K. 肉芽の上の包帯代わりの人工爪を取る

肉芽補正後、重度の肉芽でも5～6日で完全に治癒されています。
※空気や水分、衝撃から守られているので早く治癒されています。



①肉芽の上の包帯代わりの人工爪だけを取ります。

- ・人工爪ニッパーで巻き爪、陷入爪の補正をした場所と肉芽を処理した間を爪先から縦に切り取ります。(必ずメガネをして下さい。人工爪が飛びます)(人工爪ニッパーを使用)
- ・肉芽の上の人工爪を指ではがし取ると肉芽は治癒されています。

②人工爪の両サイドの形を再度粗いヤスリで形を整えます。

P.33 小骨切除ヤスリを使用すると便利です。(ストレート部分)

③終了

※④この場合必ず2回からの植えたしの補正が必要になります。
次の予約を取って下さい。 参照 P.18～20 2回目からの
補正の仕方

■ 手爪の補正の仕方

～ペンカルン+PPペストロを使用の場合～

(爪甲のみのトラブル)

手爪のトラブルについて

- 噙爪、深爪、爪甲剥離、変形爪、スプーンネイル、爪の凹凸、二枚爪、薄爪、柔らかい爪、割れ爪、波板状爪 etc.
- 手爪の病気…白癬菌、カンジタ、真菌、白斑など etc.
※飲み薬を服用している方はナオルンが使用できます。



- 手の爪の巻き爪、陷入爪は趾指と同じ様に補正します。
- 変形爪やスプーンネイル、肥厚爪、手爪に関するトラブルが正常な形の爪になり、解消、補正されます。
- 人工爪は固いので、噛む、むしる etc. などの癖が直ります。
- ★ ● 爪甲が皮膚と同じツルツルの状態の場合、ナオルン人工爪は使用できません。
- 手爪は人目につくので(別売) 透明色のPPペストロ、フルトロンをおすすめします。
- ネイル用の光沢ヤスリを使用すると、誰にもわからぬ自然な爪が出来上ります。(ラバシンは使用しません)
- アセトン、除光液には一切溶けません。表面光沢を出してマニキュアやアートが出来ます。(ネイルサロンにも行けて、ジェルネイルアートが出来ます)
- 指先より人工爪を長く作りたい時、爪の幅を広げたい時は、シールン(手用)やフィンガーサック(別売)を使用します。P.81 参照
- 手の爪の様々な菌による変形爪(内服薬)の場合のみ、ナオルンは使用できます。

補正の仕方簡単説明…詳細説明 P.51

P.9の前準備を行う(ナオルンエタノール多目。完全乾燥。2回行う)
[作業8、9、14は除く。爪甲の薄い方は作業4を慎重に行う] + P.38 追加項目

- ①ペンカルンを多目に厚目に被膜を作る。1分位安定させる。
 - ②PPペストロを適量出す。
 - ③爪甲の中央にPPペストロを置く。
 - ④爪甲全体と指先までPPペストロで理想の形の人工爪を作る。
 - ⑤後爪郭部は薄く段差なく作る事。
 - ⑥ナオルンライトを当てる。
 - ⑦粗いヤスリで形を整える。
 - ⑧爪甲の上の人工爪の表面を整える。
 - ⑨光沢を出す。(自宅にて)
- ※爪母が痛んでしまった場合は以前の様な自爪は伸びませんが、続けてPPペストロを使用すると段差のある爪甲になるが爪甲のヤスリをする事により普通の爪になります。
- ※爪母に影響が無い場合は以前の様な自爪が伸びます。

ペンカルン+フルトロンを使用 (他の使用例)

- ・ **爪甲の外傷**など爪甲と爪甲を結合させたい時はフルトロンで結合させます。重度の場合はPPペストロも使用。
- ・ 小さい爪を大きくしたい時はフルトロンを使用。
- ※ **爪甲の凹**の補正是フルトロンで埋める→ライト→PPペストロを使用する。(凹の空気が人工爪を取りやすくする為) (手爪の場合はラバシンは基本使用しません) **仕事(例)** 重い物を持つ仕事などはラバシンを使用します。

人体とは

※人間の体は爪も含め異物が入ると出す力、外す力が働きます。ナオルン人工爪は異物です。厚く作ると取れる場合が手爪の場合多くあります。重度の症状の方は特に薄く作って下さい。取れたら又作り直し、早く爪甲を伸ばす為、爪上皮の処理は必ず行って根治の終了を早めて下さい。新しい普通の爪が伸びますが6ヶ月ほどナオルン人工爪をつけつづける事となります。→完治=基本植え足しは必要ありませんが、爪甲の症状により植え足しが必要な場合があります。

手爪の場合、透明フルトロン、透明PPペストロをお勧めします。
基本ラバシンは使用しません。

1 P.9の施術前の準備をしっかりと行います。
作業 8 9 14 は除いて下さい。特にP.9作業4、6、7、11、12、13は重要な作業です。ナオルエンタノール多目、ドライヤー冷風が重要になります。+ P.38追加項目（必須）

<ポイント>

- ◎手の爪は趾爪より多く油分、水分が含まれています。→必ず96%以上のナオルエンタノールで油分、水分を取って下さい。
- ◎A 後爪郭部P.9作業4の削りは念入りに行う事。（爪甲の症状による）
- ◎B 爪甲の凹凸特に凹はマシーンの針状で念入りに削って下さい。凹に油分、水分が多いため。
- ◎C 爪甲から剥がれている爪は切除して下さい。爪甲の表面の角質は取って下さい。（症状により行わない場合あり）
- ◎D トラブルのある手爪の方は爪上皮（甘皮）が広く、多く、爪甲にびつたりと幅広く固く付着しています。甘皮はオレンジスティックで爪甲からはがして押し上げるか、切除して下さい。（爪上皮が爪甲の伸びを阻止しています）
- ◎E エタノールをして、爪甲の凹の所まで、まっ白になるまでP.9の施術前の準備の作業6、7を行う。冷風ドライヤーを行う。
- ◎F ペンカルンを多目にぬりライトを当てる。1分位安定させる事。
- ◎G 皮上皮（甘皮）の上には決して作らない事。（切除する事）
- ◎H 後爪郭部（甘皮）近くに段差は作らない事。

2 爪甲の表面に凹がある場合、人工爪を作った後に空気が入らない様に、フルトロンで必ず埋めて下さい。→ライト→取れにくくなります。肥厚している爪はできるだけ薄く削り手の爪の巻き爪、陷入爪は趾爪と同様に行う。

3 PPペストロで理想の形の人工爪を指先で作ります。→ライト

- ◎PPペストロにライトを当てる前に表面の段差を無くす為、エタノールを自分の人さし指の腹に1スプレーの1/3の量をつけて、PPペストロをなでる様に段差をなくします。→エタノールが多いとPPペストロが溶けてしまいます。
- ◎オレンジスティックで後爪郭部のまわりを段差なくやさしく押して平行にします。（オレンジスティックにも少しエタノールでぬらす事）

注意●手爪にトラブルのある方は癖で後爪郭部の人工爪を無意識に取ろうとしますので、注意を促して下さい。

●PPペストロはとても固いので噛むクセのある方は歯が欠ける場合があるので注意のご指示をお願い致します。

4 人工爪の形と表面を整えます。（光沢は患者様にしていた事）手爪の場合、PPペストロで終了。

【ヤスリをかける】【表面】→粗いヤスリ→ピンクヤスリ→光沢ヤスリ（ピカピカの爪が出来ます）（別売）（ドラッグストアでも販売しています）

注意…力仕事、楽器、マッサージの仕事、爪に負担が大きくかかるスポーツなどの方は、弾力をつける為、ラバシンを使用して下さい→透明マニキュア

※手の爪の巻き爪、陷入爪は趾爪と同様に行う。

5 終了

6 基本植え足しは必要ありませんが、常に手爪は短くヤスリで整えて下さい。（重度の方は植え足しが必要な場合があります）P.18参照

（例）★スプーンネイル（匙状爪）シールンは必要ありません
指の先端の掌側（指腹）に爪甲が支えられる以上の力が毎日かかり爪甲は指腹に力を支えきれなくなり陥没。加重のかかる仕事、かみ爪。（咬爪症）（PPペストロのみ使用）末節骨の先端が爪甲より狭いため外力により爪甲がおし上げられる為。

基本的な手爪のトラブルの補正方法

巻き爪、陷入爪の無い爪

<ポイント> □（例）



爪上皮（甘皮）切る。
(ナオルンニッパー使用)



ペンカルン（カルン）多目
安定1分位



専用チューブ金具を付けた
フルトロンで凹をうめる→ライト



透明PPペストロ、フルトロンをお勧めします。この写真以上に自然に透明になります。

第4章 各種爪の症状とナオルン

■ ナオルンが使用できない爪

- ① 爪甲が伸びない爪…趾末節骨の異常やトラブルや他の原因で爪甲が全く伸びない場合は使用できません。（爪甲が伸びている方、普通の肥厚爪の方は使用できます）女性の場合、見た目だけの補正は出来ます。
 - ② 細菌感染の爪…白癬菌等で軟膏など外用薬の方は使用できません。（内服薬の方は使用できます）
 - ③ 緑色爪（グリーンネイル）等の方…爪組織内に病変がある方。P.59 参照
 - ④ 爪周囲炎症に腫瘍・維縛等の重度トラブルのある方。
- ※ストローネイルは、フェノール法や他の方法と組み合わせて使用して下さい。

巻き爪、陥入爪以外の爪の疾患は検査をして対応して下さい。



＜主な対象症例＞

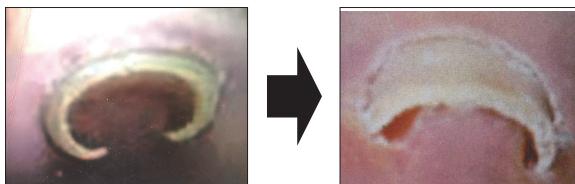
- 黄色症候群爪
- 爪甲萎縮病爪 [オニカルフィアアトロフィ]
- 趾末節骨のトラブル（爪甲が伸びない爪）→整形外科
- 爪周紅斑 ● 爪下外骨腫 ● 爪部悪性腫瘍 ● 黄色爪症候群 etc.

■ ナオルンが使用できる爪（基本症例）

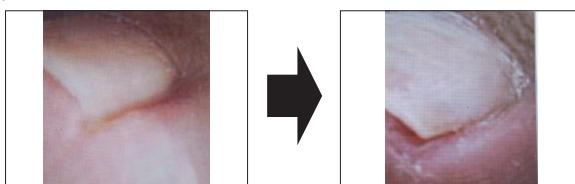
■ ペンカルン+フルトロン+PPペストロ+ラバシンを使用の爪

＜主な対象症例＞

- (1) 巻き爪…最重度爪先 100 度まで補正
(ストローネイル（爪母から巻いている爪）は除く)



- (2) 陥入爪…最重度 100 度まで補正（ストローネイルは除く）



- (3) 肥厚爪 [厚硬爪] [爪甲下角増殖（内服薬の場合）] [爪白癬爪（内服薬の場合）]

- (4) 剥離爪+陥入爪（巻き爪）

- (5) 爪上皮（甘皮）に近い爪甲の脱落

- (6) 外傷爪

- ★ (7) 埋没爪

- (8) 爪甲脱落症爪（内服薬の場合）[乾癬爪]

- (9) 爪カンジタ（内服薬の場合）

- (10) ラケット爪（末節骨のトラブル以外の方）

- (11) その他使用できる状態の爪の方

■ その他重症な症例…参照 P.61

■ 各種爪の症例と補正方法

●施術に当たっては、必ずP.9「施術前の準備」をしっかりと行って下さい。●

★一般的な肥厚爪 (参照 各種症状とナオルン / 肥厚爪) [イットネイル] = 空洞のある脆い爪

- A 深爪、加齢、外傷等により爪甲自体が厚くなり伸びず妨げられて肥厚爪になる爪
- B 白癬菌 etc. がある場合や爪甲と爪床の間に角質や伸びない爪が何重にも溜まり下角質増殖となる爪
- C 重度になった爪甲鈎弯症
- D 病気の薬などによる後遺症の肥厚爪

肥厚爪・厚硬爪は自然治癒はほぼあり得ません。
ナオルン人工爪が1番良い治療法になります。

★他の肥厚爪 (参照 各種症状とナオルン / 肥厚爪)

- ・末節骨の原因や重度の他の原因の肥厚爪（補正できません→整形外科へ）

★その他、肥厚爪、爪の症例 黄色爪症候群（要注意）

- ・さまざまな菌がある方は飲み薬の方のみナオルン使用可。

■ 厚硬爪 A (軽度) 硬く厚い爪 女性に多い。

☆ナオルン使用可

爪甲自体が厚くなる。

＜原因＞

- 爪甲の伸びが妨げられる。（主に靴による）
- 深爪 ●抜爪 ●外傷 ●ハイヒール
- 靴 ●脱落 ●薬品使用 ●体重増加
- 白癬菌や他の爪真菌 ●爪乾癬
- 加齢 ●白癬菌 ●爪甲の発育が上方に向くにつれ爪甲が分厚くなる



＜処理＞

- 自爪をできるだけ薄くしてから施術。
- 病気の治療中でも、内服薬を飲んでいる場合は施術は可能です。
- 爪の外用薬の方は施術できません。
- フルトロン、PPペストロは指先まで作る事。

■ 爪甲下角増殖 B (中度)

☆内服薬の場合、ナオルン使用可

上方に向いて伸び、爪甲と爪床が離れてその間に角質や伸びない爪が何重にも重なり角質になり、溜まる爪甲の発育異常。（爪甲下の角質増殖）



＜原因＞

- 爪白癬 ●下からの圧力による
- 爪真菌 ●薬品使用 ●その他

＜処理＞

できるだけ自爪を短く剥離部分を切除し、下角質を取り除く。→補施
外反母趾、ハンマートウの場合、趾人差指爪、趾中指爪にも症状が出る。

■ 爪甲鈎湾症 C (重度)

原因を特定して使用できる症例の方のみナオルンをご使用下さい。

- 爪甲が異常に厚くなり、鈎型に湾曲する。爪甲側縁と側爪郭が切れていて接合していない鈎形に湾曲する。爪による皮膚軟部組織の抑えが効かなくなる。
- 爪が黄色に変色。



＜原因＞

- 厚硬爪を放置して悪化。末節骨の異常の場合整形外科。
- 足趾先端の隆起がある。
- 白癬カンジタが原因で爪の成長が妨げられる。
- 甲状腺機能低下などの内分泌障害なども原因となる事があります。

＜処理＞

自爪を薄く短くする。→表面をうすく削る
→施術

■ 厚硬爪になる原因

- Ⓐ一般的には深爪をし側爪郭が露出し、その部分が下から受ける圧力により側爪郭が盛り上り、正常に伸びなくなり爪甲が厚くなります。
- Ⓑ加齢により爪の伸びが悪くなり、爪が厚くなる。爪上皮を取り伸びやすくする事。
- Ⓒ多様な病気や末節骨など様々な原因が考えられます。
- Ⓓ大きな靴、小さな靴により趾先が当たり爪が伸びなく厚い爪になる。

肥厚爪を伴う巻き爪・陷入爪

< Q&A 肥厚爪のナオルン人工爪が取れた>

Ⓐ 肥厚爪は、硬いがとても脆くなっています。

肥厚爪自体が菌やその他の原因で侵された不用な爪ですので、土台に適さない悪い爪が取れるのは良い事になります。

対処は、PPペストロを主に使って人工爪を繰り返し作り直して正常な爪が伸びるまで植え足しを行います。歩行も安定します。自宅にて人工爪の長さは常に指先と同じ長さにしておく様に、また指先の先端の幅を狭く、自分で常に整える様に指導して下さい。

Ⓑ 人間の体・爪は異物を出す働きがあります。人工爪は薄く作る事。

<補正方法>

(1) 硬いもろい自爪なので人工爪ニッパーを使いできるだけ短く切れます。安全の為、保護メガネ着用してください。(エタノールは必ずナオルンエタノールを使用して下さい)



(2) 粗目ヤスリや円柱ビットを使い爪甲の厚みをできるだけ薄く削ります。→施術

(3) 下角増殖の場合、できるだけ爪甲と爪床の間の角質を取り除きます。

- A. 肥厚爪に巻き爪、陷入爪がある場合は人工爪の作り方【基本形】にそつて補正して下さい。
- B. 埋もれている埋没爪が激しい肥厚爪は、L字状の金具で爪甲側縁を持ち上げ不用部分の爪を切り易くして下さい。(時々見かけます)

(4) 不用部分の爪を切れます。

- ・ 再発を防ぐ為、小骨はしっかりと切って下さい。

(5) 「施術前の準備 (P.9) + P.38」をしっかり行って下さい。(重度に値します)

- ・ ペンカルンを多めに肥厚爪の爪甲の厚みにもしっかりと塗って下さい。→ライト

(6) 通常通りナオルン人工爪を作ります。

★ フルトロン、PPペストロ、ラバシンは薄く作って下さい。肥厚爪の場合は特に薄く作る事。

★ 人間の体、爪は異物が入ると出す又は外そうとする働きをします。又作り直して下さい。

補正簡単説明

- A. 爪甲を薄く削る
- B. 凹の部分はフルトロン→ライト
- C. PPペストロ→ライト
- D. 人工爪の形を整える。
- E. ラバシン→ナオルン専用ライト



注意A



PPペストロ

注意B

爪甲に凹がある所はフルトロンで空気を抜く為にその部分のみフルトロンで埋めて固めて(6)～の補正を行って下さい。

(7) 終了

検査をし内服薬を使用できる方はナオルンを使用できます

爪甲剥離 (手爪に多い)

・爪先から剥離・後爪郭部から剥離

注意: 重度の爪甲白斑と間違えないで下さい。白斑が爪甲から剥離したら同様の施術を行います。

カンジタ菌が無いか調べ、内服薬の場合は使用できます。切除した根元部分の爪を採取し調べる。(爪先では菌ができません)

<原因>

爪甲が爪床から剥がれる皮膚疾患。そのままにしておくと剥離が広がる。手爪に多い。薬剤、かぶれ、カンジタ菌、乾癬、爪甲と爪床の間に異物が入る、ネイルアート、美容師、料理人などに多く見られる。



<補正方法> (軽度～重度の爪あり)

ペニカルン(自爪の上に多目)・PPペストロ・(ラバシン)を使用します。

- (1) 残っている爪甲の表面で必要のない爪、角質はナオルンマシンか粗目ヤスリで出来るだけうすく削ります。

- (2) PPペストロを爪甲全体に指先まで作ります。→ナオルン専用ライトを当てます。
- (3) 手爪の場合は基本PPペストロで終了
(手の力仕事の方など仕事内容によりラバシンを使用します) (趾爪は必須)
- (4) 終了
・爪の光沢は患者自ら行います。
・ネイルサロンでジェルネイルやアートもできます。

※手足口症の後遺症として爪甲剥離・爪甲脱落の症例が出ています。

趾爪…剥離爪+巻き爪、陷入爪 (原因は同上と同じです)

※手爪にも症例あり。

＜補正方法＞ (軽度～重度あり)

- (1) どのような趾爪でも、爪はできるだけ短く人工爪ニッパーで切っておきます。
● 剥離した上にナオルンを作ると人工爪が取れやすくなります。できるだけ切り取って下さい。
● 剥離している部分はできるだけナオルンニッパーで切り取って下さい。
※カンジタ菌が原因の場合は爪甲の爪・角質は特にできるだけ切除して下さい。
※その他の原因の場合うすく粗いヤスリやマシーンなどで削って下さい。
- (2) 陷入爪(巻き爪)をナオルン人工爪で補正します。 参照 P.13～15 (人工爪の作り方 基本形)
- (3) PPペストロとラバシンで指先と同じ長さにナオルン人工爪を作ります。趾爪の場合、必ずラバシン使用→自宅にて透明マニキュアをぬる。
- (4) 終了



剥離爪



できるまで短く切る



爪甲の表面が薄く(二枚爪)の様に剥離している場合は、黒ヤスリかマシーンの円柱針状ビットで少しだけ取り除く事。



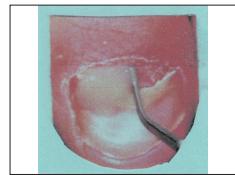
剥離している部分を全て、又はできるだけ切除する



爪上皮(甘皮)に近い爪甲の脱落

＜原因＞

後爪郭部、爪母の炎症、外傷、ストレス etc.



先天性、後天性あり。

爪の変色がある場合→内科も受信

＜補正方法＞ (軽度～重度あり)

P.9の前準備を行います。脱落している部分も含め爪甲全体にペンカルン(カルン)を塗る。1分安定。

- (1) 爪甲の残っている爪を優しくマシーンで少し削ります。(爪が薄いときはそのままにして(2)～始める)
- (2) フルトロンを薄く伸ばします。フルトロンの金具で均一に広げて下さい。→ナオルン専用ライトを当てます。
- (3) PPペストロを薄く作ります。→ナオルン専用ライトを当てます。
※手爪の場合はヤスリで光沢を出せます。
※趾爪の場合ラバシン使用。
★(1)の場合、剥離している下の菌を無くす為、ナオルンエタノールと冷風ドライヤーで2回は必ず行う事。 [重度の爪] ペンカルン多目。

剥がれ爪 フルトロンのみ使用 【靴をはいて帰れます】

<原因>

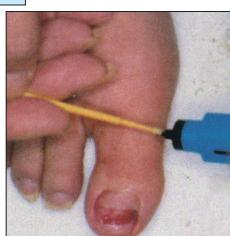
けが・事故・スポーツ・つまずき等、爪が剥がれる原因は多々あります。来院する方も多い現状です。特にスポーツをしている学生



<補正方法> [参照 使用法 DVD]

A. 爪甲が残っている場合

(1) 残っている爪甲にP9施術前の準備をします。痛がる時はしません。(ペンカルン多目→(2)~(5))

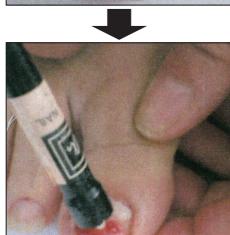


B. 爪甲全体が全て剥がれている場合

残っている爪甲が無いので、痛みと止血の為だけに人工爪を作る事になります。その際は最後にテープをきつめに巻いて下さい。(人工爪が取れるので)爪甲の部分とフルトロンを全結合させます。フルトロンが固い包帯となるので靴が履けます。痛みはすぐなくなります。6日~7日後には皮膜が生えているのでフルトロンを取ります。まだ痛い場合は薄くフルトロンをつくります。



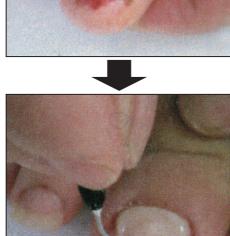
★(2)爪甲全体にフルトロンだけで人工爪を厚めに作ります。



●フルトロンの蓋、先端チューブを取って、多目に使用して下さい。

●フルトロンを硬い包帯代わりに使用します。出血していても使用できます。

(3)表面がなだらかになる様にフルトロンの先端の金具だけを横に持ち形を整える。(オレンジステイックで流れ込んだ側爪郭のフルトロンを取り爪の形を作る。



★・P.9の施術前の準備をする時は患部の上にガーゼを乗せて行う。

★・P.9が行えない位痛い時は行わない。ただし、取れやすくなります。

・残っている爪甲にペンカルンだけは必ず使用する事。

(4)ナオルン専用ライトを当てます。

(5)人工爪を作ったら軽くテープを巻き固定します。



注意①ナオルンは爪床や皮膚には軽くしか着きませんので、テープで動かない様に固定します。その際に爪甲の上は

★粘着面を避けて下さい。(テープを取る時人工爪も取れてしまいます)

注意②テープ粘着面は人工爪につけない事。

(5)終了

★1週間程すると爪床に皮膜が生えます。被膜が生えると痛みは無くなりますが、靴をはくと痛い場合は、又人工爪を薄くフルトロンで作るor絆創膏をしてそのまま爪甲を伸ばすかして下さい。

★剥がれ爪は、フルトロンのみで補正します。

外傷爪

<補正方法> (軽度~最重度あり)

(1)爪甲と爪甲を合わせてフルトロンを流します。→ナオルン専用ライトを当てます。



・出血や爪床が飛び出ている場合は、それらの処置をしてから爪甲同士を合わせて下さい。

・フルトロンを接着剤代わりにして固定します。

★・縫合する必要がなくなります。

(2)施術前の準備を行います。P.9(患部の上のフルトロンの部分は除く)

(3)薄くPPペストロ→ナオルン専用ライトを当てます。

●一瞬にして痛みがなくなり、靴が履けシャワーお風呂にも入れます。

- (4)薄くラバシン→ナオルン専用ライトを当てます。(趾爪)
・手爪の場合ラバシンは使用しません。(仕事の職種により使用します) 透明マニキュア
(5)終了

副爪(痛みがあります)(二重爪)

第5趾(小趾)の外側にもう一つの爪が広がって伸びて出ている様に見える爪。

- (軽度) 出来るだけ副爪を切り、フルトロンでそれ以上骨の突起が大きくならない様に人工爪で大き目に爪甲を作る。小趾にかかる負担を分散させる。
(重度) ●原因は小趾の骨が原因です。重になると爪の先の末節骨の横に骨が突起しています。→整形外科
●小趾が地面に正しく付いていない為(小趾のうき指)

変形爪(巻き爪・陥入爪がない場合)手爪、趾爪

＜原因＞

- スポーツによる繰り返し趾先への圧力、刺激による爪母の炎症。
- 職業による爪の変形(マッサージ師、重い物を持つ、楽器etc.)。
- 病気の後遺症。
- 様々な原因が考えられます。
- 末節骨による変形-伸びない爪は使用できません。一見ためだけの補正になります。
- 様々な菌による変形etc.
- ハンマートゥetc.見た目だけの補正

＜補正方法＞

- 自爪を短く切り、爪甲の剥離している爪をできるだけ切ります。
- 施術前の準備をする。P.9 + P.38 追加項目
- 爪甲に凹部がある方はフルトロンで空気を埋めます。→ライト
- PPペストロで理想な形の人工爪をつくります。指先趾爪までの人工爪を作ります。→趾爪の場合ラバシン使用。
- 終了

[重要] ★爪母にトラブルがない場合は、正常な爪が伸びます。

- 手爪の場合、マッサージや重い荷物を持つ等の職業によっては衝撃を和らげ

る為にラバシンを厚目に使用する等対応して下さい。(PPペストロ薄目)
●常に黒ヤスリ・マシーンにて両サイドの幅は幅細に整え、長さは指先に合わせて整える指導を行って下さい。(患者様にしてもらう)

埋没爪の巻き爪、陥入爪(要注意患者)

＜原因＞

- 爪床のトラブル
 - 末節骨のトラブル
 - 外傷etc.
 - 爪甲が指腹側爪部にくい込む症状。(側爪郭よりも爪が深い位置にある爪)
 - 深爪をくり返していると爪が埋没するケースが多く見られます。(爪の切り方etc.)
- 伸びない自爪には使用できません。
- 末節骨のトラブル
- 主に下からの圧力により周りの肉が盛り上がる。



＜補正方法＞→テーピングを行って下さい

- 側爪郭と側縁部の隙間をあける事。
- 盛り上った側爪郭を押し下げる様にテーピングをする事。

(1) L字状金具の金具などで埋没している爪甲側縁を持ち上げ、先端が鋭く薄い強度のある医療用ハサミで不用部分の爪を切ります。



(2)シールンを長方形に切り、切った爪甲側縁との間に挟むよう平行に看護師に持つて貰い作業して下さい。



●側爪郭を含め指先の皮膚が盛り上っているので、皮膚を押し下げ、シールンを平行より少し上向きにとりつけ、変形している場合はフルトロンを固めながら、場合によっては何回かに分けて人工爪を作る。



側爪郭の盛り上りのシールンの使用方法 (参照 P27 ~ シールンの使用方法)

(3) フルトロンでシールンを上向きにして人工爪を作ります。→ ナオルン専用ライトを当てます。



【注意】

- ・フルトロンは数回部分的に分けて作った方が良い場合があります。

(4) PPペストロで理想の爪を作ります。→ ナオルン専用ライトを当てます。

- PPペストロは指先まで作ります。
- 爪甲の中央部分はぶ厚く作らない事。
(取れやすくなります) (圧力が均一で無くなる為)
- 手爪の場合、透明PPペストロ使用でより自然に仕上がります。自分で磨き光沢が出せます。ネイルサロン可。ジェルネイル可。

(5) ラバシン→ナオルン専用ライトを当てます。(趾爪) (ラバシンは軽いので理想の形、厚みの人工爪を作って下さい) 仕事の職類、スポーツをする方は厚目に使用。

(6) 終了

注意

- 埋没の状態によりPPペストロ、ラバシンの量を考慮して下さい。
- 爪甲の中央部分のPPペストロは厚く作らない事。
- ラバシンで厚みを作ります。側爪郭(爪の周りの皮膚と同じ位の高さ(厚み))に作って下さい。

＜再診＞

参照 P.18 ~ 20 2回目からの再診植えたりをします。

- 埋没爪は完治に大変時間がかかります。深爪が原因の場合が多いので、自爪を伸ばす事が重要です。
- 爪が伸びていない時は、末節骨のトラブルが多いため、整形外科へ行くことを勧めて下さい。

爪甲剥離

爪甲が遠位部で爪床部がはずれ近位方向に拡大していく

＜原因＞①

接触皮膚炎、爪甲下異物、外傷、乾癬その他甲状腺異常、カンジタ、薬剤使用者、白癬 etc.

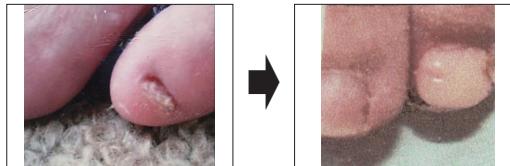
＜原因＞②

外傷、指先を使う職業、趾爪に作用する外圧による。靴、ハイヒール、ネイルサロンでのジェルネイルに含まれる溶剤の影響。

＜補正方法＞

剥離の状態によりフルトロン、PPペストロなどにて補正して下さい。

無爪 フルトロンのみ使用



＜原因＞ P.38 重度の爪の扱いの爪

- きつい靴による第5趾に多い。下からの圧迫。角質のみになっている深爪、むしり取っている。
- 内外小趾
- 爪母トラブル

＜補正方法＞ フルトロンのみ使用

- (1) できるだけ爪上皮(甘皮)をしっかりと切除して下さい。マシーンの針状で爪甲を少しだけ削ります。できるだけ爪甲を大きくしておきます。P.9 施術前の準備 + P.38(必須)
- (2) ナオルンエタノールを多目に吹きかけ、ドライヤーで完全に乾燥させ2回くり返します。(取れにくくする為)
- (3) ペンカルンを多目に塗ります→1分位待つ→ナオルン専用ライトを当てます。
- (4) フルトロンに先端チューブを取り付け、指先まで少し大き目の広い、そして薄目の人工爪を作ります。表面と形は先端チューブの金具で整えます。→ナオルン専用ライトを当てます。
- (5) 終了。(爪上皮)甘皮には決して作らない事。
※つるつるしている普通の皮膚になってしまっていたらナオルンは使用できません。
※PPペストロ、ラバシンは必要ありません。
※ぶ厚く作ると取れ易くなります。
※内反小趾の方はソフトラバーで弾力をつける→透明マニキュア

＜再診＞

- ・ 常に短くしておく事。
- ・ ぶ厚く作らない事。
- ・ 1ヶ月後、伸びた自爪にフルトロンを植え足す。(薄目に)伸びた自爪だけに植え足しP.18を行います。(後爪郭部の植えたしは年齢etc.により変わります)
- ・ 6ヶ月後、自爪が伸びていたら終了。

★・角質や爪甲の厚みなどにより取れやすい場合があります。何回か作り直して下さい。(ペンカルンを厚くして下さい) → 1分ほど安定させてから弱冷風ドライヤー

■ 緑色爪(グリーンネイル)(緑膿菌)

<原因>

技術不足のネイルサロンでの施術、水仕事の多い方、爪甲剥離、爪郭の炎症、爪組織内の感染。薄い緑色から濃い緑色、悪化すると黒緑色になります。

96%以上のエタノールスプレーを必ず使用。

<補正方法>

- (1)伸びている自爪が緑色爪の場合は自爪をを短く切る、剥離している部分を取りとる。
- (2)緑色爪の表面を荒いヤスリか、マシーンで光沢を取りエタノールが染み込み易くなるナオルンエタノールを1日3~4回吹きかけしっかりと自然乾燥させる事が大切です。唯一の補正法です。
- (3)密封式容器の96%以上のナオルンエタノールをご用意してお渡し下さい。(販売用としてご用意下さい) **拭き取り厳禁**

<再診>

- ・2週間後来院。
- ・緑色が無くなっていたら終了。
- ・薄い緑色になつたら薬局のエタノールでも使用できます。
- 1日は何回も消毒する事。乾燥させる事。
- ★緑膿菌が無くなつたらナオルンを使用できます。

■ 外反母趾による巻き爪、陥入爪

(親指全体が小指の方向に曲がる)

<原因>

遺伝、先端が狭い靴、ハイヒールによる足の前滑。足の横アーチの崩れによる開張足。後頸骨筋の弛み。その他。

<補正方法>

- (1)可逆期(代償期)の場合のみマッサージでアーチを整えたり、靴を変える事によりもとに戻る状態です。
- 巻き爪、陥入爪をナオルン人工爪で補正します。
- 次の段階の非代償期、悪期、終末期の巻き爪、陥入爪は、根本完治する為にはナオルンの補正と整形外科での治療をおすすめ下さい。
- インソールを併用する。テーピング又はサポーター必須。
- 症状によりナオルン人工爪で巻き爪、陥入爪の補正をして下さい。爪の形は隣の指に当たらない様に丸目にして下さい。

■ 内反小趾

(足の小指が親指の方向に曲がる)

<原因>

外反母趾と同じ。

■ 線状爪甲白斑(手爪に多い)治療の必要性はない

<原因>

爪母のトラブル、爪の角化、成長不全、マニキュア、ジェルネイル。

<補正方法>

PPペストロで補正します。

■ 爪甲軟化症 PPペストロを使用

<原因>

爪が異常に柔らかい。ケラチン不足、多汗症、ネイルサロンの行き過ぎ。異伝。

<補正方法>

- (1) P.9 施術の前の準備をして、PPペストロで適切な厚みを作る。
 - 手爪は透明色のPPペストロをお勧めします。
 - 趾爪はラバシンを必ず使用。
- 爪甲軟化症に巻き爪、陥入爪がある場合は、ナオルン人工爪補正をして下さい。

■ 爪甲縫裂症

爪甲に縫の割れ目が入り中央で裂ける爪



<原因>

爪母・爪上皮のトラブル、薬剤、水仕事→ナオルン使用

全身性疾患→内科、趾爪の場合爪偏平苔癬の場合あり

<補正方法>

- ★爪の周り、爪上皮の角質は出来るだけ切除して下さい。
- (1)爪甲の段差を出来るだけ無くす。
 - (2)凹や割れ目は、フルトロンで補正→ライト
 - (3)PPペストロで理想の爪の形を作る。
 - (4)趾爪の場合はPPペストロを薄くラバシンで厚みを整える事→透明マニキュア
- ★爪甲が小さい場合は、フルトロンのみで補正する。

■ ペンカルン+PPペストロだけ使用の爪（主に手爪）

<主な対象症例>

検査をし内服薬のみの場合はナオルンは使用できます。

- (1)噛爪、咬爪症… [参照 P.51]
- (2)スプーンネイル（匙状爪）
- (3)変形爪… [参照 P.57]
- (4)爪下出血による爪甲の剥離
- (5)ステーブル爪（症状を判断）
- (6)その他、似た爪病変
- (7)巻き爪、陷入爪…アート、マニキュアをしたい方のみ（女性のみ）
- (8)その他（ハンマートウ）見た目だけの爪甲の補正に使用
- (9)肥厚爪、厚硬爪 etc.



手爪の場合、透明PPペストロをお勧めします。

■ ペンカルン+フルトロンのみだけで使用の爪

1. フルトロンの主な使い方

巻き爪、陷入爪、痛い不用部分の爪を切除した後の代りの人工爪として使用。薄く作ります。

2. その他の使い方

- A 爪と爪の接着剤として使用…爪甲の外傷 etc.（外傷が深い場合爪甲全体にPPペストロを薄く作る）
- B 硬い包帯として使用…大きな肉芽を処理した後や止血の為の用途。処置後フルトロンを広く作り、患部が隣の趾指に当たっても痛く無く靴を履いて帰れます。
- C 脱落した爪を作る…2趾～5趾の小さい爪甲に使用。PPペストロは必要ありません。
- D その他

<主な対象症例>

- (1)肉芽組織形成（肉芽補正）… [参照 P.45]
- (2)剥がれ爪… [参照 P.56]
- (3)無爪… [参照 P.58]
- (4)爪甲中央縦裂爪… [参照 P.59]
- (5)爪の怪我…外傷、ヒビ、爪甲切断
- (6)止血に使用… [参照 P.47-F]
- (7)爪甲層状分裂症…二枚爪
- (8)脱落爪 etc.



■ ペンカルン+PPペストロだけ使用の爪（趾爪・手爪）

爪甲の外傷、爪甲剥離、噛み爪、薄爪、脱落爪、スプーンネイル、糖尿病爪など爪甲の変形等で、爪甲の厚み、長さが必要な場合に使用します。

<主な対象症例>

検査をし内服薬のみの場合はナオルンは使用できます。

- (1)爪甲剥離
- (2)自傷爪〔洗濯板爪〕〔中央縦溝爪〕〔噛み爪〕〔爪甲損傷爪（癖による変形爪：爪甲をむしる・爪母をいじる）〕
- (3)薄爪（爪甲軟化症）
- (4)爪甲縦裂症…老化、内科が原因の場合あり
- (5)爪甲横溝…爪母トラブル、内科が原因の場合あり
- (6)匙状爪（スプーンネイル）
- (7)糖尿病爪
- (8)二枚爪（爪甲層状分裂症）…範囲が広い時はPPペストロを使用。
- (9)卵殻爪（末節骨のトラブル以外の方）
- (10)深爪
- (11)リュウマチ爪 (13)貝爪、ラケット爪（末節骨が短い・広い）
- (12)爪異常養成症 (14)線状爪甲白斑、点状爪甲白斑、汎発型爪甲白斑
- (15)ヒポクラテス爪、ばち状推爪…末節骨が広くなり、爪甲も大きくなる。
- (16)その他



※趾爪の場合

衝撃を分散、吸収する為、最後に必ずラバシンを使用して下さい。
(透明マニキュアを自宅でぬっていただく事)



■ その他の重症な爪の症例

☆治療後に補正可能な爪

全て検査をし内服薬のみナオルンは使用できます。

<主な対象症例>

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| (1)末節骨による変形爪 (整形外科担当) | (6)尋常性乾癬 |
| (2)爪メラノーマ (内科担当) | (7)爪甲横溝 |
| (3)翼状爪膜 (症状を判断) | (8)爪真菌 (飲み薬の場合は同時に施術できます) |
| (4)爪周囲炎がある爪甲トラブル | (9)その他 |
| (5)扁平たいせん | |

☆見た目だけの補正が可能な爪 PPペストロ使用

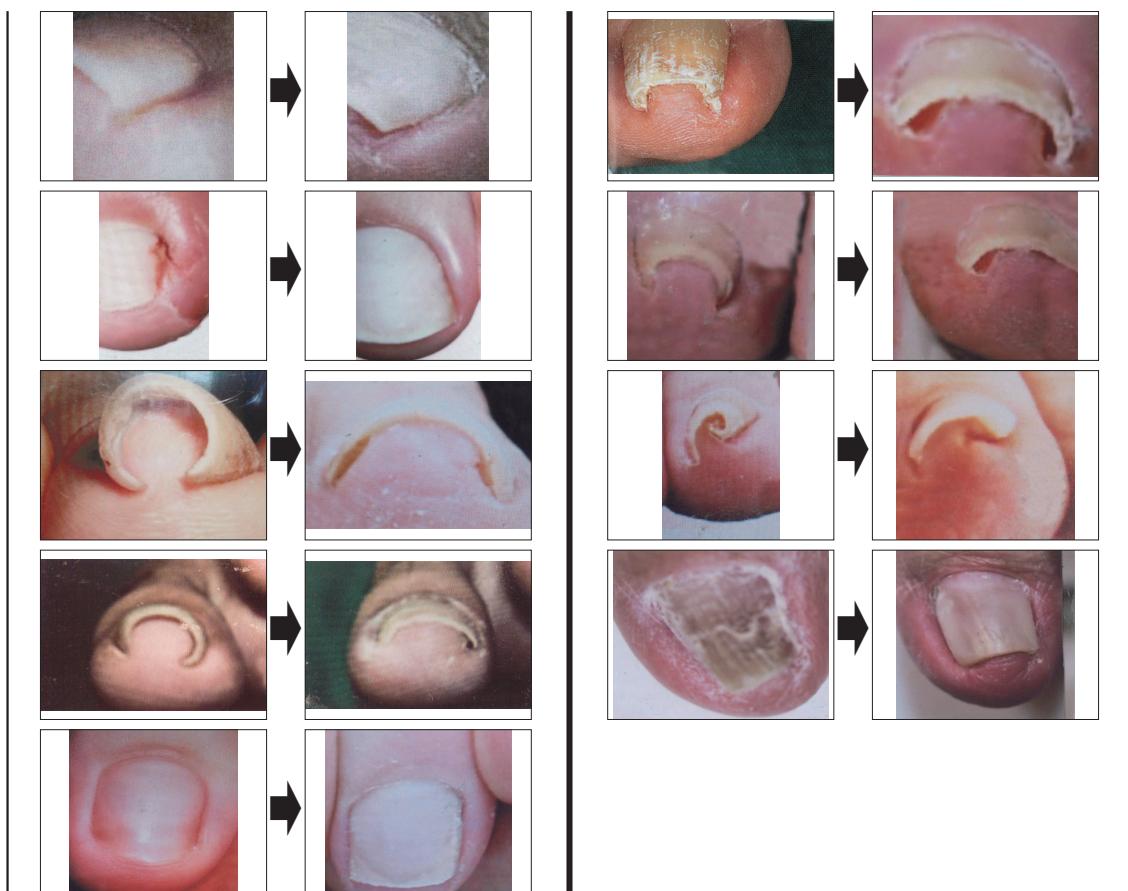
(女性の方には見た目だけでも補正希望者多し) 透明PPペストロをお勧めします。

全て検査をし内服薬のみナオルンは使用できます。

<主な対象症例>

- | | |
|--|--|
| (1)ラケット爪 (貝爪) | (3)翼状爪 (爪郭部から爪上皮が爪床上をおおうように伸びた爪) 原因 (爪偏平苔癬 etc.) |
| (2)時計皿爪、ピポクラテス爪 (症状を判断)
ばち爪 (症状を判断) | (4)線状、点状爪甲白斑 |
| ●先天性一遺伝 | (5)横溝波状爪…爪母のトラブル。後爪郭部遊離縁が前方に移動する為 |
| ●後天性のばち爪は必ず原因の疾患があります。 | (6)その他 |
| ●時計皿爪に指先のはれをともなう爪 | |

巻き爪、陷入爪・施術前と施術後



ナオルンは根治治療です。寛解の状態です。原因が改善していない方、指導に従わない方は再発します。

【再発予防法】根治後、人工爪を外した後、PPペストロだけを使い、爪甲全体に薄く作り、巻き、陷入爪を予防する。参照P.68

※P.9の施術前の準備（作業8、9、14を除く）を行う→PPペストロを薄く作る。

※その方の巻き、陷入している場所により3～6ヶ月に1回PPペストロをつけたしながら原因の改善を行って完治治療に向かいご指導下さい。

第5章 商品説明（主要商品）

■ ナオルン専用ライト

波長、波数特許済

保証期間 6ヶ月。
修理期間 1年間（有料）

ぜひお求め下さい



防護メガネ（別売）

- UV ライト、LED ライト、CCFL UV ライト・ LED UV ライトで決して固まりません。
※火傷やトラブルにつながります。固まりません。
- 落下による先端ガラスの破損は保証期間には含まれません。

商品説明

- ★ ◆ 自爪、フルトロン、PP ペストロ、ラバシン、ソフトラバーに合わせて作製された波数・波長の専用ライトです。
- ★ ◆ ペンカルンと化学反応を起こして、取れ無いナオルン人工爪の土台ができます。
- ◆ 照射 3 秒で硬化します。爪の大きさに厚みを合わせて 25 秒以内で充分です。ラバシンとソフトラバーはゴム製なので、長めにライトを当て好みの固さにします。幼児には柔らかくして終了します。
- ◆ 皮膚にも安心・安全です。UV ライトではありません。他のライトを使用すると火傷の危険があり、固まりもしませんのでお止め下さい。波長・波数が違います。
- ◆ ナオルン専用ライト本体に防護板を必ず取り付けてお使い下さい。看護師が手伝う際は肉眼でライトを見ない様に防護メガネ（別売）をお求め下さい。
- ◆ 1 回 8 時間の充電で 80 (20 秒) 回使用できます。移動で持ち出す際は充電を十分にして下さい。
- ※ 充電が足りないと、青い光が出ていても固まりが遅くなります。
- ※ 光が出ない場合はバッテリー切れ、落下や衝撃による破損が考えられます。ライトに不具合がある場合はお知らせ下さい。

〔注意〕長い間使用しない場合、バッテリーから放出しています。しばらく使用しない時はバッテリーを外して保管して下さい。

使用方法

発送の際、充電済みですが必ずお使いの前に 2 ~ 3 時間の充電をして下さい。

- ◆ P のボタンを押すと青い光が出て、又押すと消えます。
- ◆ 照射時間は基本の 20 秒モード（1 番上のホチキス型）で設定してあります。消えたら P を押して下さい。
- ◆ ライトの照射モードは 3 種類ありますが一番上のモードで使用します。他のモードになってしまったら、M のボタンを一番上のホチキス型に合わせ、指を離さずそのまましばらく押しています。「ピピ…」と音がしたら、P のボタンを押して 20 秒 ~ 30 秒に設定して下さい。
- ★ ◆ 充電の仕方は充電台に本体を置き、AC アダプターのオレンジ色の表示が青色になつたら充電終了です。充電は水平で振動の無い場所で行って下さい。
- ★ ◆ オレンジ色の位置で充電して下さい。同上の写真の様にしてコンセントに入れて下さい。
- ★ ◆ ナオルンライトを落としたり強い衝撃があるとライトの先端のガラスやライトの機密部分が壊れます。絶対に落下させないで下さい。必ず置かないでバッテリー土台に立てて下さい。

■ ペンカルン（カルン）

大容量のボトル式になる場合があります



★ ペンカルンはボトル式になる場合があります。



最も重要な商品です。専用ライトの波数と化学反応を起こし、人工爪が取れない強固な被膜の厚みを作ります。爪に浸透しません。

〔基本形〕 ペンカルンを塗る → 10 秒待つ → ドライヤー（冷風）→ ナオルン専用ライト

★ 皮膚についても問題ありません。最後にアルコールで拭いて下さい。重度の爪は厚目に被膜をつくる事。安定 1 分位。ドライヤー

商品説明

- ◆ 爪甲に被膜を形成し、爪甲にナオルン人工爪を強固に接着させます。
- ◆ ペンカルンは爪甲のみに有効で、爪には浸透しません。カルンが皮膚についたら最後にアルコール（脱脂綿）で拭く事。
- ◆ 成分／接着性モノマー、エステルモノマー、アドヒシブ。その他。
- ◆ 冷暗所 0 ~ 27°C で保存。（長期使用しない時は、冷暗で涼しい場所で保管）
- ◆ 皮膚についても皮膚にナオルンは結合しません。
- ★ ◆ 重度の方や変形爪の方は被膜を厚くして下さい。
- ★ ◆ カルンが皮膚についたら最後にアルコール（脱脂綿）で拭く事。
- ★ ◆ ナオルンライトを当て化学反応をおこし取れない人工爪になります。
- ★ ◆ 滴下後、ノズルを清潔なティッシュ等で拭いて速やかに蓋を shut 側にカチッとロックするまで確実に閉めて下さい。

使用方法

- ◆ 蓋を 3 ミリ回し引き中蓋が取れこぼれない様に開けます。中の先端の黒い部分は絶対に触らないで下さい。
- ◆ ペンカルンは、逆き手で持ち容器は直ぐ垂直に持って下さい。斜めに持つと多く出でます。
- ★ ◆ ペンカルン容器本体を直接爪甲につけない事。必ずカルンスティックを使用して下さい。（1 人 1 本）
- ◆ カルンスティックをきき手で横に持ち、繊維の部分に 1 滴ペンカルンをのせて爪甲に塗ります。
- ★ ◆ 母趾の場合は平均 3 滴です。爪の厚みにも塗り、塗残しがない様多めに塗って下さい。
- ◆ 爪甲の周り（皮膚）に塗ってしまったら施術終了後にアルコール（脱脂綿）で拭く事。軽く拭いて下さい。
- ★ ◆ 10 秒動かさず放置し、被膜の厚みが動かない様に爪甲の上で安定させてから冷風ドライヤーをかけて下さい。（よぶんな物質を取るため）（重度の爪のペンカルンは多目に被膜を作るので長目に揮発させて下さい）
- ★ ◆ ペンカルンには必ずナオルン専用ライトを当てる下さい。化学反応により爪甲に強固な被膜を形成させます。（20 秒ほど確実に行って下さい）
- ◆ 未使用・冷蔵庫にて保管で 1 年使用可。

〔注意〕 メタクリルエステル系モノマー過敏症のある方は使用できません。

カルンスティック



商品説明

- ◆ペンカルン（カルン）を使用する時に使用。
- ◆スティックの先端に特殊な繊維がついています。
- ◆ペンカルンを爪甲の上に爪の厚みをつくる為の専用スティックです。1セット100本入り
- ◆ボトル式カルンになった時は、ボトルを軽く両サイドから押してオレンジスティックに付けて下さい。重度の爪は3、4滴使用。

使用方法

- ◆先端の繊維にペンカルンを1滴のせ爪甲に塗ります。ペンカルンの先端に落とす様に付けて下さい。
- ◆一人に一本の使用で使い捨てて下さい。
- ◆逆き手にカルンスティックを横に持ちます。
- ※重度、変形の爪には多目に厚みを作って下さい。

フルトロン（ガラス製）



不用な爪を切り取った部分に代わりの人工爪を作ります。他の使用方法…P.60 参照

※手爪用：透明フルトロン（別売）

【注意】

爪上皮（甘皮）の上には、フルトロンを絶対に固めないで下さい。爪甲が伸びなくなります。

商品説明

- ◆ペースト状のガラスフィラーラー。
- ◆成分／ウレタンメタクリレート他。
- ◆ライトを当てない限り固まりません。
- ★◆除光液、アセトン他の溶剤では溶けません。
- ◆0～27°Cで保存。
- ◆未使用・冷蔵庫にて保管で1年使用可。（長期保管）
- フタの部分を下にして立てて保管

使用方法

- 1 フルトロンのフタを取り、先端チューブを奥まで差し込みセットします。先端チューブは（爪甲に金具がついた場合）一人1本で使い捨てます。脱落に注意して下さい。
- 2 基本的に薄く作って下さい。その上にPPペストロなどをのせる為。
- 3 ナオルン専用ライトを当てて硬化させます。
- 4 先端チューブの金具のフタをして保管も出来ます。（金具の部分が爪甲につかないで作られた場合のみ）
- 5 終了後、先端をアルコールで拭き取り保管。

主な用途

- ・巻き爪・陷入爪の不用な爪を切り取った部分に代わりの人工爪を作ります。
- ・再診の2回目からの植え足しに使用します。
- ・剥がれ爪・脱落爪等で無くなった爪の爪床の上にも使えます。
- ・肉芽の補正後の止血に使えます。
- ・患部の保護や痛みを避ける為の硬い包帯として使用できます。
- ・爪甲の外傷（切断）による接着剤として使用できます。
- ・脱落爪・無爪等で第5趾の爪が圧迫により爪が無い場合はフルトロンで人工爪を作れます。つるつるの皮膚になってしまった爪甲の部分には使用できません。

PPペストロ（ガラス製）



- A ●フルトロンを粘土状にしたガラスフィラーラーです。
 - B ●フルトロンで代わりの人工爪を作った後に、爪甲全体にPPペストロを広く薄くのばし作り爪甲を均一に伸ばします。
 - C ●フルトロンの強度を高めるために必要な商品です。
 - D ●変形爪や深爪、かみ爪 etc. など、爪甲の形や長さをつくる為に単品で使用する場合もあります。P.60 参照
- ※手爪用：透明PPペストロ（別売）。

【注意】

爪上皮（甘皮）には、PPペストロを絶対につけ固めないで下さい。爪甲が伸びなくなります。

※取り出したPPペストロが固い時はドライヤーの温風で柔らかくして使用して下さい。

- 寒い地域の寒場。
- P.68の再発予防として使用する時。

商品説明

- ◆粘土状のガラスフィラーラー。
- ◆成分／ウレタンジメタクリレート、その他の触媒で形成。

- ◆ライトを当たない限り固まりません。
 - ★◆除光液、アセトン他の溶剤では溶けません。
 - ◆0～27℃で保存
 - ★◆手爪の場合、固まったPPペストロをヤスリで磨いて光沢を出してマニキュア・アートができます。（光沢ヤスリ：別売）（ネイルサロン可）
 - ◆未使用・冷蔵庫にて保管で1年使用可。
- （長期保管）
フタの部分を下にして立てて保管

使用方法

- 1 ネジ式容器になっています。多く出て無駄にしない様にネジをゆっくりと動かし、大豆ほどの大きさを取り出します。
- 2 PPペストロを親指と人差し指で練って丸く柔らかくし、爪甲の中心にPPペストロを置きます。冬は硬くなるので、ドライヤーの温風で温めて柔らかくして下さい。
- 3 人差し指の指先で爪甲全体的に伸ばして、後爪郭部と段差を無くして下さい。細部はオレンジステックで押して段差を取ります。
- 4 PPペストロは爪甲全体と一体化させる用途で薄く作ります。
- 5 人差し指の腹にワンプッシュのエタノールで濡らし、作り終えたPPペストロの表面を撫でると表面がツルツルになり、ヤスリがけが必要ありません。[円を描く様に撫でる事]
※エタノールを多くしてしまうとPPペストロがとけます。ワンプッシュした指をティッシュに少し触れ1/3の量にします。
- 6 ナオルン専用ライトを当てて硬化させます。
- 7 使用後、先端部分をアルコールで拭いて保管して下さい。



ラバシン（ゴム製）



- 爪甲の厚みの調整はラバシンでつくります。（PPペストロより軽い為）
- ★●人工爪に弾性を持たせ趾爪にかかる衝撃を分散、吸収させてより自爪に近い構造にさせます。自爪により近い爪を再現します。バスケットボールの表面位の固さになるまでライトを当てて下さい。
- ラバシンの厚みによりライトの秒数が変

わるので自分の自爪を立ててラバシンの固さを確かめます。幼児はライトの秒数を少なく柔らかく仕上げます。

【注意】

爪上皮（甘皮）には、PPペストロを絶対につけ固めないで下さい。爪甲が伸びなくなります。

★仕事の職種やバスケット、サッカー、ジョギングなどスポーツをする方はPPペストロで薄く作りラバシンを厚目に作ります。

商品説明

- ◆ゴムフィラーです。
 - ◆成分／メタクレート、ケイ素、着色料他
 - ◆ライトを当たない限り固まりません。
 - ◆フルトロン・PPペストロを硬化させた後、ラバシンで厚みの調整をします。
 - ★◆趾爪用の最後には必ず使用します。
 - ◆2～27℃で保存（常温）。ゴム製なので冷蔵庫に入れないと固めます。
 - ◆未使用1年使用可。フタを下向きに立て保管。
- ※爪上皮（甘皮）には絶対に固めないで下さい。

使用方法

- 1 硬化したフルトロンやPPペストロの上にラバシンのネジを回して適量を出します。
- 2 丸くしたラバシンを爪甲の上につくったPPペストロの中央に置きます。
- 3 人差し指の指先で爪甲全体的に厚みを調整しながら作ります。
- ★4 後爪郭部に段差が無い様に作ります。細部はオレンジステックで押して下さい。
- ★5 ナオルン専用ライトを当てて硬化させます。ライトは少し長めに当てて下さい。
- ★6 ゴム製でべたつきがあるので、ゴミや汚れの付着を防ぐ為に透明マニキュアを塗る事。（必須）そのままだとゴミが付き変色します。（自宅にて塗って頂く事）



- 7 幼児などはライトを短くあて柔らかく仕上げます。

※ PPペストロ→【型をととのえる】→ラバシン

ラバシンはゴム製ですのでヤスリで形が整えづらい為。

病院で透明マニキュア（ベースコート）を用意して塗る場合有り。（コンビニなどで150円位です）

■ ソフトラバー（ゴム製）



先端チューブ



爪甲に金具が触れずに作れる様になつたら金具にキャップをしてこのままで保管できます。

【注意】

爪上皮（甘皮）には、ソフトラバーを絶対につけ固めないで下さい。爪甲が伸びなくなります。

商品説明

- ◆ラバシンをペースト状にしたゴムフライです。
- ◆ライトを当てない限り固まりません。
- ★◆0～27℃で保存（常温）。ゴム状なので冷蔵庫に入れないで下さい。
- ◆未使用1年使用可。フタを下向きに立て保管。
- ※爪上皮（甘皮）には絶対に固めないで下さい。
- ◆先端チューブの金具のフタをして保管ができます。
- ◆長期使用しない時は蓋を下にして保管。
- ★◆ラバシンが使用出来ない時の代用品として使用。

使用方法

- ◆中度～重度の巻き爪、陥入爪、トラブル爪の再診の二回目からの植え足し補正に使用します。
- ◆自爪が伸びた1.2mm～1.5mmの後爪郭部に植え足す時に使用。（参照P.18～20）
- ◆80度以上の重度巻き爪・陥入爪の趾爪先端の細くなった幅（狭い先端の爪、指の先端の狭い幅）を広げ、先端の趾爪の両サイドの側爪郭の幅を普通の幅に広げ補正する為に使用します。
- ◆ソフトラバーは、ナオルン専用ライトを少し長めに当てて好みの固さに硬化させて下さい。
- ◆20秒当てるとバスケットの表面位の固さになります。これ以上は固くなりません。
- ※幼児などはライトを短くあて柔らかく仕上げます。
- 中度～重度の2回目からの補正に使用します。P.18～20
- 重度CのP.43-目的3の時に使用します。

■ シールン



不用部分の自爪の切り取り後、人工爪を作る際の下敷（土台）として使用

商品説明

- ◆不用部分の爪を切り取った部分に代わりの人爪を作る際の下敷です。
- ◆ナオルンオリジナルの特殊なPET製です。
- ★◆裏面が粘着シートになっています。
- ◆2～27℃で保存（常温）。冷蔵庫に入れないで下さい。
- ◆趾爪、手爪、両方使用できます。
- ◆長期使用しない時は粘着面が劣化し、使用出来なくなります。

使用方法

- ◆参照 シールンの使用方法 [P.26～31]
- ◆自由に切ってご使用下さい。

■ ナオルンマシーン



★さらにパワーUPの為のビットダイヤモンドビットをお勧めします。

★皮膚に当っても痛くありません。自分の人差し指の腹に当てる見せて患者様に痛くない事を知らせて下さい。

施術前に患者に行う事。

商品説明

- ★◆ガラスフライ、自爪に合わせた回転数マシーンです。
- ◆ビットは3種類（円盤状、円柱状、針状）が付いています。多種のビット（別売）があります。（おすすめ…ダイヤモンドモット各種）
- ★◆爪甲にはしっかりと力を入れて押す様にあて下さい。皮膚にあたっても痛くありません。

使用方法

- ◆ビットを本体の奥まで差し込みます。取れ無い場合は人工爪ニッパーで挟み抜いて下さい。
 - ★◆本体を横に持って使用して下さい。立てて使用すると爪甲に穴を空いてしまう恐れがあります。
 - ◆人工爪の形を整える際、円盤状のパワーが弱い時は円柱状のビットを立てて使用下さい。
 - ◆ビットはオートクレーブ（高圧蒸気滅菌器）が使用できます。
 - ◆ビットは歯ブラシで粉を取りナオルンエタノールで消毒して下さい。1人につき1回必須。
- ※注意：同じ場所を長く削らないで下さい。熱がもち患者は熱く感じます。

パワーが弱くなったり、電池を入れかえても動かない時は、底のフタを開け金具を少しだけ上向に上げて下さい。電池の重みでつぶれてしまっている可能性があります。（決して力を入れないで下さい。金具が折れてしまいます）

■ ナオルンエタノール (96%)

スプレー式密封容器エタノール（ナオルンE・T）。爪の油分・水分を取る為に重要です。



揮発させない為
ナオルンエタノール
を使うごとに
容器の下の底
の部品が上に
上っていきエタ
ノールを密封さ
せる容器です。

参照 補足説明 / 消毒（ナオルンエタノール）について [P.4]

商品説明

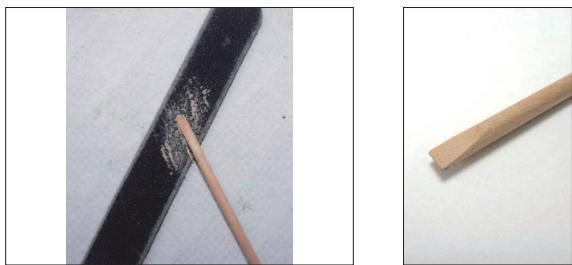
- ◆ ナオルン人工爪を作る際に一番適したエタノールです。
- ◆ 成分 96% のエタノールです。水分の多い消毒用エタノールは使用不可。

【注意】

他のアルコール消毒剤では、水分・油分を取る効果が出ません。

- ◆ 爪の油分・水分をしっかりと除去し、取れにくい人工爪作る為に重要な働きをします。
- ◆ 爪や器具の消毒に使います。
- ★ ◆ 96%以上の無水エタノールも使用できますが、すぐに成分蒸発します。必ずスプレー式密封容器を使用して下さい。
- ★ 不用部分を切除した後の角質が柔らかくなります。充分に吹きかけ汚れ、角質を処理して下さい。

■ オレンジスティック (爪ソンデ) ●ステンレス製別売



商品説明

ステンレス製のオレンジスティック（別売）

- ◆ ネイル用にオレンジの木から作った柔らかい棒で、色々な時に使います。施術中、常に自分の近くに置いて下さい。
- ◆ 短くなるまで使用できます。

使用方法

- ◆ 先端を鋭く鋭角に粗目ヤスリをテーブルに置いて削って、形を鋭角に整えます。オレンジスティックが短くなるまで使えます。
- ◆ 常に尖った状態にしておき、ナオルンエタノールで消毒しておきます。先端が丸くなつたオレンジスティックは役目をはたしません。
- ★ オートクレーブを使用する場合、しっかりと乾かして下さい。

注意 ★ 爪上皮に使う時はエタノールで消毒をし完全に乾燥してから使用する事（爪上皮の中にエタノールが入ってしまう為）

■ オレンジスティックの主な用途

- ★ (1)巻き爪、陷入爪の痛い部位を見つける時に使用。
- (2)爪の周りの皮膚を押し下げたり、多く流れ出た PP ペストロやフルトロンを取る時に使用。
- (3)角質を取る時に使用。
- (4)上爪皮（甘皮）を押し上げる時に使用。
- (5)不用部分の爪を切った後の切り残し（小骨）を確かめる時に使用 etc。
- (6)不用部分を切り終った後の角質や汚れをかき取る時に使用。（ナオルンエタノールを多目にかけて角質を柔らかくする事）
- etc.

■ ナオルンシザー（シールン用）



商品説明

- ◆ シールンを切る際に使用します。丸カーブに切れるハサミです。
- ◆ 丸みを持っているので、不用部分の爪甲側縁のラインに沿って切りやすくなっています。
- ★ 必ずシールンを切る際、普通のハサミも用意しておください。

■ ナオルンニッパー（不用爪除去用）



ナオルンニッパー

巻き爪、陷入爪の不用部分の自爪を切る為だけに研究されたニッパーです。

- 不要部分の爪の切れあじが悪くなつたら買いかえて下さい。

商品説明

- ◆ 足の巻き爪、陷入の不用爪甲部分を切り取る為のハサミです。
- ◆ 研げませんので切れなくなつたら買いかえて下さい。
- ◆ 不用爪を切る為の様々な工夫がなされています。

使用方法

- ◆ 参照 不用部分の爪の切り方 [P.23 ~ 26]
- ◆ 爪床の上の爪甲の剥離部分を切除。

ナオルンニッパーの持ち方

◆爪の左側を切る（外側）

・手の内側にニッパーをぎり刃先を右側に向け握り、手首を少しまげて爪の左側を切ります。

◆爪の右側を切る（内側）

・手の内側にニッパーをぎり刃先を左側に向け握り、爪の右側を切ります。



※一度に切ろうとせずに刃先の先端で少しづつ切る。

※陷入爪の場合は側爪部に埋もれているので、少し切ったらそのまま引き上げるように切除し、又切ったら爪を上に上げる様にひき出しながら少しづつ切除していく事。

人工爪ニッパー



ALL ステンレス製
人工爪ニッパー（別売）
¥7,000

商品説明

◆硬いナオルン人工爪を切る為の金属製ニッパー。

◆ナオルンオリジナル人工爪ニッパーです。

※◆自爪を短く切る時にも使用します。

使用方法

★◆目をガードする保護メガネをして作業して下さい。切った硬い破片が飛んでくる事があります。（別売）防護メガネ

主な用途

- (1)患者の自爪を短く切る際に使用。
- (2)人工爪を外す時に使用。
- (3)前準備での自爪を短くする際に使用。
- (4)硬い肥厚爪を切る際に使用。
- ★(5)ライトをあてた後、失敗して固くなった余分の人工爪の一部を取り除きたい時に使用。

●ナオルンニッパーで不用部分の爪甲側縁を切り取った際、特に重度の陷入爪の場合、側爪郭に深く刺さっているので爪が抜け出しづらいので、ナオルンニッパーで切った爪を人工爪ニッパーで引き出す時にも使用。

ブラシ（粉払い用）



ダストエアプロ
アをお勧めし
ます。（別売）
参照P.6
(HPにて)

商品説明

◆施術前の準備の際にヤスリやナオルンマシンで出た粉を払うブラシです。[P.9 作業5]

◆不用部分の爪を切った後の角質を払うブラシ

◆ヤスリの表面に付いた粉を払うブラシ（歯ブラシでも可）

◆ナオルンニッパーの刃先の汚れを取るブラシ

使用方法

◆ダストブラシ、ダストエアプロア（別売）（HPにて）

◆刷毛（はけ）の部分は一人終える毎にナオルンエタノールで消毒乾燥させて下さい。

◆参照 器具の消毒について [P.7]

※病院で粉がまきちらない様、エアースプレー・
フットダスト集塵機をおすすめします。

ヤスリ（粗目ヤスリ、細目ヤスリ）



オリジナルヤスリ
色が変わる時が
あります



細目ヤスリ（手爪用）
粗目ヤスリの後、細目ヤ
スリを使用
↓
手爪用光沢ヤスリ（別売）
光沢を出します（自宅
にて）

商品説明

◆目の粗さが一般販売されていないガラスフィラー専用ヤスリです。

◆粗目ヤスリ…ナオルン人工爪の為に作られた粗目のヤスリ。ナオルン人工爪の型や爪甲の表面を整える為のヤスリです。

◆細目ヤスリ…粗目ヤスリの後に人工爪の表面を滑らかにするヤスリです。（手用）

◆オリジナルヤスリなので色は変わることがあります。

使用方法

◆使用後は歯ブラシ等で粉を取りナオルンエタノールで消毒。

◆感染菌の方へ使った場合は廃棄する事。又はP.7 参照

注意 ◆人工爪の形を整える際、爪甲の周りの皮膚（側爪郭）を指で押し下げ、皮膚を傷つけない様にヤスリ掛けして形を整えて下さい。ヤスリのかけ方 参照 P.79 ~ 80

◆粗いヤスリはオートクレープが使用できますが、その後しっかりと乾燥させてからご使用下さい。ただし、もろくなりがちです
↓

ステンレス製のナオルン専用ヤスリ（別売）
オートクレープがご使用できます。

再発予防の為のナオルン人工爪での補助補正の仕方

■ 再発防止について（重要）

- A** ナオルン人工爪は（他社の商品も含めて）巻き爪、陷入爪の補正は**根治治療です**。原因の改善がない限り再発リスクは高くなります。軽度の方で原因を排除できた方は1回で完治します。
完治治療に向けてご指導をお願いします。
- B** 根治治療後（人工爪を外した後）巻き爪、陷入爪の原因が改善されそうにない方は、再発する場合があります。その様な方は事前に再発予防のための補助補正を行い再発を防いで下さい。
- 自爪は、ケラチンの性質があるため両サイドが自然に内側に湾曲をする性質があります。
 - 爪の物理的な性質の「粘弾性」という性質があり再発を起こしやすくなります。
- （例）●患者が巻き爪、陷入爪の部位を自ら爪を切るとそこから巻き、陷入し悪化します。→根治後、再発しても切らない様にお伝え下さい。
- 原因が改善されない限り、根治治療後にも再発する事があります。

〔再発を防ぐ為には〕〔根本的な解決に向けて〕

巻き爪、陷入爪はP.72の原因の特定と改善がなによりも大事です。原因の特定をし補正後（根治後）のご指導を続けて下さい。



完治治療に向けて

根治治療が終了した場合、痛みもなく通常生活が送れる為、改善、予防の説明をしても改善の努力をする方が多くありません。

その様な方は、再発しやすくなりますので、以下補助補正の施術を行って下さい。

再発をしても一度補正を行っていると**完治に向けての効果が出易くなります**。

- A式** ●少しの違和感や小さな痛みが出たら早めの来院（補正が簡単になる）
- B式** ●爪甲の巻き始め、陷入始めの場所は、患者様によりだいたい決まっています。前回の痛みを感じた場所●印の所まで伸びる前に来院してもらい、補助補正をして予防する方法。
- C式** ●自爪が爪甲の長さの1/3ほど伸びた時期に来院して補助補正を行う方法。
- D式** ●根治治療後、人工爪を外した後にすぐに予防する方法。

施術方法 ペンカルン+PPペストロ

■ [施術のコツ…薄く、薄くPPペストロを広げる事]

- ① P.9の施術前の準備を行う（自爪の上ののみ行う）
- ② ペンカルンを自爪の部分にだけぬる→ライト
- ③ 人工爪を取る（外す）際は、爪甲の上のナオルン人工爪を必ず少し残して外します。P.22参照
- ★④ PPペストロを少しだけ出して、ドライヤーの温風で熱を加え通常よりも、もっと柔らかくして使用する事。（柔らかくないと薄く薄く作れない為）
- ⑤ PPペストロを少しだけ薄く、薄く爪甲全体に広げて作り補助補正をします→ライト→終了 [特に側縁部重要]

- 原因が排除出来て完治に向かっている場合は、爪が伸びた時期に来院してもらい、完治の確認をする。
- 粗いヤスリで指先まで常に短くしてもらう事。
- 再発は患者様の巻き爪、陷入爪になる原因の排除がされていない事をお伝え、改善のご指導を行って下さい。

A式～D式を選んで再発予防を行って下さい。

ナオルンは
[根治治療です]

ナオルン人工爪
は根治後の再発
を予防できる唯
一の商品です

自爪の性質
(爪体)

再発の原因の
特定をする
改善予防

巻き爪、陷入爪に
なる最も多い原因ベ
スト4

- ①深爪、爪の両サイドを切る。
- ②足に合わない靴をはき続ける。
- ③足のアーチを崩してしまった方。
- ④白癬菌 etc. 肥厚爪



完治治療に向
け行う事 [原
因の改善]
[完全治癒]



原因の改善、予
防が出来ない方
はナオルンで事
前に補助補正を
し、再発を防
止します



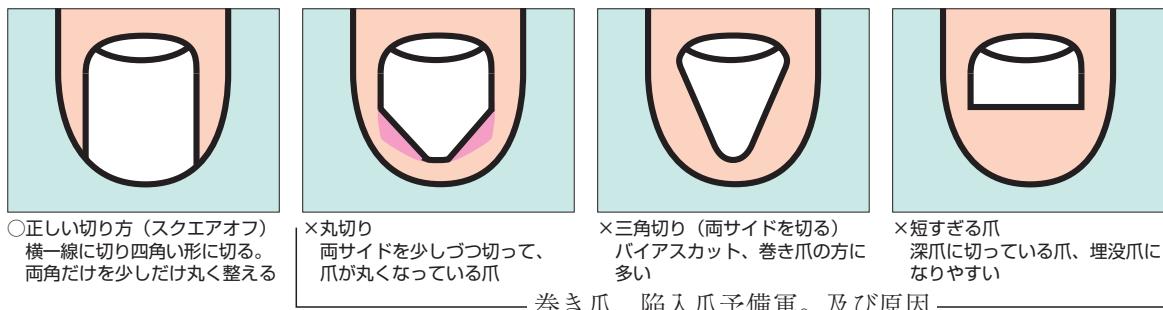
補術のしかた

原因が物理的に改善出来
ない方は、特にD式をお
勧めします

第6章 看護師用追加資料

間違った爪の切り方

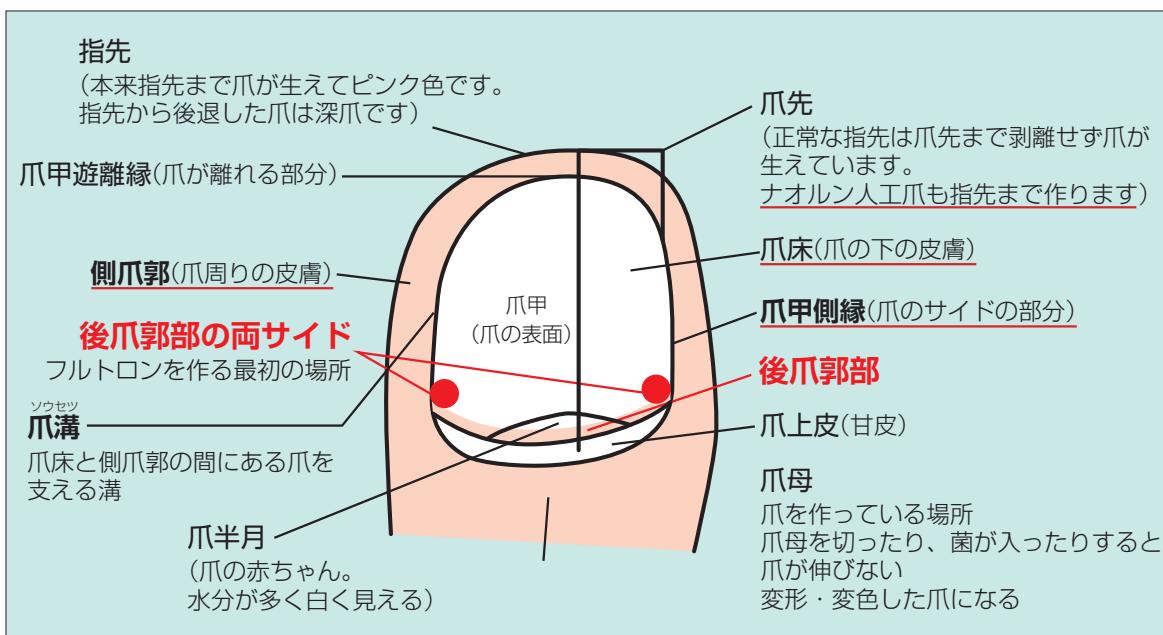
フットケアー学会では爪の切り方を重視しています。爪の切り方によって巻き爪、陥入爪になるからです。又、趾爪の伸ばしすぎも危険です。



趾指型3種による巻き爪・陥入爪になり易い趾爪

- ★ギリシャ型趾指：第2趾指（人差し指）が長く巻き爪、陥入爪になる。（欧米人に多い）
- ★エジプト型趾指：第1趾指の母趾（親指）が長く巻き爪、陥入爪になる。（日本人に多い）
- ★スクエア型趾指：趾指がほとんど同じ長さの指。どの趾指にも巻き爪、陥入爪になりうる。

爪の名称



巻き方…くい込み方の種類・型

- ・半月型 ゆるやかなカーブが皮膚に湾曲。（軽度の巻き爪）
- ・ピンサー型 全体的に湾曲、くい込んでいる。（中度の巻き爪）
- ・ホチキス型 カーブがホチキスの形でくいこむ。（軽度の陥入爪）
- ・ステーブル型 爪甲が爪床をつかむように湾曲陥入する。（中度の陥入爪）
- ・半ステーブル型 片側だけホチキス型に陥入。
- ・ストローネイル型 爪母から丸まって伸びてくる（湾曲100度）（爪母のトラブルによる） P.38 参照
- ・パイロット型 爪甲の途中から巻き始める。重度は爪先（湾曲80～100度）（重度の巻き爪、陥入爪）
- ・渦巻き型 爪を長くすると共に変形湾曲（重度の巻き爪）

★爪の成分	硬ケラチンを多く含む。(カルシウムを少し含みます) 水分量 12~16% 皮膚の角質(かかと等)は軟ケラチン。
☆爪とは	表面が角質化し硬化して板状の3層から成りたっている。もともと指の形に添う様に湾曲する性質を持っている。
☆趾爪の厚み	成人の方(20代) 親指…0.8~1.0mm 他の指…0.3~0.5mm (正常) ※男性は女性よりも厚みがあります。
☆爪甲の伸び率	爪の伸び率(30代男性) 手爪 1日 0.1mm 趾爪 1日 0.05mm 1ヶ月 3.0mm 1ヶ月 1.50mm ●男性の方がわずかに早く伸びる。 ●19歳までが最大。20歳頃…1日 0.1mm。 ●幼児は1日 0.05mmと非常に遅い。 ●年齢と共に遅くなり厚くなる。50歳頃からは伸びが劣る。 ●夏の方が早く伸びる。

■爪上皮(甘皮)について・爪上皮の切除について

爪上皮(甘皮)は、年配になるほど硬く広く多くなります。

- ◆男性や高齢者、爪変形の方等は甘皮が硬く多く広く生え、しっかりと爪甲に固定した様になります。固定された甘皮は爪の伸びを阻止して伸びない爪になります。マシーンの針状かオレンジスティックで取り除いて下さい。
- ◆若い方が爪が伸び易いのは、爪上皮が柔らかく少ない為でもあります。
- ◆甘皮を押し上げて、爪甲と甘皮を離すと伸び率が上がります。またナオルン人工爪が作りやすくなります。
- ◆ネイルサロンでは甘皮専用ニッパーで切り取り、新しい爪を早く伸ばす様にケアします。又、爪甲(爪)が広くなり、人工爪が作り易くなります。
- ◆爪上皮の上にナオルン人工爪をつくると、爪が伸びなくトラブルになります。絶対に爪上皮の上にナオルン人工爪を作らないで下さい。
- ◆爪の伸びが早いとナオルン人工爪の補正終了(根治治療)が早くなります。必ず爪甲と爪上皮は剥がして下さい。

■爪母について(手爪・趾爪)

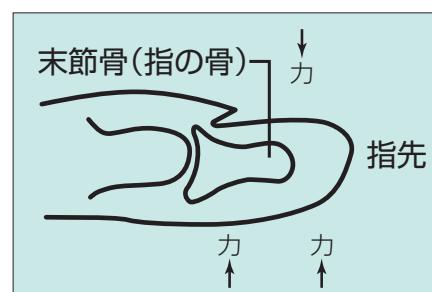
爪母は爪を作っている工場です。

爪母の外傷や菌の混入、様々なトラブルがあると、その後ほとんど普通のきれいな爪は伸びてきません。抜爪をしてもほとんど効果はありません。

重要

■末節骨の構造と働き(爪が伸びない方はナオルン人工爪は使用できません)

- 趾指の骨は全て指先の途中までしかありません。末節骨にトラブルがあると、そのトラブルに合った爪甲(爪)の変形が現れます。〔例:埋没爪、肥厚爪、鈎湾症、時計皿爪、ばち爪、巻き爪、陷入爪等etc.〕
- 拇指の末節骨は他の骨より先細りしている形状です。それに対して、拇指爪は幅が広く靴や他の原因で骨が支えられなく側爪郭が盛り上ります。爪の両端が湾曲しやすくなります。=巻き爪、陷入爪
- 運動面で蹴ったり歩行が安定しない等の障害が出て、爪が伸びない肥厚爪等の治り難い爪になります。痛みが酷くなり整形外科等の手術が必要な場合が多くなります。



上と下からの平等な圧力(力)が加わり平常な爪甲が保たれます。

注意 : 痛みの原因は①末節骨による爪のトラブルによるものと②巻き爪、陷入爪の痛みと大変似ています。伸びない爪の方は、末節骨による事が多くあります。この場合、巻き爪、陷入爪をナオルンで補正しても痛みがあります。→整形外科

重要 : 拇指の末節骨の先端は他より細いため、より巻き爪、陷入爪になりやすい。

末節骨のトラブルで変形爪だけの方はPPペストロのみできれいな爪の形にする。
半年に1度PPペストロをつけ加える……末節骨を直さない限り一生PPペストロで形をつくる事になります。

巻き爪と陷入爪の違い

★巻き爪（オーバーカーブドネイル）他ピンサーネイル

●軽度（湾曲爪）⇒重度爪…爪床を挟みながら湾曲する爪（挟み爪）

※軽度の場合あまり痛みを感じない。

◆爪甲が辺縁部で湾曲して、爪床の皮膚を摑む様に巻く状態。

◆爪周炎症は少ない。

◆重度の爪は円筒状の爪（重度 60～80 度）。巻き爪のトランペット爪が多い。

◆爪甲が「のの字」型に巻き込み持ち上がった状態。

★爪甲が遠位方法にしたがって内方へ湾曲が強くなり爪床が挟み込まれる。



原因 参照 P.72 巻き爪、陷入爪の原因

★混合爪

爪先が巻き爪で途中から陷入爪になっている爪。とても多い症例です。巻き爪と判断した 50% は混合爪です。

★陷入爪（イングローンネイル）

軟部組織に側縁部辺が爪に食い込む爪（刺し爪）

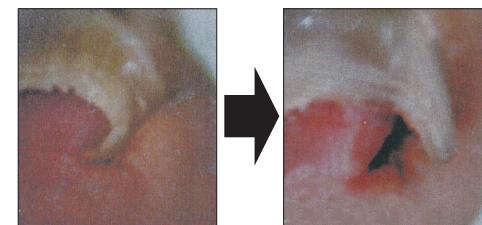
※軽度でも痛みが強い爪

●軽度…ホチキスの形で軟部組織くい込む爪

●重度…爪床を刺す様に爪床をまきこむ側縁部が軟部組織に刺しきい込みながら巻く爪。陷入爪のトランペットネイル

…くり返す爪先への負担が原因で、末節骨の背側に骨が増殖し骨の棘ができる事がまれにある。

原因…巻き爪と同様 参照 P.72



☆特徴

- 陷入爪は側爪縁が爪溝（爪床）にくい込み（両サイドの爪）が棘（トゲ）の様に軟部組織肉（側爪郭）に刺さり、炎症や肉芽形成をおこす。趾爪を短く深く三角切りにする方に多い。
- 軽度でも痛みあり。
- 中度や重度になると、感染や、炎症、肉芽を形成する。
- 軽度の陷入爪は巻いていないので普通の爪の角度に見える。しかし押すと痛い。重度の陷入爪は、下角質増殖で肥厚爪になることが多い。
- 刺し爪の状態で、痛みが強い。深爪に爪甲を切ると短く切った爪に余計な力が入り爪周囲が爪の代わりをして盛り上がり爪甲が埋もれる。埋没爪+巻き爪（陷入爪）。末節骨について参照 P.70
- 爪甲が陷入していないのに強い痛みがある場合は他の症状です。特に末節骨の場合が多い。
- 爪の切り方の間違い。（バイアスカット（三角切り）は皮膚の接合が無く爪が安定しなく余計に爪が陷入しやすくなる）又、両サイドの切り残しの爪がトゲとなり陷入爪となる。
- 爪周炎や、肉芽形成になりやすい。
- 軽度の場合、ホチキス型に食い込むが、重度の場合、内側に深く長く食い込む。

☆補正について

外爪縁が側骨間靭帯の延長上で趾尖部乗り越えさせる様に、ナオルンで強力に誘導して乗り越える様に補正して下さい。

☆陷入爪に間違え易い症例（補正は出来ません）

- ★・爪甲下軟骨腫………爪が巻いていない。爪が陷入していない。激痛あり。→整形外科
- ★・爪下外骨腫………爪が伸びません。→整形外科
- ★・末節骨のトラブル…痛みがあり爪甲の形が悪い場合があり、軽度の巻き爪、陷入爪と間違えやすい（ナオルンで補正しても爪甲全体が痛い場合末節骨のトラブルの疑いあり）

巻き爪・陷入爪になる原因 36 項目

- ①爪の切り方 間違った爪の切り方。特に三角切り。
- ②深爪 爪は内側に曲がる性質があり皮膚にくい込む。下からの圧力が大きくなり肉に爪が埋没する。
- ③靴の影響（形状） 横、縦アーチの崩れ。大きい靴、小さい靴、ハイヒール、足の指のつけ根をサポートしていない靴 etc.特に横アーチの崩れ。
- ④趾のアーチの崩れ 横アーチの崩れ。親指の側面で蹴り、爪がくい込む。外反母趾一かかとの骨が傾いてる為に、母趾が曲がる→巻き爪
- ⑤外反母趾等により軟部組織が厚くなり押され巻く サッカー、バスケットボール、テニス、バレエ、マラソン、陸上 etc.走って加速し全体重を逆方向へ切り返しの為。
- ⑥スポーツや仕事等による組織損傷 拇趾への大きな負担。日常的な衝撃 拇趾の末節骨が細く短いので下からの圧力が大きくなる為。
- ⑦体重増加（妊婦も含む）（肥満） 前傾姿勢になり上からの圧力が大きくなる為爪が受ける上下の圧力のアンバランス。
- ⑧くつ下の圧迫・サポート力が強いむくみ防止などのストッキング 横アーチの崩れにより爪周囲の肉が盛り上る。埋没爪 etc.
- ⑨自分での爪切りによる爪甲側縁の切り取り 切り取った側縁が肉側にくい込む。（小骨）
- ⑩切り残しの爪のトゲがくい込む。
- ⑪巻き爪、陷入爪の処置を他院などで爪甲の切除だけの処理 爪は湾曲をする性質があり、爪甲側縁を切りっぱなしにするとそこから巻き、陷入し悪化していきます。特に肉芽の形成が多い。
- ⑫偏平足（開帳足） 縦アーチの崩れ。趾指がうき指で歩いている。両足の偏平足一遺伝もある。片方だけ一加齢の原因もある。靴底の内側の減り。アーチの崩れ。
- ⑬爪甲の中の異物、汚れ 傷や雑菌が爪のトラブルをおこす。
- ⑭厚硬爪 浮き指、靴、歩き方などが原因で爪が伸びなく厚くなる。
- ⑮浮き指 爪が受ける上下の圧力のアンバランス。趾爪を使って歩いていない。
- ⑯腰を曲げての長時間の作業 趾指が曲って下からの圧力による。前傾姿勢、猫背、正座、蹲踞。
- ⑰爪白癬や他の菌による影響 ぶ厚くなった爪甲は上からの圧力が大きい為。乾燥して爪の弾力低下。爪の力が弱まり巻き爪などになりやすい。
- ⑱運動不足 歩くことにより趾指が地面に接地した時、下から上へと力が加わり爪が内側に曲がるのを抑える作業をする為、歩かないと（運動しないと）爪の曲がりを抑える下からの圧力がなくなる為。
- ⑲デスクワーク、事務職の方 片方に重力がかかり、杖をついていない方の爪が巻き爪、陷入爪になる。
- ⑳車での移動が多い方 小さな靴、大きな靴、足先の尖った靴、ハイヒール。
- ㉑寝たきりの方、車イスの方 かみ爪やさざくれ取りなどのクセが原因。
- ㉒杖をついている方 末節骨のトラブルにより爪の幅広・上向・埋没などになる為。
- ㉓クロートゥ・マレットトゥ・ハンマートゥ（ギリシャ型の爪に多い） 足趾の末節骨欠損などによる為。生まれつき。
- ㉔自傷による爪甲の変化 遺伝は滅多にないと言われますが、指の形、爪の厚さなど、遺伝により似る事があります。
- ㉕末節骨の形態異状（後天的） 美容師、クリーニング師など洗浄剤。
- ㉖末節骨の形態異状（先天的要素） 角質は削って常に清潔にします。角質が厚くなり爪が陷入します。臭いの原因にもなる。
- ㉗遺伝 爪の水分、油分が不足します。保湿を心がける。爪が厚く湾曲します。
- ㉘薬剤（仕事などの使用） 靴底のチェックを必ず行いましょう。ガニ股、内股で歩くとアーチを崩す為。すり足、O脚、X脚、etc.
- ㉙足まわりの皮膚が汚い、角質が厚い、爪まわりの角質が厚い 手足口病や病気の後遺症でなる場合あり。
- ㉚高齢者（加齢） 爪が割れるなどの外傷の場合。歩行時に皮膚が押し上げられ爪が食い込む陷入爪。その他の外傷も含む。
- ㉛正しくない歩き方（歩き方のクセ） 自爪の性質による。下からの圧力不足。
- ㉜病気の後遺症 爪が割れ深爪や圧力に負ける為。
- ㉝外傷（傷をかばう歩き方） 関節の骨がこすれ合い骨の部分が爪状に盛り上る。又は関節の間隔が狭い。スポーツをする方に多い。
- ㉞伸ばしすぎた爪 自爪が割れ深爪や圧力に負ける為。
- ㉟爪が薄く柔らかい爪 関節の骨がこすれ合い骨の部分が爪状に盛り上る。又は関節の間隔が狭い。スポーツをする方に多い。
- ㉞強剛母跡 関節の骨がこすれ合い骨の部分が爪状に盛り上る。又は関節の間隔が狭い。スポーツをする方に多い。

巻き爪、陷入爪の原因 で最も多い原因ワースト3

- 1 アーチの崩れの方
- 2 靴の選び方
- 3 爪の切り方、深爪の方

3本の足裏アーチについて

- 足裏には3本のアーチがあり、足裏に体の表面面積のたった10%で全体重がかかり、体全体を支えています。
- 足の裏に大きな三角形が描かれている印象です。
- 3本のアーチで加重を分散、吸収させてクッションの役目をはたしています。
- 1本でも崩れると巻き爪、陷入爪、他の足のトラブルになります。

横アーチ（前足部）

母趾の根元の中足骨から第5趾根元の中足骨までを結んでいるアーチ。横アーチが崩れると趾爪に加重されなく、巻き爪、陷入爪、モートン病、うおのめ、たこ、外反母趾、内反小趾 etc. になる原因の1つとなります。

外側縦アーチ

第5趾指、根元の中足骨からかかとをつないでいるアーチ。

内側縦アーチ

土踏まずから親指のつけ根をつないでいるアーチ



浮き趾指の調べ方

- 裸足で床に立つ
- 趾指の拇指、人さし指の指先が浮いている方 ↓
- 趾指の付け根にテープ又はソーターを使用すると趾指が床に着きますのでお勧め下さい。
- テーピング - 伸びる5cmのテープ1本を足の甲を強く巻き、足裏は軽く巻く。
- 足裏を内側に入れ込む様に巻く。

巻き爪、陷入爪の原因ワースト1・アーチ

横アーチ

- 趾指を広げたり第3関節（中足趾節関節）を曲げる働きをする筋肉。
- 親指と小指をつないだ指の付け根を横アーチと言います。
- 横アーチ筋（背側骨関節）は4本あり、中足骨という横アーチを構成する骨の間（第2趾～第4趾）までの関節に付着しています。正常ならば付着している両脇の中足骨を寄せしっかりと横アーチが弓状に盛り上がっています。
- 骨、軟骨、靱帯などの結合織が過度の負担から足を保護しています。

横アーチが崩れた場合と巻き爪、陷入爪との関係

- 足裏の前方中心部に赤みがかった皮膚、ウォノメ、タコができます。
- 弓状のアーチがなく、横幅が広がり趾指の筋肉・筋・靱帯が弱り、きつい靴や体重に潰され、巻き爪、陷入爪、外反母趾、内反小趾などになります。（扁平足）
- 趾指の真ん中の3本の指の付け根が地面に接していて指先が浮いている。
- 開帳足、浮き指、ハンマートゥになり、巻き爪、陷入爪の原因の1つです。
- 学生は大きいスニーカー、靴を履く方に多い。

横アーチの改善方法と予防方法

- 自分に合ったサイズの靴を選ぶ。
- 紐の付いた靴を履く。（足指の付け根をしめつける）

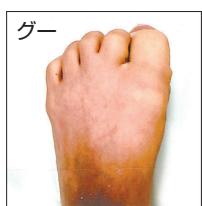
- ★1 ●後脛骨筋・靱帯・筋肉・筋を強化させます。(壁に手をつけ足を片方上げ、足首を伸ばす。(ストレッチ)
- ★2 ●インソールを使用します。(中足骨部にインソールで低下した横アーチを支える) (重要)
- マッサージを行います。(優しくふれる様にする事)
 - 趾指のストレッチを行います。
 - サポーターの使用 (重要)

趾指のストレッチ方法 …… 3ヶ月を1クールとします。

- 入浴中の筋肉、筋が柔らかい時に行います。 (1回5分目安)

①趾指でグーチョキパーを行う。

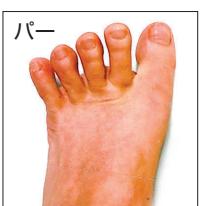
A 5本の指を丸める



B 親指だけを立てる



C 指を全て広げる



D グーパーグーパーを行う

②つま先で階段を上る

- ③かかとから着地して趾指に力が入る様に蹴る様に意識して歩く

④第3関節を優しくなでる様にマッサージをする。表・裏。

- 後脛骨筋などのストレッチ★1参照



横アーチが崩れる原因

- 誤った靴選び
- 運動不足
- 長時間の立ち仕事
- 足への負担
- 結合組織の遺伝
- 肥満による体重増加
- 歩く時のクセ (猫背・ガニマタ・片足に力をかける・荷物をいつも同じ片側に持っている)
- 足に合わない靴
- 正しい歩き方をしていない (横揺れ派、前後揺れ派 etc.)
- ハイヒールによる靱帯のゆるみ

正しい姿勢で歩き、自分の足に合う靴を履く事を心がける事。

- 横アーチサポーター、縦アーチサポーター、アーチサポーターをお買い求めの上靴を履く事をお勧めします。

巻き爪、陷入爪になる原因ワースト2・靴

靴…靴を変えなければ巻き爪、陷入爪は必ず再発します

ハイヒール・パンプス・先の尖った靴・大きい靴・小さい靴・趾指のつけ根にフィットしていない靴・ミュールなどかかとの支えのない靴 etc.

- 爪先が狭くなり趾指が圧迫・開帳足の原因になる。趾指の付け根に全体重が乗る事により、横アーチが崩れ、爪もつぶされ、巻き爪、陷入爪、外反母趾、内反小趾になります。
- ハイヒールは3cmが理想です。
- 靴の中で足が前すべりしないために足の甲にひもで結ぶ靴か、ベルトがついた靴を選ぶ。又うす型の中敷きを使用し前すべりを予防する。(趾指の付け根部分)
- 履いた時、指先が少し動かせる靴を選ぶ。
- 足の甲にフィットし少しきつ目の靴。

ビジネスシューズ（ひもベルトあり）（ひもなし）

- ひもベルトはきつ目に結び、指先の方から平行（パラレル）式で均等な力で足をホールドする様にひもを結ぶ。1日ゆるまない様に結ぶ事。
- かかと周りが固く、靴底が硬めで趾指の付け根に適度に圧力がある靴。

サンダル・ナースシューズ・ローファーシューズ

- 靴に調整機能がなく足に合いにくい。
- 指先が前方にすべり指先が出て下からの圧力がないので巻き爪、陷入爪になりやすい。

柔らかい靴

- 靴がソフトすぎるとしめつけが不足する。

捨て寸について（靴の先端の余裕）

ハイヒール・パンプス・ノーマル靴

- 先端の捨て寸が入ったサイズの靴を選ぶ。
- 買う前にお店を2周くらいしてフィットする靴を買います。
- 痛いと大き目の靴を買いますが、専用の中敷きで対応する事。

スニーカー・スニーカー型の靴・学校の上ばき（学生に多い巻き爪・陷入爪）

- 捨て寸が入っていません。
- かかとにしっかりつけ、靴を履き、先端の捨て寸は1cmほどの余裕のある靴を選びます。
- 甲の幅にフィットし、少しきつめの靴。
- 12才まではつま先の捨て寸は7mm～8mm。
- 成長を見すえて大きなスニーカーを買う場合が多く見られます。

その他の原因予防

- ※ 靴の選ぶ基準 ・足の長さ ・足の幅 ・太さ（足囲）をクリアした靴を選ぶ事。
- ※ 親指に力が入る様、意識して歩く
- ※ 踵をつぶして靴を履く事は絶対にしないで下さい。
- ※ 補正終了後の自爪をしっかり保湿し、ボディクリームなどをぬり、爪を柔らかく水分を保つ事。
- ※ 夏用、冬用の靴を用意する事。靴下の厚みにより変化する為。
- ※ 末節骨や爪が下からの圧力と上からの圧力で正常な爪を保っています。
- ※ 上・下からの圧力のバランスが乱れると巻き爪、陷入爪、外反母趾などが発生します。
- ※ 靴を履く時、踵にしっかり合わせて履く事。
- ※ 運動不足、事務職、デスクワーク、車での移動が多い、杖を使用、車イス、寝たきりの方などにも巻き爪などが多く発生します。
- ※ 趾指の付け根にあたる一番幅が広い甲の部分の甲をしっかりとつみこむ靴を選ぶ事。
- ※ 大きな靴は親指に圧力がかからず歩くので巻き爪などを引き起こす。●厚硬爪。
- ※ 小さい靴は指の付け根をこわし、又指先を両サイドから圧迫され、指先が靴に当り、鍵状になり、巻き爪などを引き起こす。●ハンマートウ ●厚硬爪
- 糖尿病爪
指先が当る部分に柔らかい素材を使った縫い目が少ない靴。
- リウマチ爪
変形した足に合うよう、靴の中や靴底を補正します。

歩く時の姿勢と体重のかけ方による巻き爪、陷入爪の調べ方

- 裸足で床に立ち拇指が平行ではなくどちらかに傾いている拇指の方。
↓
- 荷物をいつもどちらかの方で持っている。
- 靴底がへっている靴を履いている。etc.
- 正しい姿勢で立って（歩いて）いない。
- かかとから着地して拇指で地面を蹴り上げる歩き方をしていない

爪の症例【巻き爪、陷入爪・度数表と各特徴について】

巻き爪の種類（基本）

- Ⓐ巻き爪…（湾曲）（挟み爪）
- Ⓑ陷入爪…（刺し爪）
- Ⓒ巻き爪+陷入爪…（混合爪）爪先が巻き爪、途中から陷入爪になっている爪
※ 60%～70%が陷入爪でありするどい痛みあり。
食い込んでホチキスのように刺さっているので不用部分の爪は上向に引っ張るように力を入れて抜き出す事。小骨はしっかり切除、再発します。



1 正常 10～30度

2 軽度 40～50度

巻き爪は爪甲が指先方面に伸びるにしたがい
軽い湾曲。

●巻き爪湾曲【半月型】ゆるやかなカーブに両端が湾曲する
爪床部を挟む様に内側に湾曲して伸びていく爪。
靴を履くと痛む。

●陷入爪（刺し爪）【ホチキス型】
爪甲側縁先端が側爪郭の軟部組織に縦に食い込む爪。
軽度でも強い痛みあり。
初期は軽いホチキス形が多い。



3 中度 60～70度

巻き爪は歩行の際に痛みあり。中度の湾曲。
靴の両サイド、下からの圧力により爪床部の
中央が盛り上る爪。

●巻き爪（湾曲～挟み爪）【ピンサー型】全般的に巻いている爪
爪床を巻き挟む様に中央部が盛り上がり、丸い円筒状になる爪。

●陷入爪（刺し爪）【ステークル型…ホチキスの形で食い込む型】
【半ステークル型…片方のみホキチス型に食い込む型】
軟部組織に縦から食い込み、爪床部を刺しながら挟み込むホチキス形になる爪。



4 重度 80～100度

軟部組織、爪床を刺しながら巻く。殆ど丸く爪が巻いている。

●巻き爪

爪床を挟んだ爪甲が丸い形の円筒状の爪。（渦巻き型）（重度のピンサー型）

巻き爪のトランペット爪（爪の中ほどから先が極端に湾曲する爪）、のの字に巻く爪 etc.（爪の伸ばしすぎによる）

側爪郭の肥厚が多い。

ストローネイルは爪母のトラブルによる。完全には補正することができません。（ナオルンだけでは完治しません）
フェノールなどと併用して下さい。



ストローネイル

●陷入爪（刺し爪）

陷入爪のトランペットネイル。（爪の中ほどから先が極端に陷入する爪）

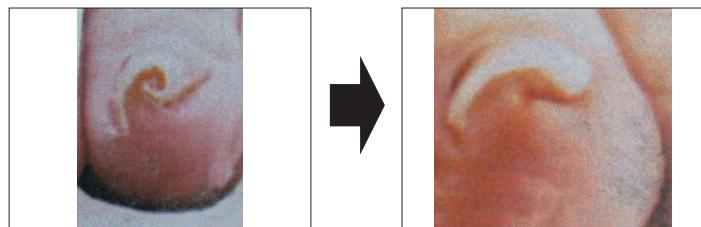
激痛あり。損傷部に慢性の刺激の為、細菌感染。

爪郭部の（爪の両サイド、指先の先端）が肥厚している。

肉芽形成の重度の併発。

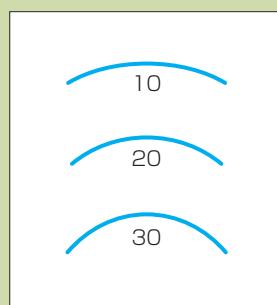
5 混合爪

- A ● 1趾の爪で巻き爪と陷入爪が併発している爪
B ● 爪先が巻き爪で途中から陷入爪になっている爪

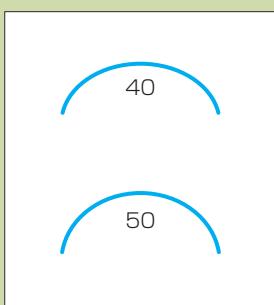


- 爪先が巻き爪で徐々に陷入爪になっている爪。とても多い症例です。
- 左右が巻き爪と陷入爪に分かれている爪。症例はとても多い。長さ、爪甲から剥離している爪は全て切除する。
- 最後にゴム製の軽いラバシンで左右対称に厚みを作る。
- シールンの使い方を工夫する。又は片方だけシールンが必要ない場合あり。
- 自爪の長さはできるだけ短くする事。
- 小骨が残る例があるのでしっかり小骨を切除する事。

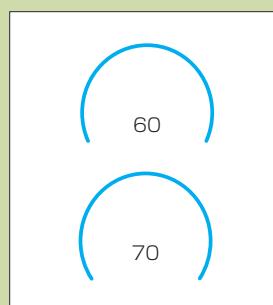
巻き爪、陷入爪、度数表



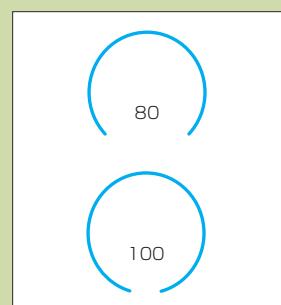
正常 10～30度



軽度 40～50度



中度 60～70度



重度 80～100度

Q&A

抜爪とフェノールについて

肥厚爪や厚硬爪。爪幅が狭くなるなど症状が出ることがあります、それぞれ特徴があります。爪の症状にあった治療とナオルン人工爪を併用して下さい。

アクリル人工爪とナオルン人工爪の違い

アクリル人工爪は、筆で作るので難しく細かい作業がしづらい。自然に急に固まるので終了する前に固まってしまう。

アクリル樹脂で出来ているので除光液、アセトンにとける。

アクリル樹脂は作る時空気が入りやすく取れやすい。

臭いがきつい。筆がすぐ固まってしまう。パウダーとリキッドの分量が分かりづらい。

※ナオルン人工爪はアクリル樹脂からガラスフィラー、ゴムフィラーにした世界初の商品です。

(ジェルネイルではありません) ナオルン専用の光で硬化させます。巻き爪、陷入爪の補正の原理はアクリル人工爪とほぼ一緒です。

神経ブロックにアレルギーを持っている方

趾基部にチューブをきつく巻き、趾指を氷を入れたビニール袋で冷し、趾指を麻痺させて施術を行います。

(使用) コールドスプレー、経皮麻酔テープ、ペンレステープ、キシロカインゼリー(スプレー)、リドカインテープ、ゼリー

巻き爪や陷入爪を自分で爪切りで切っている患者の爪の特徴

痛みが一時的になくなるので自分で処理をしている方が多いのが現状です。(三角切り)

しかし、このやり方が巻き爪、陷入爪をすぐに重度にしてしまう原因です。

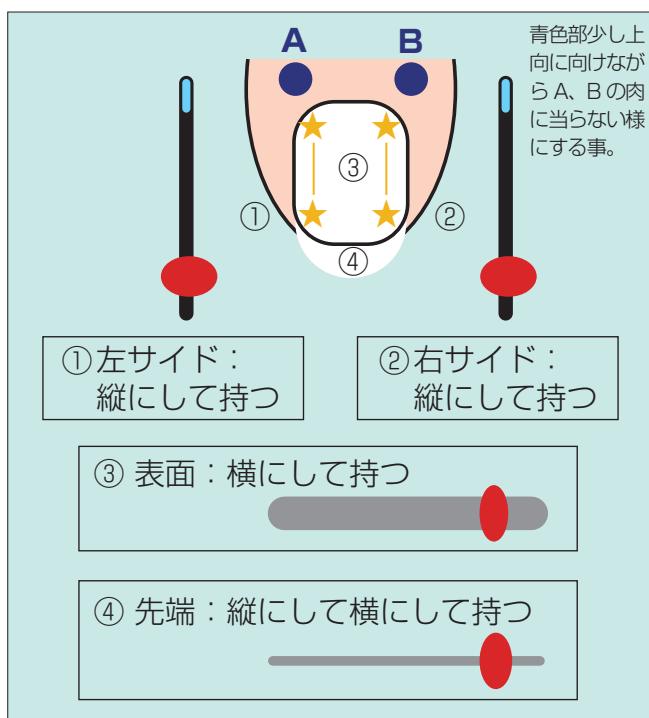
理由 爪の伸び方の特徴は、①横に湾曲する ②伸ばした爪は下向きに伸びます。爪の両サイドを切ったままにすると、伸びた爪はますます内側に湾曲して軟部組織に食い込んで伸びます。すぐに肉芽になってしまいます。爪の幅がどんどん狭くなっていく。

自費診療の目安について (全国平均数値)(各メーカーの値段の違いにもより金額の差はあります)

- 大学病院でも自費診療で診療している病院が多くなりました。又、爪外来も多くなりました。ただしほとんどが基本自費診療です。
- 保険と自費診療を分けたり etc. をなさっている先生もいらっしゃいます。ブロック注射をした場合は手術となります。
- 基本ナオルンはワイヤーの初回の治療費を目安にしていますが(7,000円~15,000円)(ワイヤー1本4,000円~6,000円。平均3~4本使用)最終的にはワイヤーよりも安い治療費となります。(平均費用)
★ワイヤーの場合、何本もつけ替えが必要です。総合すると高い治療費になります。(約半年間で¥35,000)(プラス半年(合計1年)位かかります)(1回につき2,000円~6,000円)
- フェノール法(保険適応)3割負担で約8,000円+診療料+処方箋が必要です。
- 巻き爪クリップは爪甲の薄い方で爪の形がスクエアオフの方のみ使用できます。(クリップ1個6,000円~8,000円)付けかえが必要となります。
- ナオルンは、ほぼ1回で補正できますので、治療費で比べると1番安い診療費です。又、ワイヤーは爪が伸びないと使用できません。
- 地域性、土地柄、などがありますのであくまでナオルンの自費診療は目安です。
- 東京の病院(例:神経ブロック・肉芽処理・ナオルン包帯、巻き爪(陷入爪補正)で30,000円ほどとなっている様です。(所要時間30分~40分)
- 2回目からの補正はとても短時間で出来ますので、お安くしている病院も多くあります。
- 美容整形では中度の巻き爪、陷入爪で1趾50,000円の様です。
- ご質問などございましたら何とぞご連絡下さいませ。(技術部 03-6750-2306)
- ナオルンは絶対に取れない商品です。**(ペンカルン(カルン)の施術をしっかり行って下さい)

ナオルン人工爪のヤスリの持ち方とヤスリのかけ方

◆ 「●」は持つところ。ヤスリは主に中心部を使います。



ガラスフィラーに合わせた粗さのオリジナルヤスリです。一般的には販売された事のない粗さです。

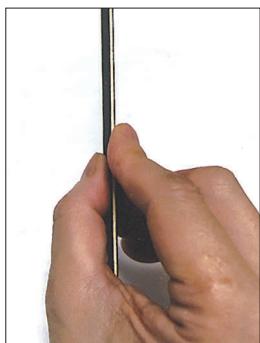
ヤスリの持ち方

ヤスリは端●を持ちヤスリの中央部を使う。

ステンレス製ナオルンヤスリ(別売)

人工爪の両サイド 写真は見やすくする為人工爪ではなく自爪で表現しております。

図①、②



図④-1 人工爪の指先の先端の（皮膚）内の押し方。逆さき手（親指）



(見やすくする為自爪の写真です。
本来はPPペストロが作り終了している状態です) →ラバシン

図③ 人工爪の表面



(ほとんどの場合必要ありません)

図④-2 きき手にやすり。肉に当らなくする事



Ⓐ逆さき手の自分の親指で趾指先の先端の肉を押しながらヤスリで削る。
Ⓑ肉を押している自分の指や爪にヤスリを当てて患者様の肉にヤスリを当てない事。

趾指の持ち方

逆きき手全体で趾指を軽く握ってヤスリを使用する。(両サイドのヤスリの使用法) 左右のヤスリが終了するまで軽く指先で握っている事。

1 図①、②の両サイドのヤスリのかけ方

- 右側のサイドのヤスリは★と★にあわせて縦に削り形を整える。(逆きき手の中指で右側のまわりの肉を押し下げて行う) 側爪郭にヤスリをあてないで削る事。ヤスリが当ると角質の硬い方は切れ易くなる為。
- 左側のサイドのヤスリは★と★にあわせて縦に削り形を整える。(逆きき手の親指で左側のまわりの肉を押し下げて行う)

注意…サイドのヤスリをする時、図A●、B●の肉が盛り上がってます。ヤスリの上部の部分を少し上に向く様にして(持つ所①、②は少しだけ下向き)ヤスリをします。A●、B●を傷つけないで下さい。

2 図④の爪先の先端のヤスリのかけ方

人工爪は指先ギリギリまで作って下さい。

- A 逆きき手の親指で写真④-1、④-2の爪先の先端の肉を押します。(押し下げないとヤスリが皮膚に当ります) 写真④
- B 図④は親指で押しながら、指先の肉を押しヤスリを縦にして横に平行に持ちます。そして先端の人工爪を削ります。
- ★ 図①②④の裏の人工爪を見て下さい。段差があつたりきれいに整えていない時は人工爪の裏側をヤスリかマシーンの針状で整える事。→〈原因〉シールンの取りつけ方
- C 爪先の両サイドの角を少し丸みを出し角を少し削ります。

3 図③の人工爪の表面のヤスリのかけ方 普通は必要ありません

PPペストロでライトを当てる前に少しのエタノールで表面の段差を無くしていますが、気になる場所があった場合③のヤスリをします。

図③の様にヤスリを持ち削ります。(マシーンの円柱状でも可)

(注意) 同じ所を何回も削ると熱が出て患者様が熱く、痛く感じるので、少しづつ行って下さい。マシーンでもヤスリでも熱は出ます。気をつけて爪甲の場所を変えながら行って下さい。

補足 ●爪の形は、患者様の好みにするには、ご自分で行ってもらって下さい。(又はネイルサロンなど)

●ナオルンヤスリは粗くナオルン専用ヤスリです。患者様にヤスリを買っていただくと便利です。同じ様なヤスリでも日本では販売されていない粗さです。又ナオルンマシーンも患者様に好評です。

★●【女性の方】ナオルン人工爪は除光液にもアセトンにも溶けません。PPペストロで終了すると、ネイルサロンでのジェルネイルや、自宅にて光沢を出しアートも出来ます。(補正力は弱まります)

●手爪のトラブルの際は透明フルトロン、透明PPペストロをお勧めします。

■ テーピングの仕方 4種類

- 側爪郭（爪の周り、指先先端）の皮膚の盛り上がった爪、埋まった爪の際には、テーピングをすると不用部分の爪が切り易くなります。

重度の場合、側爪郭部（爪の両サイドの肉）と指先の先端の肉が盛り上がり、爪が埋まってしまい、自分の手の親指で盛り上がりを押しても見え辛く又切り辛い時があります。爪と肉が離れる様に、テーピングをすると人工爪が作りやすくなります。**（爪溝を広げて下さい）**

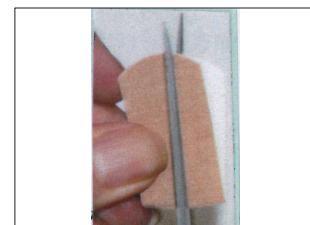
- テーピングをした上にシールンを取りつけます。
- テーピングは人工爪のヤスリがけ全て終了した後はずします。

先生の施術にて行って下さい。

☆テープA [2.5cm幅の弾性テープを6cmの長さに切って1本のみ用意]

軽度の盛り上り

- 1 テープを2つに折る。
- 2 テープの中央から縦方向に1cmハサミで切り込みを入れる。
- 3 その切り込みから指の爪を出して爪先の両サイドの下にかませる。
- 4 指先部分は下に下がる様に、両サイド爪ギリギリに肉と爪を離れさせ指の腹の方向に引っ張りながらまきつける。



☆テープB [幅2.5cmの3本の長めの弾性テープを用意]

重度の盛り上り

- 1 一本で右サイドの盛り上がりの肉を押し下げ、足底側に引っ張り固定。
- 2 もう一本も左サイドの肉を離す様に引っ張り固定。
- 3 指先部分の盛り上がりの肉を3本目のテープをできるだけ爪先の爪の下になる様に皮膚を下げ、足底側に引っ張り止める。

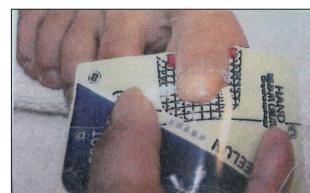


☆シールンを使うテーピング方法 [シールンの手爪用を使う]

軽度

シールンを使って趾爪の周りの盛り上がった皮膚を下げる方法…。

- 1 シールンを横に強く折る。(手用のライン)
- 2 爪の幅に合わせて普通のハサミで縦に切る。(深く長く切る事)
- 3 爪先のラインに合わせナオルンシザーで円形に切る。
- 4 シールンの裏紙をはがす。
- 5 爪先にシールンを合わせて
 - ①両サイドの盛り上り
 - ②指先の盛り上りの皮膚をいっきにシールンで押し下げる。
(盛り上りの皮膚ができるだけ下に向け固定)
- 6 シールンのテープの粘着を全てしっかりと貼り合わせる。



シールンの● ●をセロテープで指を巻くとより協力になります。

☆フィンガーサックを使う方法 (特に指先、趾先の先端の盛り上り)

手爪の場合にお勧めしています。

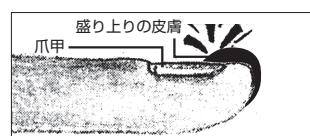
★シールンは不要になります。

フィンガーサック 趾爪トラブル・手爪トラブルに使用

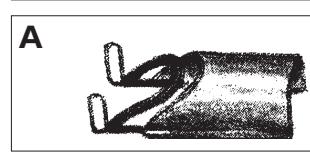
- 側爪郭部、特に指先の先端の皮膚を押し下げるのに便利です。
- 手爪の場合はぜひお使い下さい。

※針金が折れない限り、長期間使用できます。(別売 3,500 円)

- 1 テーブルの上においてたまま白い止め金を立てる様に折り上げて下さい。図A



- 2 サックの針金を後方に移動させて下さい。図B



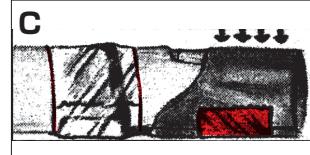
- 3 爪先に合わせてフィンガーサックを取りつける。



- 4 はね返ってくる位の盛り上りの皮膚はセロテープで①を止めます。②も下の部分だけに短いセロテープで左右をとめる。図C

※針金が折れない限り、長期間使用できます。(別売 3,500 円)

■手の爪を指先よりも長く人工爪を作りたい時にも使用。



コストと自費診療の目安

■ ナオルンセット (JP)

※施術後は必ずナオルン BOX にて
保管して下さい。



長期保管の場合
単品商品説明
参照 P.62 ~ 67

178,000 円 + 消費税 + 送料 850 円

■ 平均的なコスト(単価)と自費診療の目安 P.78 参照 自費診療の目安について

単 価	自費診療 ※全て平均的な金額です。詳しくはご連絡下さい。 (初診料など別途)
巻き爪 陷入爪	
(軽度) 1趾 一箇所 115円~	10,000円~ 2回目からの補正2000円~。再診1回で終了の場合あり
二箇所 140円~	15,000円~
(中度) 1趾 一箇所 140円~	15,000円~
二箇所 160円~	18,000円~
(重度) 1趾 一箇所 200円~	20,000円~ 左記料金×再診植え足し平均4回
二箇所 250円~	25,000円~
他 + 肉芽処置費用 + 神経ブロック費用	
肉芽形成処置 300円~	25,000円~ (神経ブロック込み)
硬い包帯代りの処置 200円~	3,000円~
剥がれ爪	5,000円~
再診の自爪の植え足し 50円~	2,000円~

- ナオルンは2回目からの消耗品のご注文を2~3日でお届け致します。
- ご注文の際は、次頁のオーダーシートをコピーしてご使用下さい。(FAX)
(代引き or 振り込み) 商品代金 + 消費税 + 全国均一送料 850 円
- また、SHOP ホームページ、メール、お電話でもご注文を承ります。
- 業者を通じての販売もしております。(支払日、各業者様対応)

- NAORUNホームページ : <http://naorun.co.jp/>
メール : shop@naorun.co.jp
- 施術についてのお問い合わせ AM7:00 ~ PM21:00
注文メール・電話番号 : kamei@naorun.co.jp 03-6750-2306

商品の詳細、オプション商品を多数揃えています。SHOP ホームページをご参照下さい。